

FMV-BIBLO

MC 23

本体
&
オプション
ガイド

初めてお使いいただくときに必要な操作と、
添付品やオプション機器の使いかたについて
説明しています。梱包物を確認したあと、
まずお読みください。

FMV-BIBLO



B3FH-5151-01

● 最初 に行う 作業

● 本パソコン の取り扱いかた

● オプション 機器を使う

● ハードウェア 環境を設定する

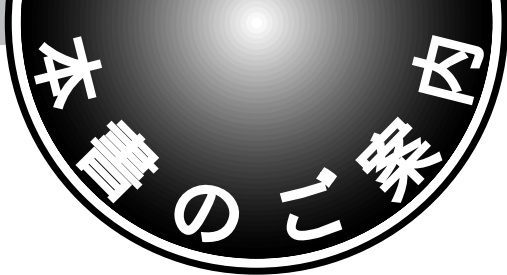
● 困ったときには

● 仕様一覧

● 付録

● 索引

FUJITSU



このたびは、FMV-BIBLO MC 23（以下、本パソコンと表記します）をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

本書では、本パソコンを初めてお使いいただくときに必要な操作と、本パソコンや添付品、オプション機器の使いかたなどについて説明しています。本書をよくお読みになり、正しくお使いください。また、本書およびその他のマニュアルは、大切に保管していただきますようお願いいたします。

本書が、みなさまのお役に立つことを願っております。

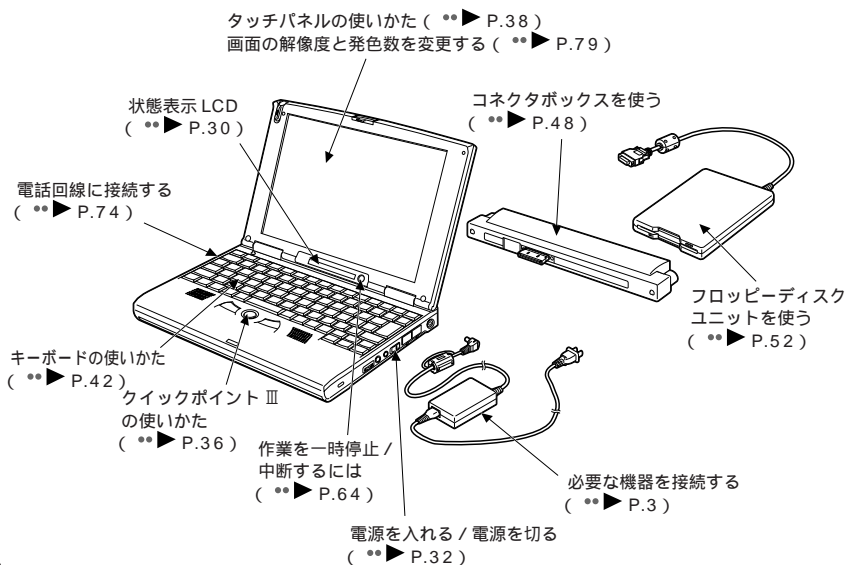
1999年1月

最初に行う作業

本パソコンを使い始めるときに必要な、Windowsのセットアップについて説明しています。（**▶P.1）

本パソコンの取り扱いかた

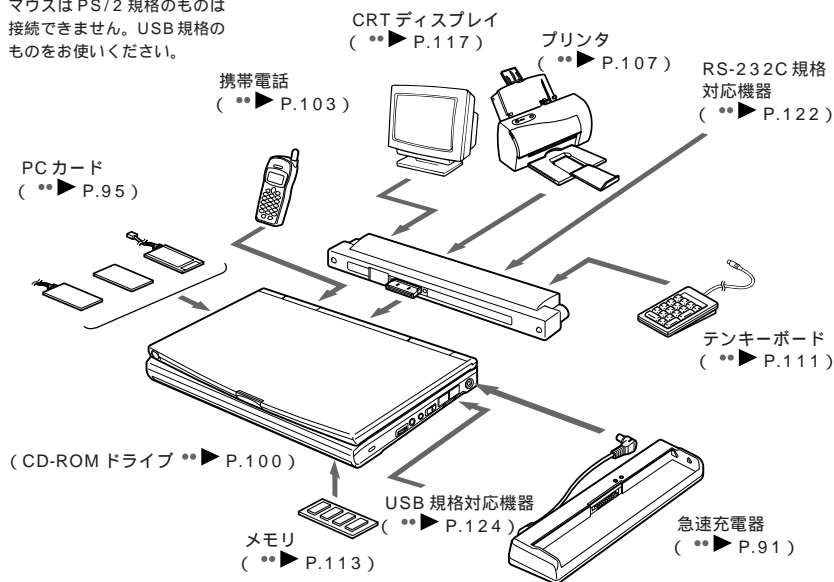
本パソコンの基本的な取り扱いかたについて説明しています。



オプション機器を使う

別売のオプション機器の取り付けかたなどを紹介しています。

マウスは PS/2 規格のものは接続できません。USB 規格のものをお使いください。



ハードウェア環境を設定する

BIOS セットアップの操作方法や設定内容、パスワードの設定方法について説明しています。通常お使いになる範囲では、これらの操作は必要はありません。(**▶ P.127)

困ったときには

「パソコンが動かない」、「エラーメッセージが表示された」など、トラブル時の対処方法について説明しています。(**▶ P.175)

安全にお使いいただくために

- 添付の冊子『安全上のご注意』には、当製品を安全にお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に『安全上のご注意』をご熟読ください。
『安全上のご注意』をよくお読みになり、ご理解されたうえで本パソコンをお使いください。また、『安全上のご注意』は、本パソコンをお使いになるときいつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。弊社は、お客様の生命、身体や財産に被害を及ぼすことなく安全にお使いいただくために、細心の注意を払っています。本パソコンをお使いになる際は、マニュアルの説明に従ってください。
- 本パソコンには、当製品を安全にお使いいただくために、警告ラベルが貼付されています。

この装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会が定める高調波ガイドラインの適用対象外です。

本パソコンの使用環境は、温度 5 ~ 35 、湿度 20 ~ 80% です。また、保存環境は温度 - 10 ~ 60 、湿度 20 ~ 80% です。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。



国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化促進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(energy star)は、参加各国の間で統一されています。

保証書について

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください(詳しくは、保証書をご覧ください)。
- 修理を依頼されるときには、必ず保証書をご用意ください。
- 本パソコンの保守部品の供給期間は、製造終了後6年間とさせていただきます。

使用許諾契約書

このたびは、富士通株式会社(以下弊社といいます)製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。弊社では、本パーソナルコンピュータ(以下本パソコンといいます)にインストール、もしくは添付されているソフトウェアをご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただけますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの特定ソフトウェアに関する「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件



1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において同時に1台のコンピュータでのみ使用できます。
なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1式の予備用(バックアップ)媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
 - 1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2」および「3」の場合に限定されるものとします。本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用(バックアップ)媒体以外には複製は行わないでください。ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
 - 2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、お客様は本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェアを第三者へ譲渡する場合には、お客様が保有する本ソフトウェアの複製物のすべてを破棄するか、本ソフトウェアとともに第三者に譲渡してください。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルを伴うリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. アフターサービス(保証の範囲)
 - 1) 弊社は、お客様が「ユーザ登録カード」を弊社宛にご返送いただいた場合、本パソコンをご購入いただいた日から1年間、本ソフトウェアの改訂版(レベラップ版等)に関する情報等をお知らせいたします。
 - 2) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥(破損等)がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から90日以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
 - 3) 弊社は、前各号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害(逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失、その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします)に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
 - 4) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は弊社が行う上記1)および2)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

富士通株式会社




本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について



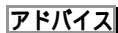



下の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

 警告	 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



また、危害や損害の内容がどのような種類のものかを区別するために、上記の表示と同時に次のような記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意を促す事項があることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容を示す絵(左の例の場合は感電注意)が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為(禁止行為)であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容を示す絵(左の例の場合は分解禁止)が示されています。
	で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容を示す絵(左の例の場合はACアダプタをコンセントから抜いてください)が示されています。

その他の記号について

	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作する前に確認していただきたいことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。
	ご覧になっていただきたいマニュアルや、参照先を記述しています。

画面例および入力例

- 表記されている画面は一例です。画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列(コマンドライン)などには、入力例の文字上に  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。
`dir c :`
この場合は、「dir」と入力したあとに  (スペースキー)を1回押し、続けて「c:」と入力してください。
- 表示されている画面例は、1999年1月現在のものです。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system	Windows または Windows98
Microsoft® WindowsNT® Workstation Operating System Version4.0	WindowsNT4.0
Microsoft® MS-DOS® operating system Version 6.2/V	MS-DOS
Microsoft® IME 98	MS-IME98
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan

機種名の表記について

FMV-BIBLO MC 23 を、本パソコンと表記しています。

目次

本書のご案内

本書の表記について

第 1 章 最初に行う作業

1. 作業の流れと必要なもの 2
作業の流れ 2
作業に必要なもの 2
2. Windows のセットアップをする 3
必要な機器を接続する 3
電源を入れてセットアップする 5
3. タッチパネルとモデムのドライバの更新 12
タッチパネルドライバの更新 12
モデムドライバの更新 14
4. リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー 17
リカバリ CD-ROM 起動ディスクをコピーする 17
添付の CD-ROM とフロッピーディスクは大切に保管してください 19
5. 本パソコンのユーザー登録 20
ユーザー登録を忘れずに 20

第 2 章 本パソコンの取り扱いかた

1. 各部の名称と働き 24
本体前面の操作箇所 24
本体左側面の操作箇所 26
本体右側面の操作箇所 27
本体背面の操作箇所 28
本体下面の操作箇所 29
状態表示 LCD 30
2. 電源を入れる / 電源を切る 32
電源を入れる 32
電源を切る 33
3. クイックポイント の使いかた 36
クイックポイント III の働き 36
クイックポイント III の使いかた 37
4. タッチパネルの使いかた 38
タッチパネルの働き 38
タッチパネルの使いかた 39
タッチパネルの調整のしかた 40

5.	キーボードの使いかた	42
	キーの配列と機能	42
	テンキーモードの働き	42
	主なキーの使いかた	43
6.	文字入力のしかた	46
	日本語を入力できる状態にする	46
	ローマ字入力とかな入力の切り替え	47
	入力モードを切り替える	47
	文字の種類を変える	47
7.	コネクタボックスを使う	48
	コネクタボックスの各部の名称と働き	48
	コネクタボックスを取り付ける	49
	コネクタボックスを取り外す	50
8.	フロッピーディスクユニットを使う	52
	フロッピーディスクユニットを取り付ける	52
	フロッピーディスクユニットを取り外す	53
	フロッピーディスクユニットの注意事項	54
	使用できるフロッピーディスク	55
	フロッピーディスク取り扱い上の注意	56
	フロッピーディスクをセットする / 取り出す	56
	フロッピーディスクユニットのお手入れ	58
9.	バッテリーで使う	59
	バッテリーを充電する	59
	バッテリーの残量表示を確認する	61
	バッテリー取り扱い上のご注意	63
	作業を一時停止 / 中断するには	64
	節電の設定を変更する	68
10.	電話回線への接続と所在地情報の設定	72
	接続前の確認と準備	72
	電話回線に接続する	74
	所在地情報の設定と切り替え	75
11.	画面の解像度と発色数を変更する	79
	表示できる解像度と発色数	79
	解像度と発色数を変更する	80

第3章 オプション機器を使う

1.	オプション機器を使用するには	86
	使用できるオプション機器の種類	86
	ご購入時に気をつけること	87
	オプション機器のデバイスドライバについて	88

2.	オプション機器の活用例	89
	今日の出張に持って行こう！(外で使う編)	89
	出張のまとめは今日中にやっておこう(家で使う編)	90
3.	急速充電器を使う	91
	急速充電器の使いかた	91
	バッテリーパックを交換する	92
4.	PCカードを使う	95
	PCカードのご使用上の注意事項	95
	使用できるPCカードの種類	96
	用意するもの	96
	PCカードを本体にセットする	97
	PCカードを取り出す	98
5.	CD-ROMドライブを使う	100
	専用PCカードが添付されている場合	100
	市販のSCSIカードと組み合わせて使う場合	101
6.	携帯電話やPHSを使う	103
	PDCコネクタを使って接続する	103
	接続用のPCカードを使って接続する	105
7.	プリンタを使う	107
	用意するもの	107
	プリンタを接続する	108
8.	テンキーボードを使う	111
	テンキーボードを接続する	111
9.	メモリを増やす	113
	拡張RAMモジュールを交換する	113
	メモリの容量を確認する	116
10.	CRTディスプレイを使う	117
	用意するもの	117
	CRTディスプレイを接続する	117
	表示装置を切り替える	119
	CRTディスプレイで表示できる解像度と発色数	121
11.	RS-232C規格対応のオプション機器を使う	122
	シリアルコネクタの接続のしかた	122
12.	USB規格対応のオプション機器を使う	124
	USBコネクタの接続のしかた	124
13.	外付けのハードディスクを使う	125
	用意するもの	125
	作業の流れ	126

第 4 章 ハードウェア環境を設定する (BIOS セットアップ)

1. BIOS セットアップが必要なときは 128
BIOS セットアップが必要になるのは 128
2. BIOS セットアップの操作 129
BIOS セットアップを開始する 129
設定を変更する 130
変更を保存して終了する 132
3. ご購入時の設定内容 (標準設定値) に戻す 134
標準設定値に戻すには 134
4. 設定項目の機能の一覧 136
「メイン」メニューの項目 136
「詳細」メニューの項目 137
「セキュリティ」メニューの項目 138
「省電力」メニューの項目 139
「起動」メニューの項目 140
「情報」メニューの項目 140
「終了」メニューの項目 141
5. 各メニューでの設定内容の詳細 142
「メイン」メニュー 142
「詳細」メニュー 146
「セキュリティ」メニュー 155
「省電力」メニュー 159
「起動」メニュー 165
「情報」メニュー 167
「終了」メニュー 168
6. BIOS のパスワード機能を使う 169
パスワード機能について 169
パスワードを設定する 170
パスワードを入力する 172
パスワードを変更 / 削除する 173

第 5 章 困ったときには

1. 困ったときの Q & A 176
2. BIOS が表示するメッセージ 184
BIOS が表示するメッセージ一覧 184
エラーメッセージが表示されたときは 189
3. それでも解決できないときは 191

第 6 章 仕様一覧

1. 仕様一覧.....	196
本体仕様	196
CRT ディスプレイの走査周波数について	198
リソース一覧	199
コネクタのピン配列と信号名	200

付録

1. ハードディスクの領域を設定する	204
設定の手順	204
2. Save To Disk 領域の作成	212
Save To Disk 領域とは	212
Save To Disk 領域の容量	212
Save To Disk 領域を作成する / 変更する	213
3. その他の注意事項	216
サポートしているその他の OS	216
パーソナルエコーセンターへ連絡する前に	216
パーソナルエコーセンターに連絡するときは	216

索引	217
----------	-----

1

最初に行う作業

本パソコンを使い始めるとき、必ず行わなければならない作業について説明します。

1. 作業の流れと必要なもの 2
2. Windows のセットアップをする 3
3. タッチパネルとモデムのドライバの更新 12
4. リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー 17
5. 本パソコンのユーザー登録 20

1

作業の流れと必要なもの

本パソコンを使うには、まずWindowsのセットアップの作業を行う必要があります。ここでは、作業全体の流れと、作業に必要なものについて説明します。

作業の流れ

必要な機器を接続する



電源を入れてセットアップする



タッチパネルとモデムのドライバを更新する*



リカバリCD-ROM起動ディスクをコピーする



ユーザー登録をする

* 必要に応じて行ってください。

作業に必要なもの

以下のものをご用意ください。

- パソコン本体、コネクタボックス、フロッピーディスクユニット、ACアダプタ
- Microsoft® Windows® 98 ファーストステップガイド
- リカバリCD-ROM 起動ディスク（フロッピーディスク）
- 「リカバリCD-ROM 起動ディスク」のラベル(1枚): コピーしたフロッピーディスクに貼ります。

以下は市販のものをご用意ください。

- 2HD フロッピーディスク(1枚)
- 「リカバリCD-ROM 起動ディスク」のコピー用1枚

2

Windows のセットアップをする

ここでは、ACアダプタの接続から、初めて電源を入れてWindowsを使用できるようにするまでの作業を説明します。

1
最初に行う作業

必要な機器を接続する

セットアップを始める前に、必要な機器を接続します。

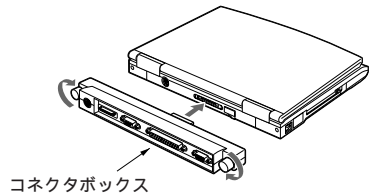
⚠ 注意

故障 間違えないように接続してください。

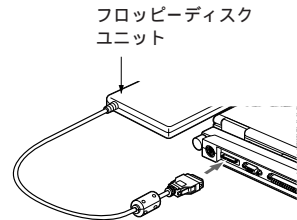


誤った接続状態でお使いになると、機器本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。

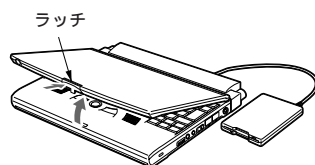
- 1 コネクタボックスを取り付けます。
詳しくは、「コネクタボックスを使う」
(●▶ P.48)をご覧ください。



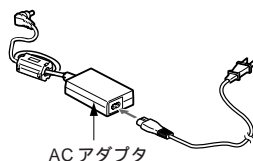
- 2 フロッピーディスクユニットを接続します。
詳しくは、「フロッピーディスクユニットを使う」
(●▶ P.52)をご覧ください。



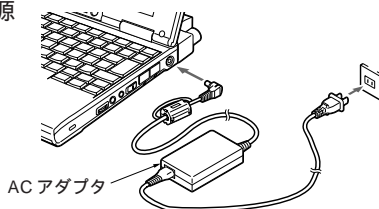
- 3** 液晶ディスプレイを開きます。
前面のラッチを押しながら少し持ち上げ、パソコン本体に手を添えて見やすい角度に調整します。



- 4** ACアダプタに電源コードを接続します。



- 5** 本パソコンにACアダプタを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。



電源を入れてセットアップする

Windows のセットアップは、本パソコンで Windows を使えるようにする作業です。初めて電源を入れたときに行います。本書の手順どおりに進めてください。

1
最初に行う作業

重要

セットアップ時の注意について

- フロッピーディスクユニット以外のオプション機器(メモリ、プリンタ、PC カードなど)の取り付けは、Windows のセットアップが終了してから行ってください。先に取り付けると、セットアップの途中で本パソコンが正常に動作しないことがあります。
- Windows のセットアップ中は、MAIN スイッチを OFF (○側にスライド) にしないでください。OFF にすると正常にセットアップが行えなくなるおそれがあります。セットアップ後に本パソコンの電源を切るときは、必ず「電源を切る」(●▶ P.33) の手順に従って操作してください。

アドバイス

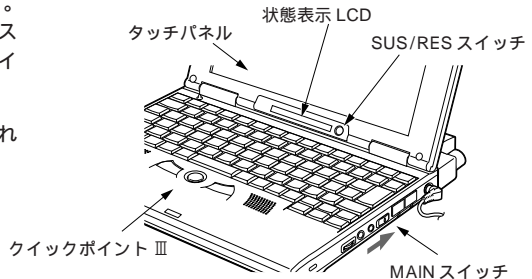
セットアップはクイックポイントで行ってください

本パソコンでは、「タッチパネル」または「クイックポイント」を使ってマウスポインタを操作します。ご購入時には、タッチパネルは調整されていないので、セットアップの操作はクイックポイントで行ってください。

●▶「クイックポイントの使いかた」(P.37)

- 1 MAIN スイッチを ON にします。パソコン本体右側面にある MAIN スイッチを○側から | 側(奥側)へスライドさせます。

状態表示 LCD に ① などが表示されます。



電源が入ると、本パソコンは、パソコン内部の装置をチェックする「起動時の自己診断テスト」を自動的に行います。テストの結果、異常があればメッセージが表示されます (●▶ P.184)。

起動時の自己診断テストが終了して約2分くらいたつと、「ユーザー情報」というウィンドウが表示されます。

アドバイス

画面が真っ暗になったときは

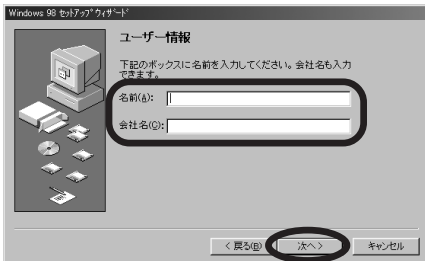
Windowsのセットアップの途中で、しばらく(約4分間)操作をしないと、画面が真っ暗になる場合があります。これは、省電力機能が働いたためです。この場合は、クイックポイント に触れてください。元の画面に戻ります。元の画面に戻らないときは、サスペンド/レジュームスイッチ(SUS/RES スイッチ)(▶▶ P.24)を押してください。

「次へ」ボタンと「戻る」ボタンの操作

「次へ」 次の画面に進むときにクリックします。通常は、このボタンでWindowsのセットアップを進めます。

「戻る」 前の画面に戻りたいときにクリックします。

2 名前と会社名を入力し、「次へ」をクリックします。



「使用許諾契約書」というウィンドウが表示されます。

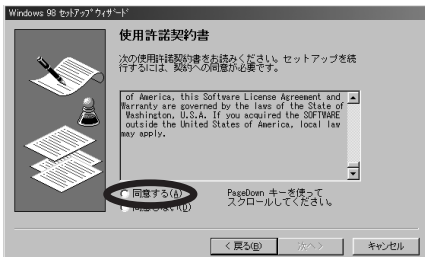
アドバイス

名前と会社名の入力について

- 名前は必ず入力してください。会社名の入力は省略できます。
- 名前を入力したら、**[Tab]** を押して会社名の入力に進んでください。


3 **[Fn]** を押しながら **[PgDn]** を押して、画面をスクロールさせ、「使用許諾契約書」をよく読みます。

4 「使用許諾契約書」に同意できるときは、「同意する」をクリックして **[Enter]** にし、「次へ」をクリックします。



「プロダクト キー」というウィンドウが表示されます。

重要**同意していただけない場合**

「使用許諾契約書」に同意していただけないときは、「同意しない」をクリックして  にし、「次へ」をクリックしてメッセージに従い電源を切ってください。Windows のセットアップが中止されます。Windows と本パソコンに入っているソフトウェアはお使いになれません。

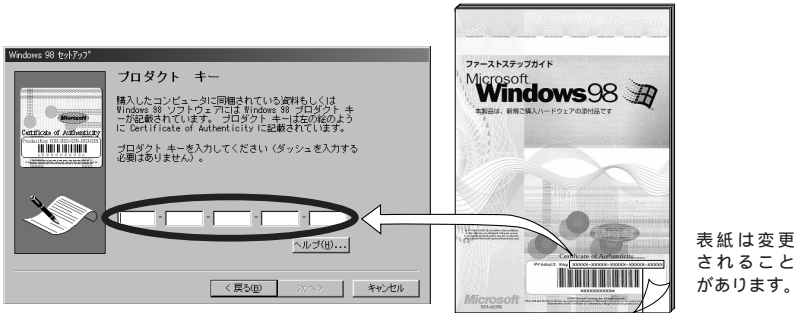
1

最初に行う作業

5 『Microsoft® Windows® 98 ファーストステップガイド』の表紙のバーコードの上に記載されているプロダクトキー(アルファベットや数字のコード番号)を入力し、「次へ」をクリックします。

プロダクトキーはいったん次の欄にメモしてから入力してください。

--	--	--	--	--	--



表紙は変更
されることが
あります。

プロダクトキー(Product Key)

「ウィザードの開始」というウィンドウが表示されます。

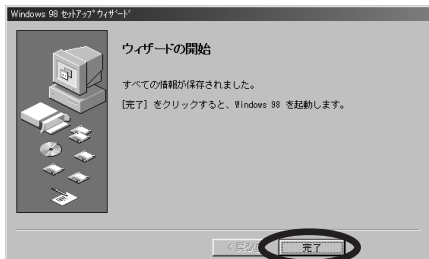
アドバイス**印刷されている文字を確認してください**

次の英数字は、間違えやすいので注意してください。

{	0 (ゼロ)	{	6 (ロク)	{	8 (ハチ)	{	V (ブイ)
	D (ディー)		G (ジー)		B (ビー)		Y (ワイ)
	O (オー)						
	Q (キュー)						

入力されたプロダクトキーが無効というメッセージが表示されたときは入力されたアルファベットや数字が間違っています。表示された画面で「OK」をクリックすると、プロダクトキーを入力できる画面に戻ります。間違えた文字を入力し直して「次へ」をクリックします。

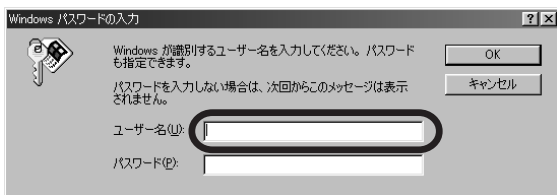
6 「完了」をクリックします。



ここまでに入力した内容がWindowsに登録され、続いてその他の設定が自動的に行われます。

「Windows パスワードの入力」ウィンドウが表示されます。

7 ユーザー名を半角の英字で入力します。 ここでは「fmv」と入力してください。



アドバイス

ここで設定するユーザー名とは

本パソコンをネットワーク上で区別するのに使う名前です。本パソコンを会社などのネットワーク（LAN）に接続して使うためのものです。

「パスワード」を入力すると

Windowsを起動するときに、パスワードを入力する画面が表示されるようになります。セットアップ後に設定することもできるので、ここでは入力しないようにお勧めします。また、このパスワード機能は、ネットワーク接続に対するチェック機能です。ハードディスクのデータを保護したい場合には、BIOSのパスワード機能（●▶ P.169）をご利用ください。

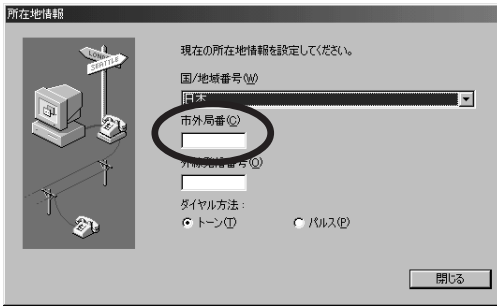
8 「OK」をクリックします。

「日付と時刻のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

9 「閉じる」をクリックします。

「所在地情報」ウィンドウが表示されます。

- 10 「国/地域番号」が「日本」になっていることを確認し、「市外局番」の下の欄に本パソコンを接続する電話回線の市外局番を入力します。





1

最初に行う作業

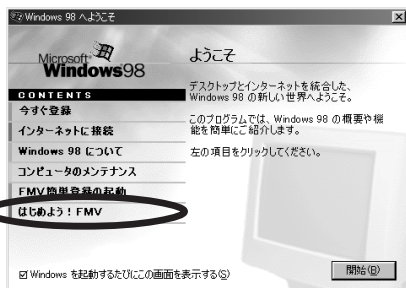
アドバイス

所在地情報とは

- 所在地情報は、インターネットなど通信を行うときに必要となる情報です。所在地情報の「市外局番」、「外線発信番号」、「ダイヤル方法」の項目には、通信を行うときに、本パソコンに接続する電話回線について、その市外局番や種類などを設定します。
- 本パソコンを携帯して移動先の室内の電話回線や、携帯電話で通信を行う場合は、その状況にあった所在地情報が必要です。複数の所在地情報を設定しておいて切り替えて使う方法は「所在地情報の設定と切り替え」(●▶ P.75)をご覧ください。

- 11 必要に応じて「外線発信番号」を入力します。
会社などの内線電話をお使いのとき、外線につなぐために「0」などの番号をダイヤルする場合には、その番号を入力します。
- 12 「ダイヤル方法」を設定します。
お使いの電話回線が、プッシュ回線(ダイヤル時に「ピッポッパッ」と音がします)のときは「トーン」をクリックして  にし、ダイヤル回線のときは「パルス」をクリックして  にします。
- 13 「閉じる」をクリックします。
「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 14 「OK」をクリックします。
さまざまな画面が表示されたあと、Windows のデスクトップに「Windows98 へようこそ」ウィンドウが表示されます。

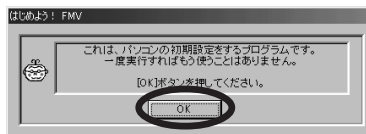
- 15 「Windows 98 へようこそ」ウィンドウの「はじめよう！ FMV」をクリックします。



「はじめよう！ FMV」ウィンドウが表示されます。

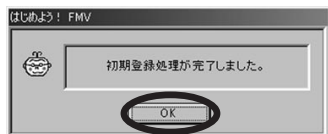
- 16 「Windows を起動するたびにこの画面を表示する」の左の をクリックして にします。

- 17 「OK」をクリックします。




「初期登録処理が完了しました。」と表示されます。

- 18 「OK」をクリックします。



本パソコンが一度終了し、再び起動します。しばらくすると、「Windows 98 へようこそ」ウィンドウが表示されます。

- 19  (閉じるボタン) をクリックします。
これでセットアップは完了です。引き続きタッチパネルとモデムのドライバを更新する操作を行ってください。

重要**『ファーストステップガイド』の保管について**

何かの原因でパソコンが動かなくなってしまったとき、パソコンをご購入時の状態に戻すことができます。その場合、もう一度「プロダクトキー」を入力していただくので、『Microsoft® Windows® 98 ファーストステップガイド』が必要になります。なくさないように大切に保管してください。

1



最初に行う作業

アドバイス**従来 of Windows スタイルで操作したいときは**

ご購入時の設定では、デスクトップ、「マイコンピュータ」ウィンドウ、エクスプローラなどでの操作は、次のようになります。

- 項目にマウスポインタを合わせると、項目が選択されます。
- 項目をクリックすると、項目が開きます(実行されます)。

本書では、上記の操作を前提に説明していますが、クリックすると項目を選択し、ダブルクリックすると項目を開く(実行する)ように設定を変えることもできます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「フォルダオプション」をクリックします。
「フォルダオプション」ウィンドウが表示されます。
- 2 「Windows デスクトップのアップデート」で、「カスタム: 選択する設定に基づきます」をクリックして  にし、「設定」をクリックします。
「カスタム設定」ウィンドウが表示されます。
- 3 「クリック方法」で、「シングルクリックで選択し、ダブルクリックで開く」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。
「フォルダオプション」ウィンドウに戻ります。
- 4 「閉じる」をクリックします。

「Windows 98 へようこそ」ウィンドウを表示するには

「Windows 98 へようこそ」ウィンドウを再び表示するには以下の操作をします。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「システムツール」の順にマウスポインタを合わせ、「Windows へようこそ」をクリックします。
「Windows 98 へようこそ」ウィンドウが表示されます。

コラム**起動時の自己診断テストとは**

本パソコンの電源を入れたときや再起動したとき、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような機器が接続されているかなどを、自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST: Power On Self Test) といいます。

起動時の自己診断テスト中に電源を切ると

本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数をカウントしており、3 回続いた場合には、4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

3




タッチパネルとモデムのドライバの更新

本パソコンのタッチパネルとモデムのドライバを最新のものに更新します。


タッチパネルドライバの更新

次のような場合に、クイックポイント を使って更新してください。

- タッチパネルで、MS-DOS プロンプトのウィンドウをドラッグする場合
- レジューム時にパスワードを要求する設定をおこなう場合

- 1 アプリケーションやウィンドウをすべて終了します。
「Windows98 へようこそ」ウィンドウを閉じ、タスクトレイに表示されている常駐ソフト (AUV、VirusScan、PMSet98 など) も、すべて終了させます。これらのタスクトレイのアイコンは右クリックして、メニューの「終了」や「...を終わる」をクリックしてください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 3  (システム) をクリックします。
- 4 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 5 「種類別に表示」が  になっていることを確認し、「マウス」の左の  をクリックします。
- 6 「Fujitsu Touch Panel (PS/2)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。



- 7 「ドライバ」のタブをクリックします。
- 8 右下にある「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 9 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」の画面が表示されます。
- 10 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し...」をクリックして  にし、「次へ」をクリックします。



「ハードウェアの製造元とモデルを...」のウィンドウが表示されます。

- 11 右下にある「ディスク使用」をクリックします。
- 12 「配布ファイルのコピー元：」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

c:\¥fjuty¥drivers¥tpanel



- 13 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。
「ドライバ更新の警告」が表示された場合は「はい」をクリックします。
- 14 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました」というメッセージが表示されます。



- 15 「完了」をクリックします。
「システム設定の変更」のウィンドウが表示されます。

- 16 「はい」をクリックします。
しばらくして本パソコンが再起動します。

アドバイス

ドライバの確認方法

ドライバの更新が正しくできたか、次のようにして確認します。


- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「マウス」の左の  をクリックします。
- 5 「Fujitsu Touch Panel (PS/2)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「ドライバ」のタブをクリックします。
日付が "11-17-1998" となっていることを確認します。

- 17 タッチパネルの調整を行います。
タッチパネル上のタッチした位置とマウスポインタの位置のずれを修正します。
「タッチパネルの調整のしかた (●▶ P.40) 」をご覧ください。

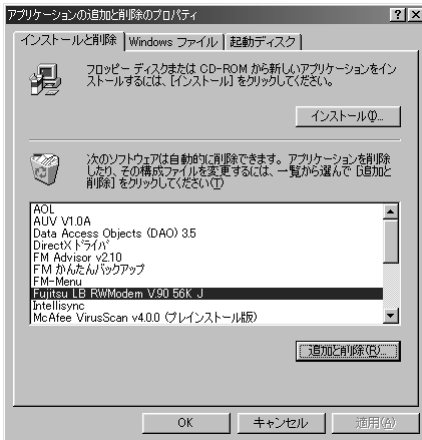
モデムドライバの更新

次のような場合に、モデムドライバを更新してください。

- ITU-T 標準規格 V.90 で通信する場合
- 携帯電話接続ケーブルで通信する場合

- 1 アプリケーションやウィンドウをすべて終了します。
「Windows98 へようこそ」ウィンドウを閉じ、タスクトレイに表示されている常駐ソフト (AUV、VirusScan、PMSet98 など) も、すべて終了させます。これらのタスクトレイのアイコンは、右クリックしてメニューの「終了」や「...を終わる」をクリックしてください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3  (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「Fujitsu LB RWModem V.90 56K J」をクリックし、「追加と削除」をクリックします。



「Confirm File Deletion」ウィンドウが表示されます。

- 5 「はい」をクリックします。
「Fujitsu LB RWModem V.90 56K J」が削除されます。

- 6 「OK」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが上に表示されて操作しにくいときは、「コントロールパネル」ウィンドウを閉じてください。
「OK」をクリックすると「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが閉じます。

- 7 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。

- 8 「再起動する」をクリックして にし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動中に、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

- 9 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください」というウィンドウが表示されます。

- 10 「使用中のデバイスに最適な...」が になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「新しいドライバは、ハードドライブの...」というウィンドウが表示されます。

- 11 「フロッピーディスクドライブ」をクリックしてにし、「検索場所の指定」をクリックしてにした後、入力欄にc:\¥fjuty¥drivers¥modempdcと入力して、「次へ」をクリックします。





「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。

- 12 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが終了すると、「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というウィンドウが表示されます。

- 13 「完了」をクリックします。
更新が終わったら、以下のように確認と設定を行ってください。


アドバイス

正しく更新されたか確認するには

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 4 「モデム」の左の  をクリックします。
次の2つが表示されていることを確認します。
 - Fujitsu LB RWModem V.90 56K J
 - Fujitsu SOFT PDC表示されていれば、正常に更新されています。

更新後にモデムの設定が必要です

モデムドライバを更新したら、次のようにモデムの設定を行ってください。

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの  (モデム) をクリックします。
- 2 「モデムのプロパティ」ウィンドウで一覧の「Fujitsu LB RWModem V.90 56K J」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 3 「Fujitsu LB RWModem V.90 56K J」のプロパティ」ウィンドウの「接続」タブをクリックします。
- 4 「接続オプション」の欄の「トーン待ってからダイヤルする」をクリックしてにし、「OK」をクリックします。
- 5 「モデムのプロパティ」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

4

リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー

1

最初に行う作業

リカバリ CD-ROM 起動ディスクをコピーする

「リカバリCD-ROM起動ディスク」は、本パソコンが正常に動作しなくなったときに、ハードディスクの内容をいったんご購入時の状態に戻して正常な状態を回復するために使用する大切なフロッピーディスクです。

必ず、以下の操作によって「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のコピーを作成し、原本のフロッピーディスクは大切に保管してください。

また、本パソコンをご購入時の状態に戻すリカバリの作業には、作成したコピーを使用してください。

アドバイス**ご購入時の状態に戻すために必要なもの**

- 本パソコンをご購入時の状態に戻すリカバリの作業には、別売のCD-ROMドライブが必要です。万一の状態に備えて、CD-ROMドライブを購入されることをお勧めします。弊社製CD-ROMドライブは「FMV-NCD401」と「FMV-NCD402」_↓「FMV-NCD201」です。
- CD-ROMドライブをリカバリ作業で使用できるようにするには設定作業が必要です。CD-ROMドライブの購入後は、早めに設定作業を行ってください。設定ファイルの編集作業が必要になる場合があります。Windowsが正常に起動できなくなると、編集作業がやりにくくなるので、なるべく早めに、設定作業を行ってください。設定作業については、『リカバリガイド』の「リカバリに必要な設定をする」をご覧ください。

確認**用意するもの**




- リカバリ CD-ROM 起動ディスク 1 枚
- 2HDフロッピーディスク 1 枚(ご購入ください)
- 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のラベル 1 枚
- コネクタボックス
- フロッピーディスクユニット
「フロッピーディスクユニットを取り付ける」(▶▶P.52)をご覧ください。パソコン本体に接続してください。

購入された2HDフロッピーディスクが「DOS/V用フォーマット済」のものであれば、手順3から始めてください。

- 1 ご購入されたフロッピーディスクをフロッピーディスクユニットに差し込み、1.44MB(通常のフォーマット)にフォーマットします。


アドバイス






フォーマットするには

- 1 フロッピーディスクをフロッピーディスクユニットに差し込みます。
- 2 デスクトップの  (マイコンピュータ)をクリックします。
- 3  (3.5 インチ FD(A:))を選択して、反転状態にします。
- 4 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。
- 5 「1.44MB(3.5 インチ)」が選ばれていることを確認します。
- 6 「フォーマットの種類」で「通常のフォーマット」をクリックして  にします。
- 7 「開始」をクリックします。
- 8 フォーマットが終わったら「閉じる」をクリックします。


- 2 フォーマットが済んだフロッピーディスクをフロッピーディスクユニットから取り出します。

- 3 リカバリ CD-ROM 起動ディスクを書き込み禁止の状態 (▶▶ P.57)にし、フロッピーディスクユニットに差し込みます。

- 4 デスクトップの  (マイコンピュータ)をクリックします。

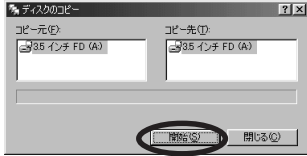
- 5  (3.5 インチ FD(A:))を選択します。
タッチパネルで操作するときは、 の近くの何も無い場所から  の上までドラッグの操作を行います。クイックポイント で操作するときは、 を  の上に合わせると自動的に選択されます。



 (3.5 インチ FD(A:))が反転表示されます。

6 「ファイル」メニューの「ディスクのコピー」をクリックします。

7 コピー元とコピー先に「3.5 インチ FD(A:)」が表示されていることを確認して「開始」をクリックします。



メッセージに従ってコピーを作成してください。

8 コピーが終了したら「閉じる」をクリックします。
コピー先のディスクは、「リカバリCD-ROM 起動ディスク」と印刷された添付のラベルを貼り、ラベルに「作業用」と記入してください。

添付のCD-ROM とフロッピーディスクは大切に保管してください

本パソコンに添付されているCD-ROM やフロッピーディスクには、本パソコンに入っているソフトウェアと同じ内容が入っています。次のような場合に、ご購入時と同じ状態に戻すために必要です。

- お客様が誤って内容を変更してしまった
- 本パソコンが故障して修理をした

(注意 1) お客様が作成された大切なデータや追加されたソフトウェアは、フロッピーディスクに複写するなどして保管することをお勧めします。

(注意 2) 修理後、パソコンの内容がご購入時と同じになっている場合や、何も入っていない状態になっている場合がありますのでご注意ください。

「Windows98 起動ディスク」を作成してください

「リカバリCD-ROM 起動ディスク」には、MS-DOS上で動作するツール類(エディタソフトなど)は含まれていません。不測の事態に備えて、なるべく早めに「Windows98 起動ディスク」を作成してください。

「Windows98 起動ディスク」の作成には、2HDのフロッピーディスクが2枚必要になります。あらかじめ用意してから、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で「起動ディスク」タブの「ディスクの作成」をクリックし、表示されるメッセージに従って作成してください。

5

本パソコンのユーザー登録

ユーザー登録を忘れずに

本パソコンが使用できる状態になったら、ユーザー登録を行ってください。ユーザー登録を行っていただくことで、お知らせや製品情報などをお届けします。保証書の封筒に入っている「ユーザー登録カード」をご覧ください、早めにユーザー登録を行ってください。

ユーザー登録には、4種類の方法があります。

- パソコン通信（フリーダイヤル）で登録する「オンラインユーザー登録」
- インターネットのホームページで登録する「インターネットユーザー登録」
- 添付のハガキで登録する「ハガキによるユーザー登録」
- 専用のシートをFAXで送信する「FAXによるユーザー登録」

特に、パソコンの近くに電話回線がある場合には、「オンラインユーザー登録」をお勧めします。

オンラインユーザー登録を使うと、本パソコンと電話回線を利用して、簡単にユーザー登録が行えます。フリーダイヤルを利用しますので、電話料金はかかりません。また、ここで入力した氏名や住所などは、インターネットプロバイダ（InfoWeb）への加入契約やFMVソフトウェア登録などに引き継がれますので、同じ情報を何度も入力する必要がなくなります。

オンラインユーザー登録については、添付の冊子『かんたん！ユーザー登録』をご覧ください。

以上で、「最初に行う作業」が終了しました。

パソコンを終了して電源を切る場合は、「電源を入れる / 電源を切る」(●▶ P.32)をご覧ください。

オプション機器については、「第3章 オプション機器を使う」(●▶ P.86)をご覧ください。

アプリケーションの削除や再インストール方法については、『リカバリガイド』の「第2章 アプリケーションを再インストールする」をご覧ください。

重要**衝撃や振動を与えないでください**

本パソコンを持ち運ぶときは、電源を切るか、サスペンド(スタンバイ)機能で一時停止するか、Save To Disk 機能で電源を切ってください。

電源を入れたままの状態を持ち運んだり、衝撃や振動を与えると、故障の原因となります。

1

最初に行う作業

2

本パソコンの取り扱いかた

ここでは、パソコン本体の各部の名称や働き、添付品の使いかたなどについて説明します。

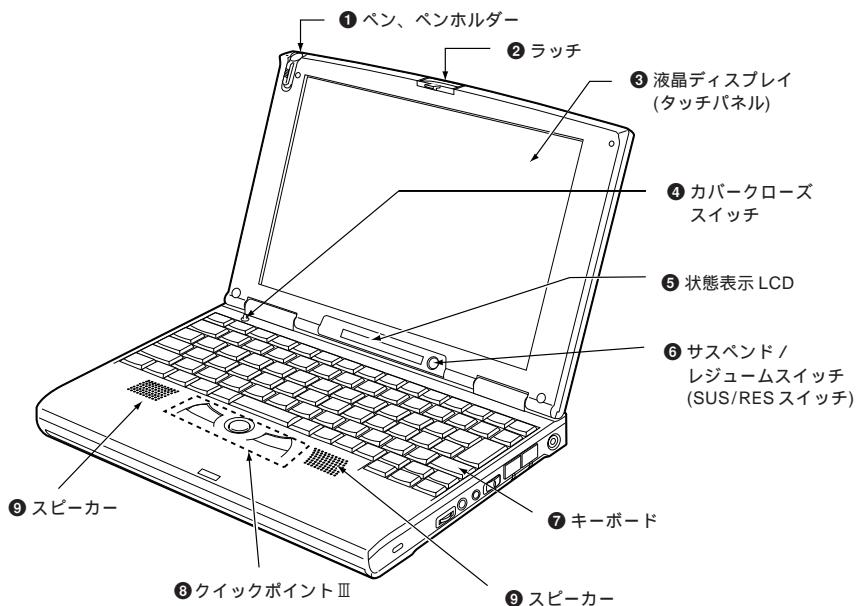
1. 各部の名称と働き 24
2. 電源を入れる / 電源を切る 32
3. クイックポイント の使いかた 36
4. タッチパネルの使いかた 38
5. キーボードの使いかた 42
6. 文字入力のしかた 46
7. コネクタボックスを使う 48
8. フロッピーディスクユニットを使う 52
9. バッテリーで使う 59
10. 電話回線への接続と所在地情報の設定 72
11. 画面の解像度と発色数を変更する 79

1

各部の名称と働き

パソコン本体の各部の名称と働きを説明します。

本体前面の操作箇所



- ① ペン、ペンホルダー
タッチパネルを操作するペンです。
ペンを使わないときは、ここに差し込んでおきます。
- ② ラッチ
液晶ディスプレイを開けるときは、ラッチを押してロックを外します。

- ③ 液晶ディスプレイ（タッチパネル）
文字や図形などを表示します。
また、添付のペンを使ってマウスポインタを操作します（●▶P.38）。

重要

廃棄するときは地方自治体の条例または規則に従ってください

液晶ディスプレイの蛍光管の中には、水銀が含まれています。本パソコンを廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従ってください。

アドバイス

液晶ディスプレイについて

液晶ディスプレイにおいて、下記の現象は故障ではありません。これらの現象が発生しても、本パソコンは正常に動作します。あらかじめご了承ください。

- 液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化で明るさや色合いに多少むらが発生することがあります。
- 本パソコンで使用しているTFTカラー液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して作られています。画面に常時点灯あるいは点灯しないドットが存在する場合があります。

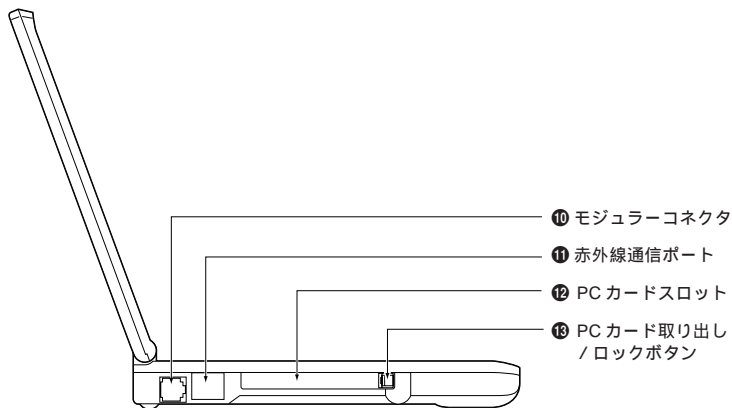
- ④ カバークローズスイッチ
液晶ディスプレイを閉じたときにパソコンの動作を一時停止(サスペンド)させるためのスイッチです。
- ⑤ 状態表示LCD
パソコンの電源や動作の状態を表示します(●▶P.30)。
- ⑥ サスペンド/レジュームスイッチ(SUS/RESスイッチ)
パソコンの動作を一時停止(サスペンド)、または再開(レジューム)させるためのスイッチです。詳しくは「作業を一時停止/中断するには」(●▶P.64)をご覧ください。なお、本書では「SUS/RESスイッチ」と表記しています。
- ⑦ キーボード
キーを押して文字などを入力します(●▶P.42)。
- ⑧ クイックポイント
マウスポインタを操作します(●▶P.36)。
- ⑨ スピーカー
本パソコンの音声を出力します。

アドバイス

スピーカーのON/OFFについて

[Fn]を押しながら[F3]を押すと、スピーカーのONとOFFを切り替えることができます。この操作をして「ピッ」と音がした場合はスピーカーがONに、音がしない場合はOFFになります。

本体左側面の操作箇所



- ⑩ モジュラーコネクタ
モジュラーケーブルを接続するコネクタです。電話回線への接続については「電話回線に接続する」(●▶P.74)をご覧ください。
- ⑪ 赤外線通信ポート
赤外線通信を行うための送受光部です。

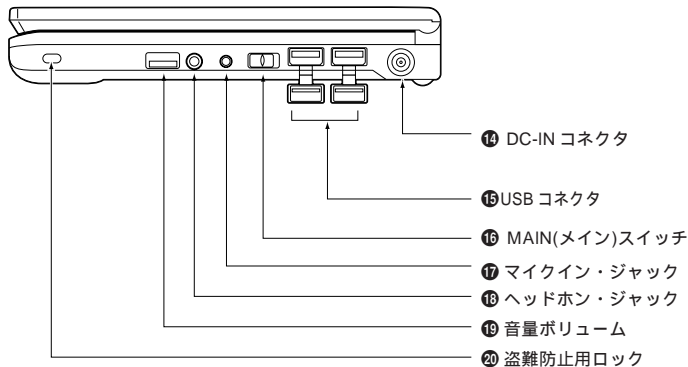
重要

赤外線通信をしているときの注意事項

赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタやCRTディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。


- ⑫ PCカードスロット
別売のPCカードをセットするためのスロットです(●▶P.95)。
- ⑬ PCカード取り出し / ロックボタン
PCカードを取り出すときに押します。セットしたPCカードを固定するとき、横にスライドさせます。


本体右側面の操作箇所



- ⑭ DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続するコネクタです。
- ⑮ USBコネクタ
USB規格のインターフェースをもつ別売の機器を接続するコネクタです。
2ポートあります(●▶ P.124)。
- ⑯ MAIN(メイン)スイッチ
本パソコンの電源をON/OFFにするスイッチです。○側がOFF、|側がONです。
通常、電源を切るときは、MAINスイッチをOFFにする前に、Windowsの終了操作かSave To Diskの操作を行ってください。電源の切りかたについては「電源を切る」(●▶ P.33)をご覧ください。
- ⑰ マイクイン・ジャック
添付のマイクを接続します。
- ⑱ ヘッドホン・ジャック
市販のヘッドホンなどを接続します。

⚠注意

聴力障害  ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害  ヘッドホンをしたまま電源スイッチを入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
ヘッドホンの破損防止のため、パソコン本体の音量を最小にしておいてから、ヘッドホンに接続します。

アドバイス

ヘッドホン・ジャックに取り付けられるものは

外径3.5mmのミニ・プラグのある以下のものを取り付けられます。ただし、形状によっては取り付けられないので、ご購入前に確認してください。

- ヘッドホン
- イヤホン
- アンブ内蔵外部スピーカー

19 音量ボリューム

手前側に回すと音量が小さくなり、奥側に回すと大きくなります。

アドバイス

ハウリングについて

マイクをお使いの場合、音量ボリュームを上げすぎたり、マイクをスピーカーに近づけすぎたりすると、マイクとスピーカーの間でハウリングを起こす場合があります。

20 盗難防止用ロック

盗難防止用ケーブルを接続することができます。

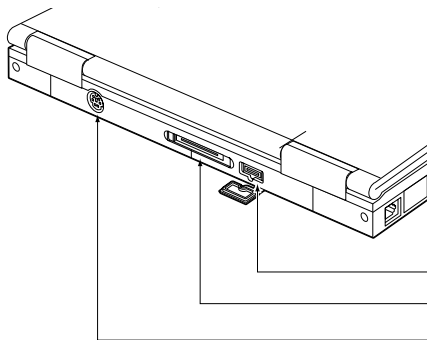
Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

品名：マイクロセーバー(セキュリティワイヤー)

商品番号：0522010

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ 03-3434-0147)

本体背面の操作箇所



21 PDC コネクタ

22 コネクタボックス接続コネクタ

23 拡張キーボードコネクタ

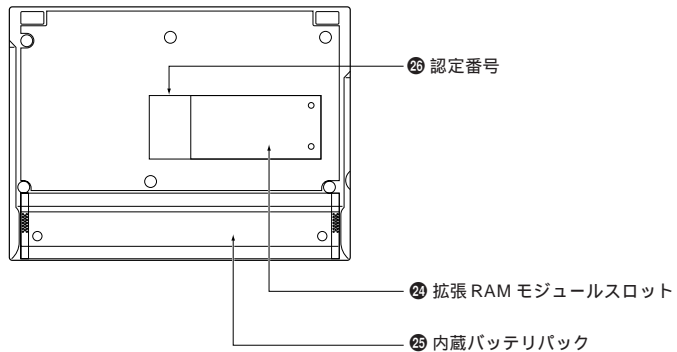
- ⑳ PDCコネクタ
携帯電話接続ケーブルを使って、携帯電話を接続するコネクタです（●▶ P.103）。
- ㉑ コネクタボックス接続コネクタ
添付のコネクタボックスを接続するコネクタです（●▶ P.48）。
- ㉒ 拡張キーボードコネクタ
PS/2タイプのコネクタを持つ別売のテンキーボードなどを接続するコネクタです（●▶ P.111）。

アドバイス

PS/2 規格のマウスについて

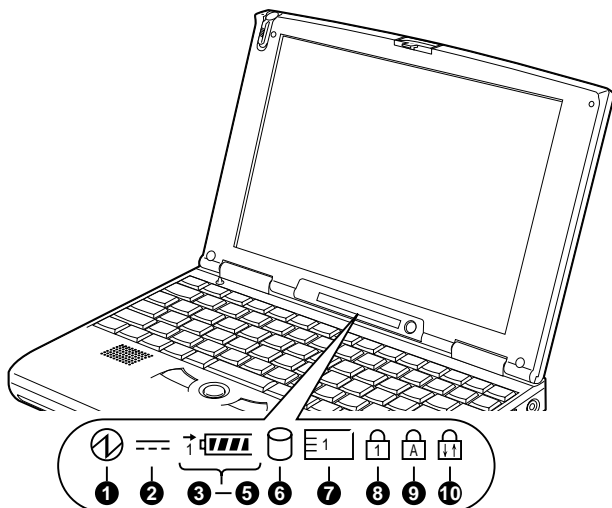
本パソコンにはPS/2 規格のマウスは接続できません。USB 規格のものをお使いください。

本体下面の操作箇所












- ㉓ 拡張RAMモジュールスロット
別売の拡張RAMモジュールをセットするスロットです（●▶ P.113）。
- ㉔ 内蔵バッテリーパック
内蔵バッテリーパックが装着されています。
ご購入時には、バッテリーは充電されていない場合があります。バッテリーが充電されるまでは、ACアダプタを接続してお使いください。充電のしかたについては「バッテリーで使う」（●▶ P.59）をご覧ください。
- ㉕ 認定番号
内蔵モデムや携帯電話接続ケーブルを使用した場合の、技術適合認定番号です。

状態表示 LCD




- ① SUS/RES表示(①)
本パソコンが動作中に表示されます。サスペンド(一時停止)状態になっているときは、点滅します。MAINスイッチがOFFのときや、Save To Disk機能(●▶ P.64)で電源を切っているときは表示が消えます。
- ② ACアダプタ表示(≡≡≡)
本パソコンをAC電源で使用しているときや充電しているときなど、ACアダプタから電源が供給されているときに表示されます。
- ③ バッテリーパック装着表示(⌚)
⌚ は、内蔵バッテリーパックを示しています。本パソコンの電源を入れる则表示されます。
- ④ バッテリー充電表示(⚡ の→)
バッテリーパック装着表示の左上に表示されます。→が点灯しているときは充電中です。バッテリーが熱くなっていたり、冷えたりして充電できないときは、点滅します。
- ⑤ バッテリー残量表示(|||||)
バッテリーの残量が表示されます。バッテリー残量表示について詳しくは「バッテリーの残量表示を確認する」(●▶ P.61)をご覧ください。
- ⑥ ハードディスクアクセス表示(Ⓛ)
内蔵ハードディスクにアクセスしているときに表示されます。

- ⑦ PCカードアクセス表示 ()
PCカードにアクセスしているときに表示されます。
- ⑧ Num Lock (ニューメリカルロック) 表示 ()
テンキーモードのときに表示されます。 () を押しながら () を押すと、
テンキーモードの設定と解除が切り替わります。
テンキーモードについては「テンキーモードの働き」 (●▶ P.42) をご覧ください。
- ⑨ Caps Lock (キャプスロック) 表示 ()
英大文字固定モードのときに表示されます。 () を押しながら () を
押すと、英大文字固定モードの設定と解除が切り替わります。
- ⑩ Scroll Lock (スクロールロック) 表示 ()
() を押すと、表示と非表示が切り替わります。アプリケーションごとに
機能が異なります。

重要

状態表示 LCD に  が表示されているときは

 (ハードディスクアクセス表示) が表示されているときは、MAINスイッチをOFFにしたり、SUS/RESスイッチを操作しないでください。ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。

アドバイス

MAINスイッチがOFFのときは

MAINスイッチがOFFの場合は、状態表示LCDのすべての表示が消えます。ただし、充電中は  と  が表示され、充電が終わると消えます。

2

電源を入れる / 電源を切る

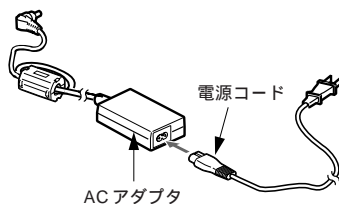
電源を入れる

ここでは、本パソコンの電源の入れかたを説明します。

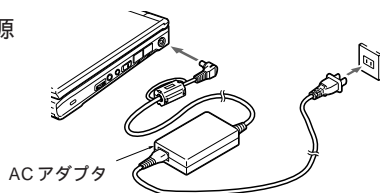
確認

フロッピーディスクユニットを接続している場合は、電源を入れる前にフロッピーディスクが入っていないか確認し、入っている場合は必ず取り出してください。

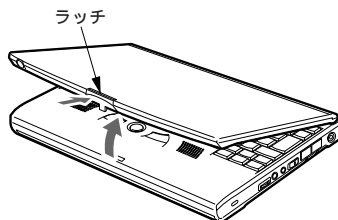
- 1 ACアダプタに電源コードを接続します。



- 2 本パソコンにACアダプタを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

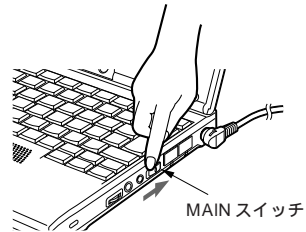


- 3 液晶ディスプレイを開きます。
前面のラッチを押しながら少し持ち上げ、パソコン本体に手を添えて見やすい角度に調整します。



4 パソコン本体の MAIN スイッチを ON にします。

パソコン本体右側にある MAIN スイッチを○側から | 側(奥側)へスライドさせます。状態表示 LCD に①などが表示されます。しばらくすると Windows の画面が表示されます。



2

本パソコンの取り扱いかた

重要

電源を入れるときの注意

- 電源を切った直後は、すぐに電源を入れしないでください。再度電源を入れる場合は、電源を切ったあと、10 秒ほど待ってください。
- 本パソコンを持ち運ぶときは、電源を切るか、サスペンド機能(●▶ P.64)で一時停止するか、Save To Disk 機能(●▶ P.64)で電源を切ってください。電源を入れたままの状態を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。

電源を切る

ここでは、電源の切りかたを説明します。

Windows を使っているときは、必ず以下の方法で電源を切ってください。作業中に変化した設定データを保存したり、ハードディスクのデータを書き替えたりなどの終了処理が自動的に行われます。

重要

電源を切るときの注意

- MAIN スイッチを OFF にする前に、Windows を終了するか、Save To Disk 機能(●▶ P.64)を実行して電源を切ってください。
- 電源を切る前に、状態表示 LCD の②が消えていることを確認してください。この表示が点灯しているときに電源を切ると、作業中のデータが保存できなかったり、ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクユニットを接続している場合は、電源を切る前に、フロッピーディスクを取り出してください。


サスペンド機能(●▶ P.64)で保持している作業状態を消さないためには

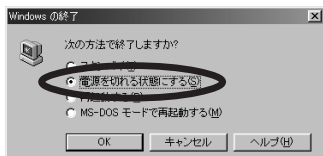
サスペンド機能によって作業状態をメモリに保持して一時停止状態にしているときは、MAIN スイッチを OFF にすると、メモリに保持しているデータが失われます。

電源を切りたいときは、いったんレジューム(サスペンド状態から元に戻す)操作を行って、必要なデータを保存してから Windows を終了してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。



- 2 「電源を切れる状態にする」をクリックして  にします。




- 3 「OK」をクリックします。

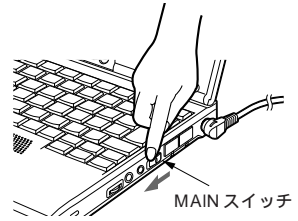
Windows の終了処理が行われたあと、状態表示 LCD の  が消え、電源が切れます。

アドバイス

再起動について

「Windows の終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックすると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、Windows の終了処理を行ったあと、メモリに入っている内容をいったん消し、もう一度はじめからパソコンを起動し直すことです。

- 4 MAINスイッチをOFFにします。
MAINスイッチを○側(手前側)へスライドさせます。



- 5 ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 6 本パソコンからACアダプタを取り外します。

アドバイス

充電するときは

電源を切ったあとに続けて充電したいときは、ACアダプタを接続したままにしておきます。

2

本パソコンの取り扱いがた

3

クイックポイント の使いかた

ここでは、クイックポイント を使ったマウスポインタの操作について説明します。

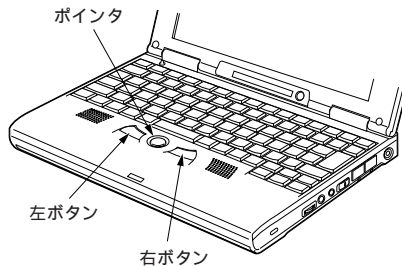
アドバイス

マウスは接続できません

本パソコンには、PS/2 規格のマウスは接続できません。
マウスを使用する場合は、USB 規格対応のものを使用してください。

クイックポイント の働き

クイックポイント III は、指先の操作でマウスポインタを動かすことができるポインティングデバイスです。ポインタに対して前後左右に力を加えることにより、マウスポインタを動かします。左右のボタンは、それぞれマウスの左ボタン、右ボタンに相当します。



アドバイス

マウスポインタの動きを調節するには

Windows の「コントロールパネル」ウィンドウで「マウス」をクリックすると、マウスポインタの移動速度とポインタの力の入れ具合の関係を調整できます。

マウスポインタが勝手に動いてしまうときは

クイックポイント をわずかに傾けた状態で、数秒間ゆっくり動かしているときに、マウスポインタが逆方向に動くことがあります。故障ではありません。マウスポインタが停止するまでお待ちください。

ポインタが使いにくいときは

ポインタのキャップは古くなると、表面がすべりやすくなります。キャップは簡単に取り外せます。添付のゴムキャップと交換してください。または、次の製品をお使いください。


品名：ゴムキャップ（クイックポイント ）

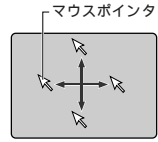
商品番号：0640570

（富士通ビー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ 03-3434-0147）

クイックポイント の使いかた

ポインタの操作

ポインタに指をかけて前後左右に押します。押した方向に画面上の  (マウスポインタ)が動きます。画面を見ながら、ポインタを押してみてください。

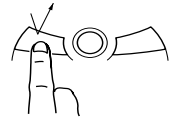


ボタンの押しかた

• クリック

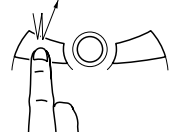
左ボタンを1回カチッと押します。

また、右ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。



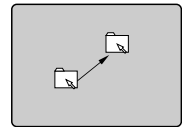
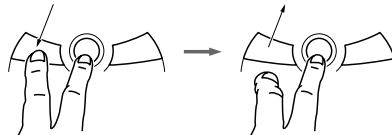
• ダブルクリック

左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。



• ドラッグ

左ボタンを押したままポインタを押してマウスポインタを移動し、目的の位置で左ボタンを離します。



2

本パソコンの取り扱いかた

4

タッチパネルの使いかた

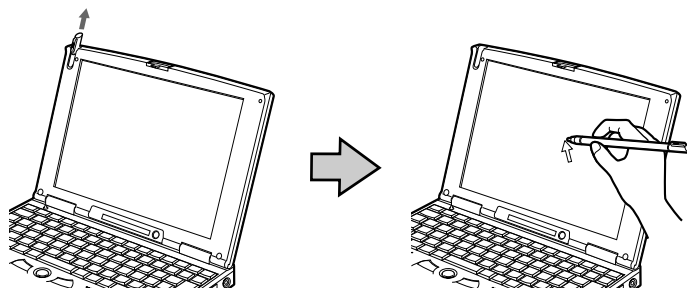
タッチパネルは、液晶ディスプレイ上で直接マウスポインタを操作できる、便利なポインティングデバイスです。

ここでは、タッチパネルの使いかたについて説明します。

タッチパネルの働き

本パソコンの液晶ディスプレイにはタッチパネルが貼り付けられており、添付のペンでマウスポインタを操作することができます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作ができます。

ペンを引き出します。
使わないときは、ここに差し込んでおきます。



ペンの先で画面を軽く1回たたくと、クリックになります。
ペンの位置にマウスポインタが移動します。

アドバイス

先の尖ったもので操作しないでください

- タッチパネルは指先などでも操作できます。
- ディスプレイを傷つけないよう、ボールペンや鉛筆など、先の尖ったものでは操作しないでください。
- ペンを使ってタッチ操作をするときは、手が触れないように気をつけてください。手で触ってしまうとマウスポインタが動いてしまいます。

ペンをなくしたときは

予備のペンを用意しております。次の製品をご購入ください。

品名：タッチパネル用ペン MCPN1

商品番号：0635070

(富士通ビー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ 03-3434-0147)

タッチパネルの使いかた

■ クリック ■

画面を軽く1回たたいて、すぐにペンを離します。
この操作を「タッチ」といいます。

■ ダブルクリック ■

画面をすばやく2回タッチして、すぐにペンを離します。


■ ドラッグ ■

画面に軽く押し付けながらなぞります。

■ その他の操作 ■

上記以外にも、タッチパネルで操作できる場合があります。
タッチパネルで操作ができないときは、クイックポイント をお使いください。

• ポイント

を画面上の項目に合わせる操作を、「ポイント」といいます。通常は、サブメニューを開く場合や、アイコンを選択する場合などに行います。

タッチパネルでは、これらの操作方法が違います。

• サブメニューを開くとき

開きたいメニュー項目にタッチします。

• アイコンを選択するとき


選択したいアイコンの近くにペンを軽く押し付け、アイコンの上までドラッグしてアイコンを反転状態にします。

• 右クリック

通常は、ショートカットメニューを表示させるために行います。

タッチパネルでは、右クリックする対象によって操作方法が違います。

• アイコンを右クリックするとき

右クリックしたいアイコンの近くにペンを軽く押し付け、アイコンの上までドラッグしてアイコンを反転状態にし、を押します。

タスクトレイのアイコンなど、ショートカットメニューが表示できないときは、クイックポイント で操作してください。

• その他の項目を右クリックするとき

クイックポイント をお使いください。

タッチパネルの調整のしかた

本パソコンのご購入時には、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がずれていることがあります。また、画面の解像度を変更したときには、画面の有効範囲が異なるため、タッチパネルの調整をする必要があります。

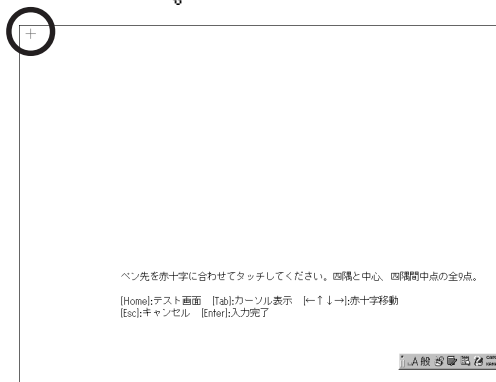
タッチパネルの調整をするには、以下の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「タッチパネル キャリブレーション」をクリックします。
白い補正画面が表示されます。

- 2 添付のペンで画面の赤い「+」マークの近くをタッチし、タッチしたままペンを十字の中心に移動して、ペンをパネルから離します。

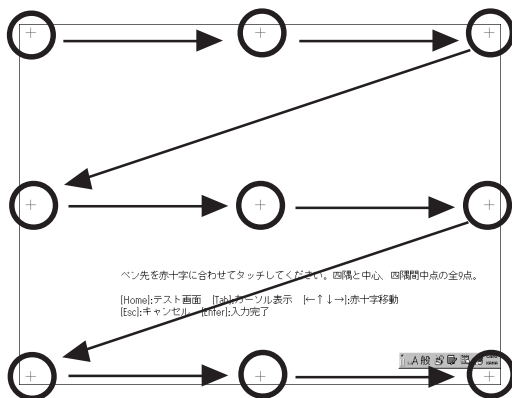
このときマウスの位置は調整には無関係です。十字からずれていて構いません。ペンでタッチして離れた位置によって調整が行われます。

[Tab] を押して、マウスを表示しないようにすることもできます。



タッチすると「+」マークが移動します。

- 3 同じように、順に9カ所の点をタッチします。



アドバイス**操作上のご注意**

- ペンの先を「+」マークの交点に合わせて、正確にタッチしてください。
- 操作中は、手などがタッチパネルに触れないようにしてください。

2回続けてタッチしてしまったときは

⏪ ⏩ ⏴ ⏵ を押して「+」マークを移動し、もう一度タッチし直します。

4

⏴ (Enter) を押します。

調整結果を確認するための画面が表示されます。

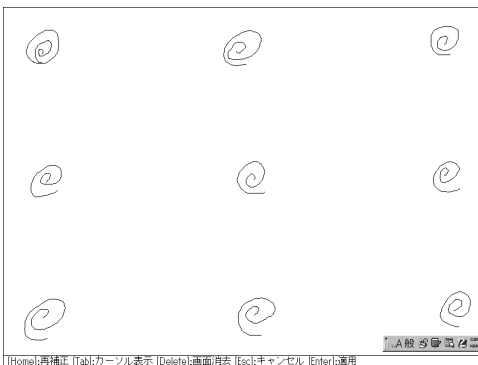
アドバイス

「補正パラメータエラー」と表示されたときは

「OK」をクリックして、もう一度手順2からやり直してください。

5

画面の四隅や中央部分を軽くなぞって、うまく調整されているか確認します。



もう一度調整したいときは、⏴ (Fn) を押しながら ⏵ を押して、手順2の操作からやり直してください。

6

うまく調整できたら、⏴ (Enter) を押します。

「タッチパネル キャリブレーション」が終了します。

これで、タッチパネルが調整されました。

アドバイス

WindowsNT4.0 ではタッチパネルは使えません

タッチパネルは、WindowsNT4.0 では使用できません。

5

キーボードの使いかた

キーボードは、コンピュータにデータを入力したり、指示を実行させるための装置です。ここでは、各キーの名称と主なキーの使いかたを説明します。

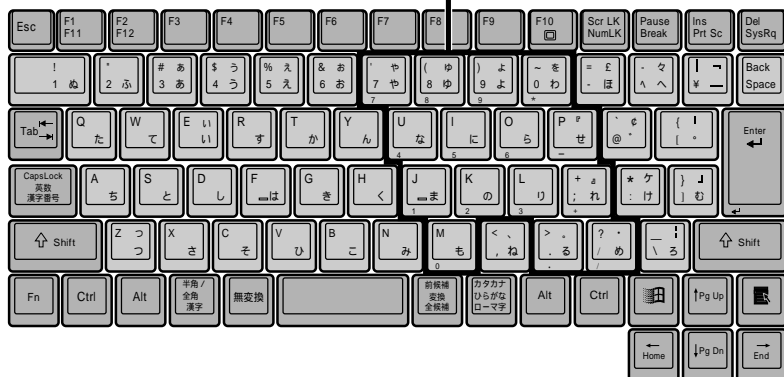
キーの配列と機能

キーは文字を入力するキーとその他の働きをするキーの2種類に分かれます。

■ : 文字を入力するキー

■ : テンキーになるキー

■ : その他の働きをするキー



■ キー上面の青色と緑色の表示 ■

各キー上面の青色のキー名称は、**[Fn]** を押しながら押すと機能します。

各キー上面の緑色のキー名称は、**[Alt]** を押しながら押すと機能します。

テンキーモードの働き

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー(数値入力を容易にするキー配列)として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。**[Fn]** を押しながら **[NumLk]** を押すとテンキーモードに切り替わり、状態表示LCDに **11** が表示されます。

本パソコンでは、上図の太線で囲まれたキーがテンキーになります。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に青字で書かれています。

アドバイス

別売の PS/2 タイプのテンキーボードなどを接続している場合

別売のテンキーボードなどを接続している場合は、接続しているキーボードのテンキーが有効になります。パソコン本体のテンキー部分は、テンキーモードになりません。

2

本パソコンの取り扱いかた

主なキーの使いかた

ここでは、通常の文字を入力するキー以外のキーの動きについて説明します。

■ カーソルを移動するキー ■

- **[↑]** **[↓]** **[←]** **[→]** (カーソル)キー
上下左右にカーソルを移動します。
- **[PgUp]** (ページアップ)キー
前のページに切り替えるときに、**[Fn]** を押しながら **[PgUp]** を押します。
- **[PgDn]** (ページダウン)キー
次のページに切り替えるときに、**[Fn]** を押しながら **[PgDn]** を押します。
- **[Home]** (ホーム)キー
カーソルを行の最初に移動するときに、**[Fn]** を押しながら **[Home]** を押します。文書の最初に移動するときは、**[Fn]** と **[Ctrl]** を押しながら **[Home]** を押します。
- **[End]** (エンド)キー
カーソルを行の最後に移動するときに、**[Fn]** を押しながら **[End]** を押します。文書の最後に移動するときは、**[Fn]** と **[Ctrl]** を押しながら **[End]** を押します。

■ 入力する文字を切り替えるキー ■

- **[CapsLock]** (キャプスロック)キー
英大文字固定モードにするときに、**[Shift]** を押しながら **[CapsLock]** を押します。もう一度押すと解除されます。
- **[NumLk]** (ニューメリカルロック)キー
テンキーモードにするときに、**[Fn]** を押しながら **[NumLk]** を押します。もう一度押すと解除されます (**▶ P.42)。

■ 文字を削除するキー ■

- **[Back Space]** (バックスペース)キー
カーソルの左側にある 1 文字が削除されます。
- **[Del]** (デリート)キー
カーソルの右側にある 1 文字が削除されます。また、選択したファイルやアイコンを削除することもできます。
[Ctrl]と**[Alt]**を押しながら**[Del]**を押すと、実行中のアプリケーションを強制終了したり、Windows を再起動したり、本パソコンをリセットしたりできます。

■ 文字入力時に機能するその他のキー ■

- **[]** (スペース)キー
キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです。1文字分の空白を入力するときに使います。
- **[Enter]** (エンター)キー
「リターンキー」または「改行キー」とも呼ばれます。文章を入力しているときに改行したり、コマンドを実行したりするときに使います。
- **[Ins]** (インサート)キー
文章を入力しているとき、挿入モードと上書きモードを切り替えるときに押します。

■ 他のキーと組み合わせて使うキー ■

- **[Ctrl]** (コントロール)キー
- **[Shift]** (シフト)キー
- **[Alt]** (オルト)キー
アプリケーションごとに、機能が異なります。
- **[Fn]** (エフエヌ)キー
本パソコン独自のキーです。次のような使いかたがあります。
 - **[Fn]**を押しながら**[F3]**を押します。
スピーカーのON/OFFを切り替えます。この操作をして「ピッ」と音がした場合はスピーカーがONに、音がしない場合はOFFになります。
 - **[Fn]**を押しながら**[F5]**を押します。
640 × 480 ドットの解像度のときに、全画面表示と通常表示を切り替えます。
 - **[Fn]**を押しながら**[F10]**を押します。
別売のCRTディスプレイを接続しているときに、本パソコンの液晶ディスプレイと、接続したCRTディスプレイのどちらで表示するかを切り替えます (●▶P.117)。

■ 特別な働きをするキー ■

- **[Win]** (ウィンドウズ)キー (Windows の場合有効)
「スタート」メニューを表示するときに押します。
- **[App]** (アプリケーション)キー (Windows の場合有効)
選択した項目のポップアップメニューを表示するときに押します。右クリックと同じ役割をします。
- **[PrtSc]** (プリントスクリーン)キー
画面をコピーするときに、**[Fn]** を押しながら **[PrtSc]** を押します。

■ アプリケーションによって機能の異なるキー ■

- **[Esc]** (エスケープ)キー
1 つ前に行った作業に戻るときなどによく使われます。
- **[F1]** ~ **[F12]** (ファンクション)キー
- **[Scr Lk]** (スクロールロック)キー
アプリケーションごとに機能が異なります。
- **[Pause/Break]** (ポーズ/ブレイク)キー
画面の表示を一時的に止めるときなどに押します。
- **[Sys Rq]** (システムリクエスト)キー
アプリケーションでサポートしている場合、キーボードの状態を初期設定に戻すときなどに、**[Fn]** を押しながら **[Sys Rq]** を押します。

6

文字入力のしかた



本パソコンには、MS-IME98という日本語入力システムがあらかじめインストールされています。ここでは、MS-IME98の文字入力のしかたを説明します。

日本語を入力できる状態にする

ウィンドウに文字が入力できる状態にして以下の操作を行います。

1

【半角】を押します。



タスクバーにある「MS-IME98」のアイコンの表示がからに変わります。



この状態にすると日本語が入力できます。

アドバイス

「MS-IME98」のツールバーが表示されているときは

【半角】を押すと、「MS-IME98」のツールバーにある入力できる文字種の表示がからに変わります。



ここをクリックし「ひらがな」を選んで、日本語が入力できます。

この状態にすると日本語が入力できます。

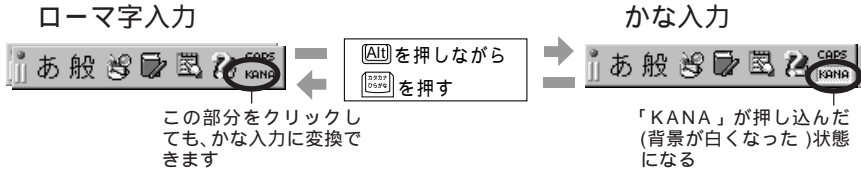
アドバイス

「（チルダ）」を入力するには

【Shift】を押しながら **【~】**を押すと入力できます。キーボードの **【~】**で直接入力することはできません。

ローマ字入力とかな入力の切り替え

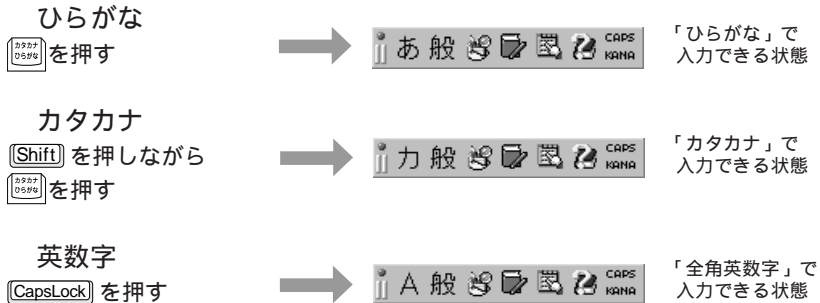
入力方法には、「ローマ字入力」と「かな入力」の2つがあります。ローマ字入力は、ローマ字読みでかなを入力します。かな入力は、文字キーをそのまま押します。「ローマ字入力」と「かな入力」を切り替えるには、**[Alt]**を押しながら**[CapsLock]**を押します。



[Ctrl]を押しながら**[CapsLock]**を押しても同様に切り替えることができます。

入力モードを切り替える

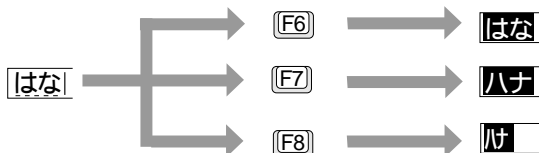
「MS-IME98」がONの状態(使える状態)で、次のようにして「ひらがな」、「カタカナ」、「全角英数字」を切り替えます。



文字の種類を変える

入力した文字を変換するときに、次のように文字の種類を変えることができます。

例) 「はな」と入力 → Fキーを押す → 文字の種類が変わって変換される

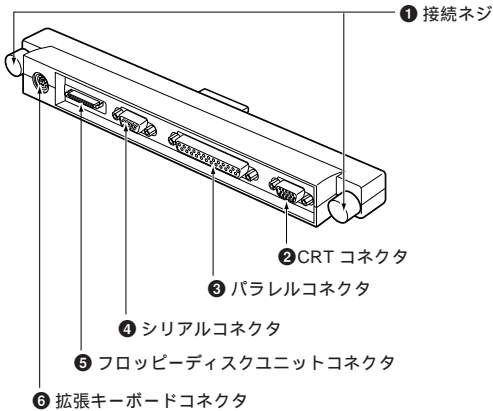


コネクタボックスを使う

コネクタボックスは、フロッピーディスクユニットのコネクタや拡張キーボードのコネクタ、シリアルやパラレルなどの各コネクタを備えており、パソコン本体に取り付けて機能を拡張することができます。

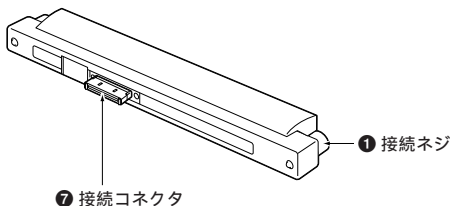
コネクタボックスの各部の名称と働き

オプション機器接続側



- ① 接続ネジ
コネクタボックスがパソコン本体にしっかり接続するように、ネジを回してロックします。
- ② CRTコネクタ(●▶ P.117)
別売のCRTディスプレイを接続します。
- ③ パラレルコネクタ(●▶ P.107)
別売のプリンタなどを接続します。
- ④ シリアルコネクタ(●▶ P.122)
RS-232C規格のインターフェースをもつ別売の機器を接続します。
- ⑤ フロッピーディスクユニットコネクタ(●▶ P.52)
添付のフロッピーディスクユニットを接続するコネクタです。

パソコン本体接続側



- ⑥ 拡張キーボードコネクタ(●▶ P.111)
PS/2タイプのコネクタをもつ別売のテンキーボードなどを接続するコネクタです。マウスを接続することはできません。
- ⑦ 接続コネクタ
コネクタボックスをパソコン本体に接続します。

アドバイス**コネクタボックスを取り付けるときは**

PS/2タイプのテンキーマウスをお使いの場合は、コネクタボックスの拡張キーボードコネクタに接続してください。

また、パソコン本体背面にあるPDCコネクタ（携帯電話用コネクタ）は使えなくなります。

コネクタボックスを取り付ける

ここでは、コネクタボックスの取り付けかたについて説明します。

警告

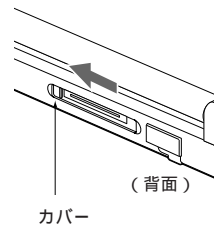
感電 コネクタボックスの取り付けを行う場合は、必ずパソコン本体のMAINスイッチを切り、ACアダプタを取り外してください。
感電や故障の原因となります。

- 1 Windowsを終了し、MAINスイッチをOFFにします。
必要に応じてデータを保存してから、Windowsを終了してください。
- 2 ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンからACアダプタを取り外します。

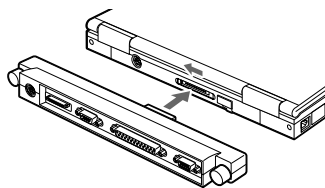
アドバイス**オプション機器を接続しているときは**

接続しているオプション機器の電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

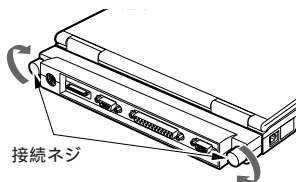
- 4 コネクタカバーを開きます。
パソコン本体背面の、コネクタボックス接続コネクタのカバーを、止まるまでスライドさせます。
カバーが完全に開いていないと、コネクタボックスは取り付けられません。



- 5 コネクタボックスを取り付けます。
コネクタを合わせてしっかり取り付けます。



- 6 接続ネジを回してロックします。
左右の接続ネジを押し込んでパソコン本体に差し込んでから、接続ネジを回してしっかり固定します。



コネクタボックスを取り外す

ここでは、コネクタボックスの取り外しかたについて説明します。

⚠ 警告

感電 コネクタボックスの取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体のMAINスイッチを切り、ACアダプタを取り外してください。
感電や故障の原因となります。

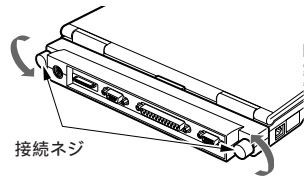
- 1 Windowsを終了し、MAINスイッチをOFFにします。
必要に応じてデータを保存してから、Windowsを終了してください。
- 2 ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンからACアダプタを取り外します。

アドバイス

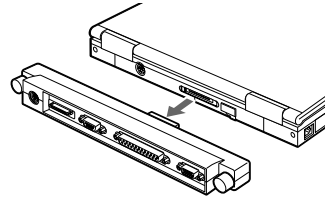
オプション機器を接続しているときは

接続しているオプション機器の電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

- 4 コネクタボックスの接続ネジをゆるめて
ロックを外します。
ロックが外れると、接続ネジが飛び出します。



- 5 コネクタボックスを取り外します。



- 6 コネクタカバーを閉じます。
止まるまでスライドさせてください。

2

本パソコンの取り扱いかた

8

フロッピーディスクユニットを使う

フロッピーディスクユニットを取り付ける

ここでは、フロッピーディスクユニットの取り付けかたを説明します。

⚠ 警告



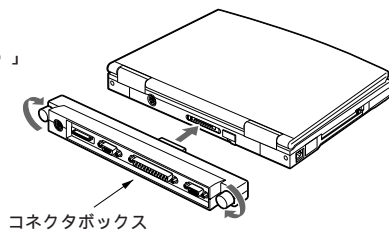
- 感電 ・ フロッピーディスクユニットの取り付けを行う場合は、必ずパソコン本体の MAIN スイッチを切り、AC アダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。
- ・ フロッピーディスクユニットは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意

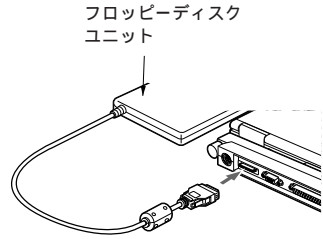


- 故障 ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよびフロッピーディスクユニットが故障する原因となります。

- 1 Windows を終了し、MAIN スイッチを OFF にします。
必要に応じてデータを保存してから、Windows を終了してください。
- 2 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンから AC アダプタを取り外します。
- 4 コネクタボックスを取り付けます。
詳しくは、「コネクタボックスを使う」
(●▶ P.48)をご覧ください。



- 5 フロッピーディスクユニットの接続ケーブルを、コネクタボックスのフロッピーディスクユニットコネクタに接続します。接続ケーブルのコネクタの上下の向きを確認し、コネクタの両側を押しながら、奥までしっかり差し込んでください。



2

本パソコンの取り扱いかた

フロッピーディスクユニットを取り外す

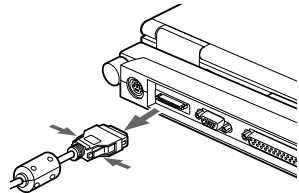
ここでは、フロッピーディスクユニットの取り外しかたを説明します。フロッピーディスクが入っているときは、あらかじめ取り出しておきます。

警告



感電 フロッピーディスクユニットの取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体のMAINスイッチを切り、ACアダプタを取り外してください。感電や故障の原因となります。

- 1 Windowsを終了し、MAINスイッチをOFFにします。必要に応じてデータを保存してから、Windowsを終了してください。
- 2 ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンからACアダプタを取り外します。
- 4 フロッピーディスクユニットを取り外します。接続ケーブルのコネクタの両側を押しながら引いて取り外します。

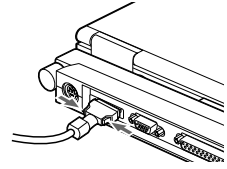


- 5 コネクタボックスを取り外します。詳しくは、「コネクタボックスを使う」(●▶ P.48)をご覧ください。

重要

接続ケーブルを取り外すときの注意

コネクタボックスからフロッピーディスクユニットを取り外すときは、接続ケーブルのコネクタの両側を押しながらいってください。ケーブルを無理に引っ張ると破損の原因となります。



フロッピーディスクユニットの注意事項

故障を防ぐため、フロッピーディスクユニットをお使いになるときは、下記の事項に注意してください。

- 極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- 衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所でのご使用は避けてください。
- 内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。何か異物が入ったときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
- 汚れは、やわらかい布でからぶきするか、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽くふいてください。ベンジンやシンナーなど、揮発性のものは避けてください。
- 本製品を分解したり、解体したりしないでください。
- フロッピーディスクユニットは、CRTディスプレイや液晶ディスプレイ、またはACアダプタなどの、磁界を発生する装置から離して使用してください。
- フロッピーディスクユニットを取り外した状態で、Aドライブにアクセスすると、しばらく(1分間以上)応答しないことがあります。

使用できるフロッピーディスク

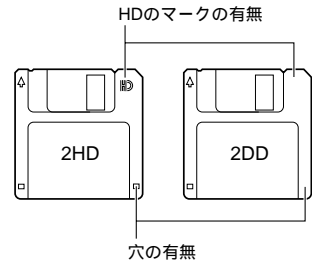
フロッピーディスクは、プログラムやデータを保存しておくための媒体です。ここではフロッピーディスクについての予備知識や、注意する点などを説明します。

■ お使いになれるフロッピーディスク ■

本パソコンでは、次の2種類のフロッピーディスクが使いになれます。

- 2HD フロッピーディスク
1.44MB(メガバイト)と1.2MBの記憶容量があります。容量は、フォーマットのしかたによって異なります。
- 2DD フロッピーディスク
2HDの半分の720KB(キロバイト)の記憶容量があります。

2種類のフロッピーディスクの違いは右図のとおりです。



■ 3 モードドライブについて ■

本パソコンのフロッピーディスクユニットは、1.44MB、1.2MB、720KBの各記憶容量でフォーマットされたフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。そのため、ほとんどのフロッピーディスクを読むことができます。

しかし、パソコンによってはドライブがこれらすべてのフォーマット形式に対応していない場合があります。他のパソコンと情報をやりとりするときは、相手のパソコンが対応しているフォーマット形式を確認する必要があります。たとえば、他のパソコンが1.2MBのフロッピーディスクは読めても1.44MBのフロッピーディスクが読めない場合は、1.2MBでフォーマットされたフロッピーディスクをお使いください。

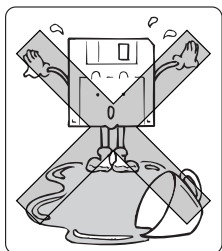
アドバイス

フォーマットについて

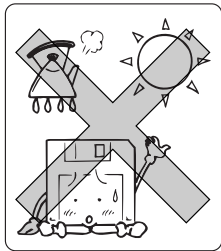
- 本パソコンでは、フロッピーディスクを1.2MBにフォーマットできません。1.2MBのフロッピーディスクをお使いになる場合は、1.2MBでフォーマットできる他のパソコンでフォーマットしてください。
- 同じ記憶容量のものでも、フロッピーディスクをフォーマットした環境(機種やソフトウェア)が違くと、フロッピーディスクのデータを読み込めないことがあります。また、他社製のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクは、お使いになれないことがあります。

フロッピーディスク取り扱い上の注意

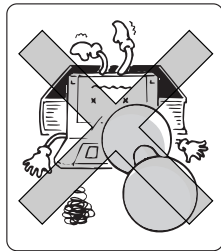
故障を防ぐため、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。



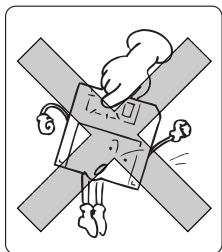
コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



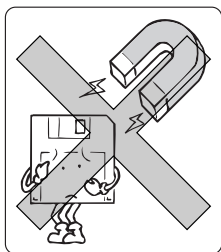
温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



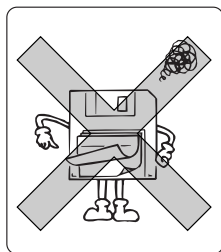
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



ディスク面には、絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。




ラベルを重ねて貼らないでください。

フロッピーディスクをセットする / 取り出す

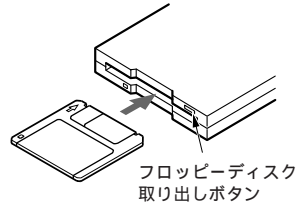
ここではフロッピーディスクのセットや取り出しかたについて説明します。

⚠ 注意

けが  フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクユニットの差し込み口に指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

セットする

- 1 フロッピーディスクをフロッピーディスクユニットに差し込みます。
矢印のある面を上にして、フロッピーディスク取り出しボタンが「カシャ」と飛び出るまで押し込んでください。



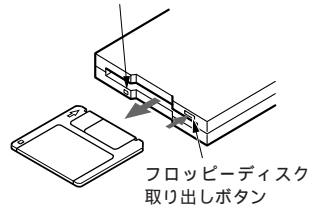
2

本パソコンの取り扱いがた

取り出す

- 1 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクユニットのアクセスランプが消えていることを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

アクセスランプ



重要

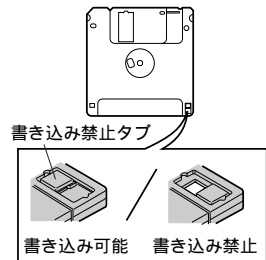
フロッピーディスクユニットのアクセスランプが点灯中のときは

- フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。
- サスペンド(一時停止)操作やレジューム(サスペンド状態から元に戻す)操作を行わないでください。正常に動作が完了しないことがあります。

アドバイス

フロッピーディスクのデータを守るにはフロッピーディスクに保存してある情報を消したり、追加して書き込みたくないときは、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態(書き込み禁止の状態)にします。

再び情報を消したり、書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態(書き込み可能な状態)にします。



フロッピーディスクユニットのお手入れ


フロッピーディスクユニットは、長期間使用するとヘッド(データの読み書きをするところ)が汚れてきます。下記の製品をご使用になり、ヘッドのクリーニングをしてください。






品名：クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号：0212116

(富士通ピー・アンド・エス取り扱い品 お問い合わせ 03-3434-0147)

⚠注意

 フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクユニットの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 2 「MS-DOSモードで再起動する」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。
MS-DOSモードの画面が表示されます。
- 3 「C:¥WINDOWS>」のあとに `c:¥fjuty¥clndsk 0` (0は数字のゼロ)と入力し、 を押します。
「clndsk」と「0」の間は、 を1回押してください。
- 4 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクユニットに差し込んで、 を押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です.あとXX秒」と表示されます。
終了すると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 5 フロッピーディスクユニットのアクセスランプが消えているのを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
- 6 「C:¥WINDOWS>」のあとに `exit` と入力し、 を押します。
Windowsの画面に戻ります。

9



バッテリーで使う

本パソコンをバッテリーで使うとき、使用できる時間には限りがあります。使っている途中でバッテリーが切れ、大切なデータをなくしてしまわないように、節電に心がけましょう。ここでは、バッテリーの充電方法や節電方法について説明します。

バッテリーを充電する

充電する

内蔵のバッテリーパックを充電するには、ACアダプタのプラグを本パソコンのDC-INコネクタに接続してから、コンセントに接続します。

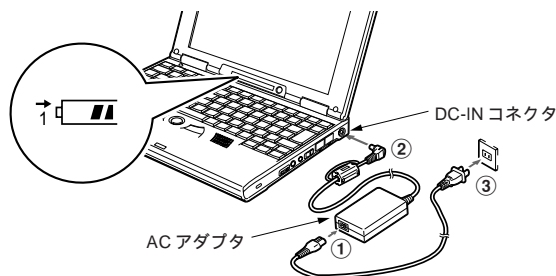
ACアダプタを接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。充電中は、状態表示LCDの (バッテリー残量表示)の左上に (バッテリー充電表示)が表示されます。




⚠ 注意

故障

間違えないように接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。



充電が完了すると、状態表示LCDの (バッテリー充電表示)が消え、バッテリー残量表示が (点滅)から (点灯)に変わります。

アドバイス

MAIN スイッチを OFF (○側) にしているときは

充電が完了してしばらくすると、状態表示LCDの表示が消えます。この場合には、いったん電源を入れて、バッテリー充電表示を確認してください。

重要

バッテリーの残量が90%以上のときは
充電を開始しないことがあります。



充電するときの温度は

充電は、周囲の温度が10 ~ 30 の範囲で行ってください。温度が低すぎたり高すぎたりすると、電池容量が低下し、バッテリーで使える時間が短くなります。

バッテリーで使用した直後に充電するときには

バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリー保護機能が働いて充電できないことがあります(状態表示LCDの→が点滅しています)。この場合でも、適温になると自動的に充電が開始されます。

フルに充電したいときは

充電中は、状態表示LCDの→(バッテリー充電表示)が消えるまで、ACアダプタを外さないでください。フル充電になると→が消えます。バッテリー残量表示がになっていても、左端が点滅()していたり、→が表示されているときは、フル充電ではありません。

充電にかかる時間

本パソコンの電源を切っている状態やサスペンド(一時停止)状態で充電したほうが、使いながら充電したときよりも、より短い時間で充電が完了します。
新品のバッテリーパックを0%からフル充電にする場合、バッテリーの充電時間は次のようになります。

バッテリーの充電時間

MAIN スイッチ	パソコンの状態	充電に必要な時間
ON	動作中	約 8 時間
ON	サスペンド状態 (一時停止)	約 3 時間
OFF	終了	約 3 時間

バッテリーで使える時間

本パソコンをバッテリーで使える時間(バッテリー稼動時間)は、本パソコンでの作業内容やバッテリーの状態によって変わります。大量のデータをコピーするなど、電力を多く消費する作業を行うと、バッテリー稼動時間は短くなります。
新品のバッテリーパックがフル充電の場合、稼動時間の目安は約 4.0 時間です。

重要**バッテリー稼働時間について**

- 周囲の温度が低いときは、温度が高いときよりも充放電の能力が低くなり、バッテリー稼働時間が短くなります。
- バッテリーを長期間使用して充放電を繰り返すと、充電能力が低下して、バッテリー稼働時間が短くなります。バッテリー稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーパックに交換してください。バッテリーパックの交換については、「バッテリーパックを交換する」(●▶ P.92)をご覧ください。

アドバイス**バッテリーで使える時間を長くしたいときは**

別売の「急速充電器」と予備のバッテリーパックをお使いください。急速充電器に取り付けたバッテリーパックからも、電力を供給することができ、バッテリー稼働時間を延ばすことができます。

急速充電器については、「急速充電器を使う」(●▶ P.91)をご覧ください。

2







本パソコンの取り扱いがた

バッテリーの残量表示を確認する

バッテリーだけで使用するときには、バッテリーの残量にご注意ください。バッテリーが完全になくなると、作業中のデータは失われてしまいます。

バッテリー残量表示

バッテリーの残量は、状態表示 LCD の「バッテリー残量表示」で確認できます。状態表示 LCD に何も表示されていないときは、MAIN スイッチを ON (側) にしてください。

-  約 100% ~ 76% 充電されています。
-  約 75% ~ 51% 充電されています。
-  約 50% ~ 26% 充電されています。
-  約 25% ~ 13% になっています。充電してください。
-  約 12% 以下になっています。バッテリー残量表示が点滅し、警告音が鳴ります。すぐに充電してください。
-  バッテリー切れ状態です (充電残量 0%)。充電が必要です。


重要

バッテリー切れ状態になると


自動的にサスペンド(一時停止)状態になり、ACアダプタを接続しないとレジューム(サスペンドする前の状態に戻す)できません。作業中のデータがあるときは、バッテリーが完全になくなる前にACアダプタを接続して、レジュームしてください。

アドバイス

バッテリー残量表示について

状態表示LCDに表示されるバッテリー残量表示()は、バッテリー(リチウムイオン電池)の特性上、使用環境(温度条件やバッテリーの充放電回数など)により、実際のバッテリー残量とは異なる表示をする場合があります。

■ バッテリー異常の表示 ■

バッテリーが正しく充電されないときは、 が点滅します。バッテリーパックの取り付けをやり直してください。それでも表示される場合には、バッテリーパックが異常です。新しいバッテリーパックと交換してください。

バッテリーパックの交換については、「バッテリーパックを交換する」(●▶ P.92)をご覧ください。

バッテリー残量が少なくなったときは

バッテリー残量が約12%以下になると、バッテリー残量表示が点滅し、「ピー」という警告音が一定間隔で鳴り続けます。

また、ご購入時の設定では、バッテリー残量が13%になると画面に警告のメッセージが表示されます。警告のメッセージについては、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで設定を変更することもできます(●▶ P.68)。

アドバイス

次の場合には警告音が鳴りません

- 本体右側面の音量ボリュームで、スピーカーの音量を最小にしている場合
- **[Fn]**を押しながら**[F3]**を押して、スピーカーをOFFにしている場合
(この操作で「ピー」となったときに、スピーカーがONになります。)

■ バッテリー残量が少なくなったときの対処 ■

なるべく早く AC アダプタを接続し、バッテリーを充電してください。
AC 電源が近くにないときは、すぐに次のいずれかの操作を行ってください。

- ① 作業中のデータを保存し、Windows を終了して電源を切る
- ② Save To Disk 機能 (●▶ P.64) を利用して、本パソコンの電源を切る
- ③ サスペンド (一時停止) 状態にする (●▶ P.64)

データを保存するときは、多くの電力を消費します。大量のデータを保存する必要がある場合には、②の方法で対処してください。

また、バッテリー残量表示が点滅を始めてからしばらく本パソコンを使用した場合には、③の方法で対処してください。なお、サスペンド状態は微量の電力を消費します。なるべく早く AC アダプタを接続して充電してください。

重要

バッテリー残量が少なくなったときにデータを保存すると

保存の途中で電源が切れ、作業中のデータを失うことがあります。大量のデータを保存するときは、必ず AC アダプタを接続してから保存してください。

バッテリー取り扱い上のご注意

■ バッテリーは自然放電します ■

- バッテリーは、充電後お使いにならずに保管しても、約1ヵ月で自然放電してしまいます。バッテリーは、使う直前に充電することをお勧めします。
- 長期間(約1ヵ月以上)本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーパックを取り外して、涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
月に一度は本パソコンをバッテリーで使用し、バッテリーの状態を確認してください。

■ バッテリーは消耗品です ■

バッテリーは、長期間使用して充放電を繰り返すと、充電能力が低下します。バッテリー稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーパックに交換してください。バッテリーの交換については、「バッテリーパックを交換する」(●▶ P.92)をご覧ください。

作業を一時停止 / 中断するには

本パソコンを使用中に作業を一時的に中断したくなるときは、作業の状況に合わせて3つの方法で、作業を終了または中断することができます。ここでは、それらの使い分けと、操作方法について説明します。

状況に合わせた作業の終わりかた

以下の3つの終了方法を状況に合わせて使い分けることにより、バッテリーの消費を抑えることができます。

作業状態をメモリに保持したまま一時停止する（サスペンド機能*）
作業中の状態をメモリに保持したまま、メモリ以外の大部分の電源を切り、本パソコンをサスペンド（一時停止）状態にします。

この場合、次に操作を行うときは、レジューム操作によって前回の作業状態から作業を再開することができます。

操作については、「一時停止状態にする（サスペンド機能）」（**▶ P.65）をご覧ください。

* Windows98の画面やヘルプでは、「サスペンド機能」は「スタンバイ機能」と呼ばれています。「サスペンド」と「スタンバイ」は、同じ機能を表します。

作業状態をハードディスクに保存して電源を切る
(Save To Disk 機能*)

作業中の状態をハードディスクに保存して、パソコン本体のすべての電源を切り、本パソコンを休止状態にします。

この場合、次に操作を行うときは、レジューム操作によって、前回の作業状態から作業を再開することができます。

操作については、「作業を中断して電源を切る(Save To Disk機能)」（**▶ P.67）をご覧ください。

* Windows98の画面やヘルプでは、Save To Disk 機能で電源を切った状態は、「休止状態」と呼ばれています。

Windowsを終了して、電源を切る

作業を完全に終了するときに行う終了方法です。

- ① 作業中のデータを保存し、
- ② 使用中のすべてのアプリケーションを終了してから、
- ③ Windowsを終了し、
- ④ MAINスイッチをOFFにします。

この場合、次に操作を行うときは、Windowsを起動してアプリケーションを起動するなど、すべて最初から始めることになります。

操作については、「電源を切る」（**▶ P.33）をご覧ください。

一時停止状態にする（サスペンド機能）

以下の操作を行うと、メモリの内容（作業状態）を保持したまま、メモリ以外の大部分の電源が切れます。作業を一時停止して節電することができます。

- 1 作業中に SUS/RES スイッチを押します。
または、液晶ディスプレイを閉じます。
「ピピッ」という音がして、画面が真っ暗になります。
この状態が「サスペンド（一時停止）状態」です。
サスペンド（一時停止）状態では、状態表示 LCD の①（SUS/RES 表示）が点滅します。

■ 作業を再開（レジューム）するには ■

もう一度 SUS/RES スイッチを押します。

アドバイス

次の操作でもサスペンド（一時停止）状態になります

「スタート」メニューの「Windows の終了」をクリックし、「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」を選択して、「OK」をクリックします。

同じ操作で Save To Disk 機能を利用することもできます

BIOS セットアップの設定によって、同じ操作（SUS/RES スイッチを押すなど）で Save To Disk 機能で電源を切るように設定することもできます（●▶ P.161）。

電話が鳴ったらレジュームするように設定できます


モジュラーケーブルで電話回線に接続しているときに、電話が鳴ったら自動的にレジュームするように設定することができます。詳しくは、「電話がかかると再開（レジューム）するように設定する」（●▶ P.71）をご覧ください。

2

本パソコンの取り扱いかた

重要

次の場合には液晶ディスプレイを閉じたり、SUS/RESスイッチを押さないでください。必ず以下の作業を完了または中断させてから、サスペンド(一時停止)してください。

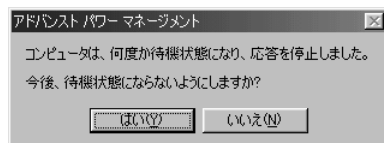
- フロッピーディスクやCD-ROMドライブへのアクセス中
動作が完了しないことがあります。
- ハードディスクへのアクセス中やWindowsの終了処理中(状態表示LCDにが表示されているとき)
ハードディスクが壊れたり、動作が正常に完了しないことがあります。
- モデムで通信中
通信が終了してからサスペンド機能が働きますが、アプリケーションによってはエラーとなる場合があります。
- PCカードの利用中や、LANカード経由でネットワークに接続中
バッテリー稼動時間が短くなったり、動作が正常に完了しないことがあります。また、サスペンド機能が働かないことがあります。

サスペンド(一時停止)中は、MAINスイッチをOFFにしないでください。サスペンド状態では、作業状態をメモリに保存しています。MAINスイッチをOFFにすると、作業中のデータがすべて消えてしまいます。

「今後、待機状態にならないようにしますか?」と表示されたら


このメッセージは、サスペンド中に電源を切ったり異常終了したりすると、表示されることがあります。

表示された場合には、必ず「いいえ」をクリックしてください。「はい」をクリックすると、それ以降サスペンド機能が使用できなくなります。



作業を中断して電源を切る (Save To Disk 機能)

以下の操作を行うと、メモリの内容 (作業状態) をハードディスクに保存したあと、パソコン本体のすべての電源が切れます。

- 1 作業中に **[Fn]** を押しながらか SUS/RES スイッチを押します。
「ピピッ」という音がして、ハードディスクへの保存状態を示す画面が表示されます。保存が完了すると、自動的に本パソコンの電源が切れます。
この状態では、状態表示 LCD の  (SUS/RES 表示) が消え、MAIN スイッチを OFF にすることができます。

■ 作業を再開 (レジューム) するには ■

もう一度 SUS/RES スイッチを押します。MAIN スイッチを OFF にしているときは、ON (側) にします。

重要

次の場合には Save To Disk 機能を使わないでください

必ず以下の作業を完了または中断させてから、Save To Disk 機能で電源を切ってください。

- フロッピーディスクや CD-ROM ドライブへのアクセス中
動作が完了しないことがあります。
- PC カードの利用中や、LAN カード経由でネットワークに接続中
バッテリー稼動時間が短くなったり、動作が正常に完了しないことがあります。また、Save To Disk 機能が働かないことがあります。

オプション機器を接続しているときは

Save To Disk 機能を使用したときは、レジューム時に各オプション機器が初期化されるため、Save To Disk 機能で電源を切る前の作業状態に戻らないことがあります。


Save To Disk 機能が使えない場合

ハードディスクに、Save To Disk 機能用の保存領域 (Save To Disk 領域) が作成されていない場合は、Save To Disk 機能は使えません。

詳しくは、「Save To Disk 領域の作成」(●▶ P.212) をご覧ください。
ご購入時には、あらかじめ Save To Disk 領域が作成されています。

節電の設定を変更する

本パソコンには、一定時間操作しなかったときや特定の状態になったときに、一部の機能を制限して節電する機能があります。これらの機能は、状況に応じて適切に働くように、あらかじめご購入時に設定されています。通常は、設定を変更する必要はありません。

節電機能の動作を変更したい場合には、「コントロールパネル」の  (電源の管理) または「PMSet98」で設定することができます。

アドバイス

Windows98 の ACPI 機能について

Windows98 の節電機能には、APM (Advanced Power Management) 機能と ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能という 2 つの管理方法があり、いずれかを選択して利用することができます。


ただし、ACPI 機能を利用する場合にはさまざまな制限事項があるため、本パソコンのご購入時には、APM 機能を利用するように設定されています。

ACPI 機能の設定方法や注意事項については、インターネットにてご案内する予定です。

インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」

(<http://www.fmworld.ne.jp/>)

「電源の管理」で設定を変更する

本パソコンを一定時間操作しなかったときに節電する機能や、その他の基本的な節電機能については、「コントロールパネル」の  (電源の管理) で設定します。

■「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示する■

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 (電源の管理) をクリックします。

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



■ 設定を変更する ■

「電源設定」タブでは、一定時間操作しなかったときの節電機能を設定します。

「アラーム」タブでは、バッテリーの残量が少なくなったときの警告方法について設定します。

各設定項目の機能や設定のしかたについて詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。


アドバイス

「電源の管理のプロパティ」とBIOSの省電力機能との関係について

本パソコンは、BIOSセットアップの「省電力」メニューでも、節電機能を設定することができます。

詳しくは「省電力メニュー」の各設定項目の説明(●▶ P.159 ~ 164)をご覧ください。



バッテリーの残量が12%以下になったとき

「アラーム」タブの設定に関係なく、状態表示LCDの  (バッテリー残量表示) が点滅し、警告音が鳴ります。詳しくは「バッテリー残量が少なくなったときは」(●▶ P.62)をご覧ください。

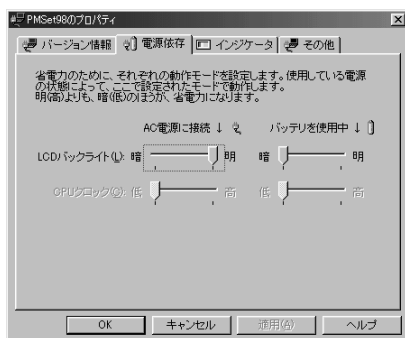
「PMSet98」で設定を変更する

「PMSet98」では、本パソコンをバッテリーで使用しているときに液晶ディスプレイの明るさを落として節電する機能や、バッテリーインジケータの表示方法などを設定できます。


■「PMSet98のプロパティ」ウィンドウを表示する■



- 1 タスクバーの  (AC電源使用時) または  (バッテリー使用時) をダブルクリックします。





「PMSet98のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



アドバイス


タスクバーの  が点滅しているときは
バッテリーを充電していることを示しています。

タスクバーに  または  が表示されていないときは
「PMSet98」が起動していません。「PMSet98」を起動するには、「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「PMSet98」の順にマウスポインタを合わせ、「1.PMSet98」をクリックします。

PMSet98を終了するには
タスクバーに  または  が表示されているときは、「PMSet98」の機能が働いています。「PMSet98」の機能を使用しないときは、 または  を右クリックして「終了」をクリックし、「PMSet98」を終了させてください。

■液晶ディスプレイの明るさを落として節電する■

「電源依存」タブの「LCDバックライト」の設定を変更します。AC電源で使用している場合と、バッテリーで使用している場合のそれぞれについて設定できます。

 を「暗」側にドラッグすると液晶ディスプレイの明るさを落として節電状態になり、「明」側にドラッグすると標準の状態になります。

アドバイス

BIOS セットアップの「液晶ディスプレイバックライト」との関係は

「PMSet98」が起動していないときは、BIOS セットアップの「省電力」メニューの「液晶ディスプレイバックライト」の設定(●▶ P.164)が有効となり、起動しているときは「PMSet98」の設定に従って動作します。

「CPU クロック」について

この項目は、設定できません。

■ 電話がかかると再開(レジューム)するように設定する ■

「その他」タブの「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」をクリックしてにします。サスペンド(一時停止)中に電話回線からモデムに着信したとき、自動的にレジュームする(サスペンドする前の状態に戻る)ようになります。

ただし、PDC コネクタに接続した携帯電話からの着信ではレジュームしません。

アドバイス

BIOS セットアップの「モデム着信によるレジューム」との関係は

この設定は、BIOS セットアップの「省電力」メニューの「モデム着信によるレジューム」の設定(●▶ P.162)と連動しています。「PMSet98」で設定を変更すると、BIOS セットアップの設定も変更されます。

ただし、Windows をお使いのときは自動的にレジュームするように設定され、「PMSet98」が起動していないと解除できません。

レジュームするように設定したときは

- BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」(●▶ P.161)を「Save To Disk」に設定している場合でも、サスペンド動作時に Save To Disk 機能が働かず、サスペンド(一時停止)状態になります。
(この場合でも、**[Fn]** を押しながら SUS/RES スイッチを押すと、Save To Disk 機能は働きます。)
- Save To Disk 機能で電源を切っているときは、レジュームしません。

■ インジケータを表示する ■

「インジケータ」タブの「インジケータを表示する」をクリックしてにします。バッテリー残量や電源の状態を示すインジケータが、画面に表示されます。

電源の状態が表示されないときは、「電源の状態を表示する」をクリックしてにしてください。

「表示位置」の右の をクリックして、インジケータの表示位置を変更することもできます。

インジケータの表示と電源の状態



:  があれば AC アダプタに接続中。



:  が黄色のときは充電中。



: バッテリーだけで使用中。グレー部分が消費した割合を表示。

電話回線への接続と所在地情報の設定

インターネットを利用するときは、本パソコンを電話回線に接続します。

ここでは、室内の電話回線を使って通信する場合の接続方法と所在地情報の設定方法を説明します。携帯電話を使って通信する場合の接続方法については、「携帯電話やPHSを使う」(●▶ P.103)をご覧ください。

接続前の確認と準備

重要

内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意

- 内蔵モデムは一般加入電話(NTTの電話回線)用です。ビジネスホン、ホームテレホンなど、一般加入者回線とは異なる仕様の電話回線に接続すると、故障の原因となることがあります。
- 会社などの構内回線(内線)に接続する場合は、アナログPBX構内回線(2線式)であることをお確かめください。故障の原因となりますので、デジタルPBX構内回線には接続しないでください。
また、構内回線に接続した場合には、通信速度が遅くなる場合があります。
- 海外では、電話回線の仕様が異なりますので、接続しないでください。
詳しくは、『FMV-BIBLO 内蔵モデム 取扱説明書』をご覧ください。

ITU-T 標準規格 V.90 で通信するには

本パソコンのご購入時には、K56flex™という規格で通信するためのモデムドライバがインストールされています。ITU-T V.90で通信するには、モデムのドライバを更新する必要があります。更新のしかたについては、「モデムドライバの更新」(●▶ P.14)をご覧ください。

電話回線の接続口について

電話回線の接続口には、一般的に「モジュラージャック」と「ローゼット」の2種類の形式があります。モジュラーケーブルは、接続口がモジュラージャックの場合のみ、接続できます。

ご利用になる電話回線の接続口が、モジュラージャックでない場合には、NTTに工事を依頼して、コネクタをモジュラージャックに変更する必要があります。

電話回線に電話機を取り付けている場合は

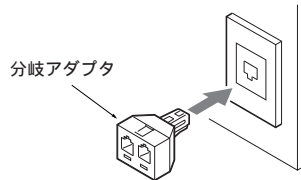
本パソコンを電話回線に接続するときは、電話機のモジュラーケーブルは取り外します。

電話機を外している間、電話は使用できません。

■ 電話機を取り外したくないときは ■

市販の分岐アダプタを利用すると、本パソコンと電話機の両方を電話回線につないでおくことができます。

分岐アダプタを壁のモジュラージャックに取り付け、分岐アダプタに本パソコンと電話機の両方を接続します。分岐アダプタの2つのコネクタに区別はなく、どちらに接続してもかまいません。



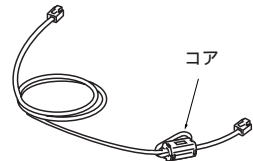
アドバイス

分岐アダプタを使用しているときの注意事項

- 内蔵モデムで通信中は、電話をかけた受けたりできません。
- 通信中は、電話の受話器を外さないでください。受話器が外れると受話器からの音声が入り込み、正しいデータの送受信ができなくなります。
- ノイズによって、通信エラーが発生することがあります。
- 通信速度が遅くなる場合があります。

モジュラーケーブルの準備

モジュラーケーブルは、本パソコンに添付されているもの（長さ4m）をお使いください。



ケーブルの長さが足りないときは、市販のモジュラーケーブルを利用することもできます。

重要

市販のモジュラーケーブルを使うときは

ノイズが発生して、通信エラーを引き起こすことがあります。

ノイズの影響を減らすため、添付のモジュラーケーブルのコアを取り外して、お使いになるケーブルに付け替えてください。特に、長いケーブルをお使いの場合には、必ずコアを取り付けてください。

電話回線に接続する

⚠ 警告

感電



近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜き、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

⚠ 注意

故障



間違えないように接続してください。誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および内蔵モデムが故障する原因となることがあります。

感電



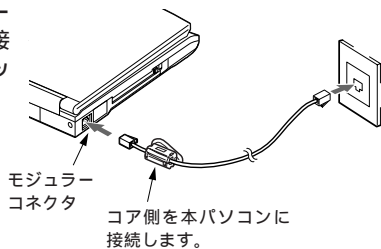
モジュラーコネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。

- 1 電話機を電話回線から取り外します。壁のモジュラージャックから、電話機を接続していたモジュラーケーブルを外します。モジュラープラグのツメを押さえながら、引き抜いてください。



- 2 本パソコンのモジュラーコネクタのゴムカバーを外します。取り外したカバーは、モジュラーケーブルを本パソコンから取り外したときに、元どおりに取り付けます。なくさないように保管してください。

- 3 モジュラーコネクタに、モジュラーケーブルのコアが付いている方のプラグを接続し、もう一方を壁のモジュラージャックに接続します。



所在地情報の設定と切り替え

インターネットを使うなど通信を行うときは、所在地情報が正しく設定されていることが必要です。

所在地情報は、Windows98のセットアップ操作(●▶ P.9)ですでに設定しています。ここでは、移動先などでも通信が行えるように、所在地情報を追加したり切り替える操作を説明します。

■ 所在地情報とは ■

インターネットなど通信を利用するときは、本パソコンのあるところ(これを発信元といいます)から、接続先(アクセスポイントといいます)に電話をかけて相手のコンピュータに接続します。

このとき、接続先に電話を正しくかけるための情報が所在地情報で、次のように電話のかけかたを決める働きをします。

- トーンとパルスのどちらの方法でダイヤルするか
- 市外局番を付けてダイヤルするかどうか
- 内線から外線につなぐための番号(外線発信番号)をダイヤルするかどうか

所在地情報の変更が必要になるのは

出張先などの移動先や携帯電話で通信を行うときは、その状況に合わせて、正しく電話がかけられるように所在地情報の内容を変えることが必要です。

接続のたびに、所在地情報の内容を変えるのは面倒です。以下の「移動先や携帯電話用の所在地情報を設定する」の操作で、あらかじめ複数の所在地情報を作成しておけば、接続するときに所在地情報を選びなおすだけで済みます。

■ 移動先で室内の回線を使うときは ■

移動先で通信を行うときは、次のようにダイヤルすることが必要です。

- 移動先の電話回線に合わせてトーンかパルスでダイヤルする
- アクセスポイントの市外局番が移動先の市外局番と違えば、市外局番を付けてダイヤルする
- 移動先の電話回線に合わせて、外線発信番号を削除または付加してダイヤルする


■ 携帯電話やPHSを使うときは ■

携帯電話やPHSで通信を行うときは、次のようにダイヤルすることが必要です。

- 必ずトーンでダイヤルする
- 必ず市外局番を付けてダイヤルする
- 必ず外線発信番号を付けないでダイヤルする

移動先や携帯電話用の所在地情報を設定する

移動先や携帯電話でも通信が行えるように、移動先や携帯電話用の所在地情報をあらかじめ作成しておきましょう。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (テレフォニー) をクリックします。
「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「登録名」の右にある「新規」をクリックします。
「新しい場所が作成されました」というメッセージが表示されます。
- 4 表示されたメッセージのウィンドウの「OK」をクリックします。
「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 5 「登録名」の欄に所在地情報に付ける名前を入力します。
所在地情報の内容(市外局番、外線発信番号、ダイヤル方法)が分かる名前をつけます。
例: 自宅(042、パルス)、会社(03、0発信、トーン)、携帯(000、トーン)、PHS(000、トーン)



- 6 「国名/地域」が「日本」になっていることを確認します。
- 7 市外局番に発信元の市外局番を半角数字で入力します。

アドバイス**携帯電話やPHSの場合は**

- 接続先の市外局番が、所在地情報に設定した市外局番と同じであると、接続するとき市外局番がダイヤルされません。
- 接続先とは違った市外局番(「000」など)を入力して、市外局番を常に付けてダイヤルするようにします。

8

内線から電話する場合は外線発信番号を入力します。

会社やホテルなど内線電話を使う場合は、外線につなぐための「0」などの番号を入力します。

外線発信番号が不要な一般の電話や、携帯電話、PHSを使うときは、外線発信番号があると接続できません。

アドバイス**外線発信番号に続けてダイヤルすると接続できない場合は**


外線発信番号をダイヤルした後に、少し待ってからダイヤルしないと電話がかからない場合は、半角のカンマ「,」を外線発信番号の次に入力します。

カンマ1 つにつき、約2秒間待ってからダイヤルします。

例:「0,」(0の後約2秒待ってダイヤル)「0,,」(4秒待ってダイヤル)

9

「ダイヤル方法」を設定します。

使用する電話がパルス式(ダイヤル回線)なら「パルス」、トーン式(プッシュ回線)なら「トーン」をクリックして、にします。


携帯電話やPHS、またISDN回線を使うときは、トーンに設定します。

アドバイス**パルス式かトーン式が分からないときは**

パルス式とトーン式では、ダイヤルするときの状態が次のように違うので、確認してください。

- パルス式の電話は、「ブツブツ...」と高低のない音が繰り返されます。
- トーン式の電話は、「ビッポッパ」と高低のある音がします。

10

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックし、「コントロールパネル」の (閉じる) をクリックします。



以上で、設定した所在地情報が登録されました。

使用する所在地情報を切り替える


インターネットへの接続では、前回使用した所在地情報を使って接続するように自動的に設定されています。

そのため、発信元場所が変わったり、使用する電話が携帯やPHSが変わったときは、所在地情報を切り替える必要があります。

切り替えは、Internet Explorer や Outlook Express を起動する前に、以下の操作で行います。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (テレフォニー) をクリックします。
「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「登録名」の右にある  をクリックし、一覧から使用する所在地情報をクリックします。



- 4 「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックし、「コントロールパネル」の  (閉じる) をクリックします。

11

画面の解像度と発色数を変更する

画面の解像度を大きい値にすると、画面の表示範囲が広くなり、多くの情報を表示できるようになります。また、発色数を増やすと、画面に表示できる色が多くなり、画面がきれいに表示されます。

表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは、次のとおりです。

解像度	発色数			
	16 色	256 色	High Color (16 ビット)	True Color (24 ビット)
640 × 480 ドット	1	1	1	1 2
800 × 600 ドット	×			2
1024 × 768 ドット	×	3	3	×

- 1 640 × 480 ドットの領域が、ディスプレイの中央に表示されます。
- 2 液晶ディスプレイで表示できる発色数は、最大で26万色です。そのため、True Color (24 ビット) は26万色で表示されます。
- 3 仮想スクリーンモードでの表示となります。仮想スクリーンモードでは、1024 × 768 ドットの領域のうちの800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はクイックポイント でマウスポインタを動かすことによって画面をスクロールさせて表示させます。

画面を1024 × 768 ドットで表示しているときは、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がずれません。マウスポインタの移動はクイックポイントで行ってください。

アドバイス

ご購入時の解像度と発色数は

解像度は800 × 600 ドット、発色数はTrue Color (24 ビット) に設定されています。High Color (16 ビット) は6万5千色、True Color (24 ビット) は1677万色です。

別売のCRT ディスプレイを接続したときは

「CRT ディスプレイで表示できる解像度と発色数は」(●▶ P.121) をご覧ください。


解像度と発色数を変更する

アドバイス

解像度や発色数を変更するときの注意事項

- 表示モードを変更するときに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- アプリケーションによっては、発色数の設定によって正常に動作しないことがあります。アプリケーションの動作環境を確認してから、発色数を変更してください。
- 画面の解像度を変更すると、タッチパネルのタッチした位置とマウスポインタの位置がずれてしまいます。「タッチパネルの調整のしかた」(**▶ P.40)をご覧ください。また、仮想スクリーンモードではクイックポイント をお使いください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

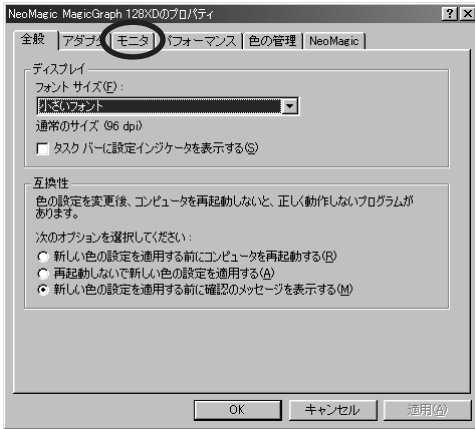
2  (画面) をクリックします。

3 「設定」タブをクリックします。
このあと、はじめて解像度を1024 × 768 ドットに変更する場合以外は、手順 16 に進んでください。

4 「詳細」をクリックします。



5 「モニタ」タブをクリックします。



「モニタ」が表示されます。

6 「変更」をクリックします。

「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。

7 「次へ」をクリックします。

8 「特定の場所にあるすべてのドライバの…」をクリックして  にします。

9 「次へ」をクリックします。

「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください。……」のウィンドウが表示されます。

10 左下の「すべてのハードウェアを表示」をクリックして  にします。

- 11 「製造元」と「モデル」の一覧を以下のように設定します。
製造元：「(標準モニタの種類)」
モデル：「Super VGA 1024x768」



- 12 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 13 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択した...」というウィンドウが表示されます。
- 14 「完了」をクリックします。
「NeoMagic MagicGraph 128XD のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 15 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。


アドバイス


「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたときは

- 1 「OK」をクリックします。
- 2 「この設定を保存しますか？」というウィンドウで「はい」をクリックします。
このあとは、手順 16 に進んでください。

16 解像度や発色数を変更します。



解像度を変更するには、「画面の領域」の  を左右にドラッグしてください。

発色数を変更するには、「色」の欄の  をクリックし、一覧から変更したい発色数をクリックしてください。

アドバイス

16 色表示について

発色数を 16 色にするときや 16 色表示から他の発色数に変更するときには、再起動が必要になります。

また、16 色表示になっているときには、次の解像度と発色数の組み合わせは選択できません。

- 640 × 480 ドット、True Color (24 ビット)
- 800 × 600 ドット、High Color (16 ビット) 以上
- 1024 × 768 ドット、High Color (16 ビット) 以上

これらの設定に変更したいときは、いったん別の発色数に変更して再起動したあとに、もう一度設定し直してください。

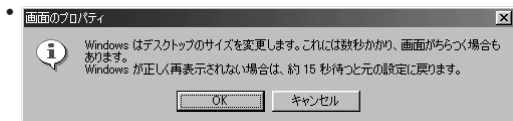
256 色以下では AUV は正常に表示できません

発色数を 256 以下に設定すると AUV の起動時に、正常に画面が表示できないため「このプログラムを使用するには.....」のメッセージが表示されます。

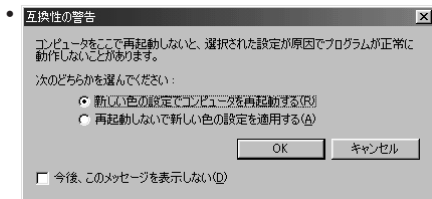
この場合、画面の発色数を戻すときは、「[コントロールパネル]の[画面]を開く」をクリックします。発色数を変えずに、「AUV」を起動するには「起動する」, 「AUV」を終了するには「終了する」をクリックします。


17 「OK」をクリックします。

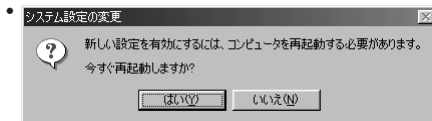
次のいずれかのウィンドウが表示されます。このあと、他のウィンドウが表示されたときは、「OK」または「はい」をクリックしてください。



「OK」をクリックします。「この設定を保存しますか？」と表示されたら、15 秒以内に「はい」をクリックしてください。



「新しい色の設定で...」をクリックして  にし、「OK」をクリックします。本パソコンが再起動し、画面が設定した内容に変更されます。



「はい」をクリックします。本パソコンが再起動し、画面が設定した内容に変更されます。

3

オプション機器を使う

本パソコンにさまざまなオプション機器を接続すると、本パソコンの機能をさらに拡張できます。

オプション機器を接続して使えるようにする方法を説明します。

1. オプション機器を使用するには..... 86
2. オプション機器の活用例 89
3. 急速充電器を使う 91
4. PCカードを使う 95
5. CD-ROMドライブを使う 100
6. 携帯電話やPHSを使う 103
7. プリンタを使う 107
8. テンキーボードを使う 111
9. メモリを増やす 113
10. CRTディスプレイを使う 117
11. RS-232C規格対応のオプション機器を使う 122
12. USB規格対応のオプション機器を使う 124
13. 外付けのハードディスクを使う 125

1

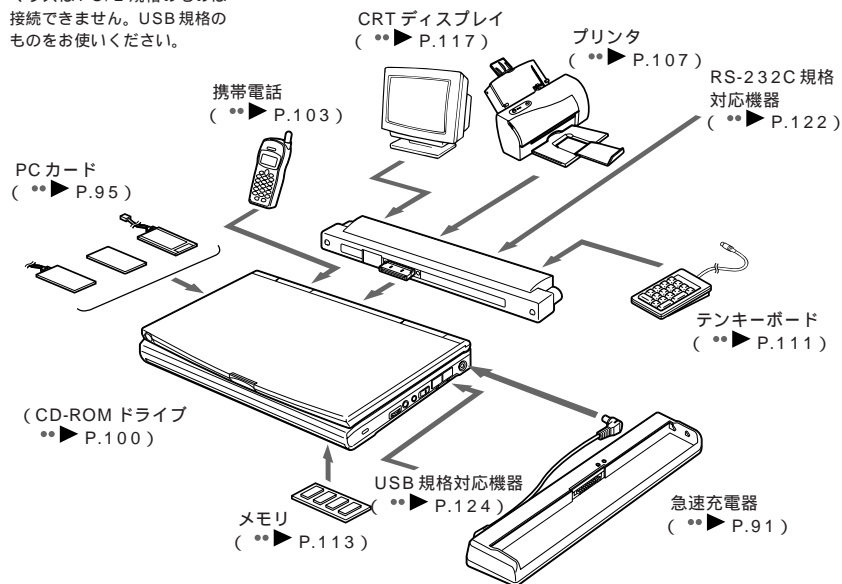
オプション機器を使用するには

本パソコンで使用できるオプション機器の種類とご購入される際に留意していただきたいことについて説明します。

使用できるオプション機器の種類

オプション機器とは、本パソコンにさまざまな機能を付け加える機器のことです。本パソコンを使う目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

マウスはPS/2規格のものは接続できません。USB規格のものをお使いください。



ご購入時に気をつけること

ここでは、別売のオプション機器をご購入される前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

■ 本パソコンは「PC/AT 互換機」■

パソコンには、さまざまな種類のものがあります。本パソコンは、^{ピーシーエイティ}「PC/AT 互換機」と呼ばれる種類のパソコンです。また、通称で「DOS/V^{ドスファイ}パソコン」と呼ばれることもあります。

ここでは、オプション機器の接続について、PC/AT互換機の特徴に沿って説明しています。

■ 接続は専用ケーブルで ■

オプション機器を接続するときに使うケーブルは、プリンタには「プリンタケーブル」というように、接続するオプション機器によって専用のものが用意されています。また、パソコンの規格によっても使えるケーブルが決まっています。本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」などと表示されたものです。形状が同じでつながるように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。よく確かめてご用意ください。

■ 純正品をお使いください ■

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いください。純正品については、販売店などで配布している「価格表」でご確認ください。

パソコン用の機器は、さまざまなメーカーから提供されています。他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになって正しく動作しない場合は、まずその製品の製造元のメーカーにお問い合わせください。その後、弊社にお問い合わせいただく場合は、製造元のメーカー名、品名をご確認のうえお問い合わせください。

オプション機器のデバイスドライバについて

オプション機器を使用するためには、多くの場合、本パソコンにデバイスドライバをインストールすることが必要です。

■「デバイスドライバ」が必要■

「デバイスドライバ」とは、パソコンに接続する機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのことです。「ドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。たとえば、プリンタの中でも、メーカーや機種が違えばドライバも異なります。必要なドライバは、ほとんどのオプション機器にフロッピーディスクなどで添付されています。ただし、オプション機器でもメモリのように、ドライバを意識する必要のないものもあります。

コラム

ドライバについて

パソコンでオプション機器を使用するときは、多くの場合、ケーブルで機器どうしをつなげたあとに、ハードディスクに「ドライバ」をインストールする必要があります。

たとえば、プリンタを使用するには、パソコンとプリンタを接続し、ハードディスクに「プリンタドライバ」をインストールします。

プリンタドライバはパソコンとプリンタの仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、プリンタが理解できるように翻訳するのがプリンタドライバの役目です。そのため、プリンタドライバがインストールされていないと、プリンタは正しく動きません。

アドバイス

フロッピーディスクが添付されているときは

オプション機器にドライバの入ったフロッピーディスクが添付されているときは、フロッピーディスクからデバイスドライバをインストールしてください。

WindowsのCD-ROMのセットを求めるメッセージが表示されたときは

「Windows98のCD-ROMのセットをしてください」というメッセージが表示された場合は、次のフォルダにコピーするファイルがあります。次のフォルダをコピー元に指定してください。

コピー元：「c:\windows\options\cabs」

「バージョンの競合」ウィンドウが表示されたときは

インストールの途中で「バージョンの競合」ウィンドウが表示される場合があります。この場合は表示されたメッセージをご覧になり、新しいドライバがインストールされるように選択してください。

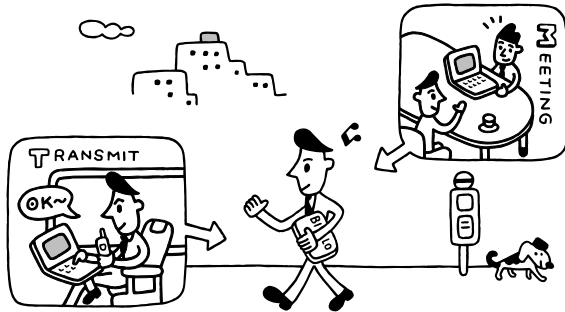
2

オプション機器の活用例

オプション機器を接続すると、本パソコンの用途がさらに広がります。ここでは、活用例を紹介します。

今日の出張に持って行こう！(外で使う編)

「パソコンに必要なデータを入れておけば、資料ファイルは必要ナシ。メモパソコンに書き込めばいいので、ノートも不要！今日1日、これ1台で大丈夫」



■ 予備のバッテリーパックを持ち歩く ■

本パソコンを外出先で使用する場合は、ACアダプタを外し、バッテリーで使います。内蔵バッテリーだけで約4時間使用できます。さらに長時間使用する場合は、予備のバッテリーパックを用意してください。複数のバッテリーパックを用意すると、本パソコンを使用できる時間が2倍3倍...になります。また、急速充電器をつないでおくと、バッテリーパックの取り替えのために作業を中断する必要がなくなります。

詳しくは「急速充電器を使う」(●▶ P.91)をご覧ください。

■ 携帯電話や公衆電話からメール送受信 ■

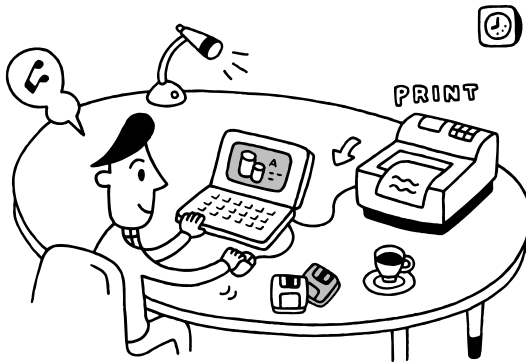
「今日の打ち合わせ資料、1枚追加。メールしておいたから」

突然、課長から携帯電話へメッセージ。本パソコンがあれば、携帯電話や公衆電話などを使って電子メールの送受信ができます。

携帯電話の接続方法については「携帯電話やPHSを使う」(●▶ P.103)をご覧ください。

出張のまとめは今日中にやっておこう(家で使う編)

「ちょっと疲れているけど、出張のまとめは今日のうちにやっておこう！」



■ プリンタをつなげて今日のメモを印刷 ■

「打ち合わせのメモは、明日課長に提出する前に印刷して確認しておこう」
画面上では見落としてしまいがちな誤字脱字も、プリンタを接続して印刷すればチェックできます。

接続方法については「プリンタを使う」(●▶ P.107)をご覧ください。

■ フロッピーディスクユニットをつないで、メモをフロッピーディスクに保存 ■

「まとめ終了。フロッピーディスクに保存して、会社を持って行こう」
フロッピーディスクユニット(添付)を接続すれば、大事なデータをフロッピーディスクに保存できます。

3

急速充電器を使う

本パソコンは内蔵のバッテリーパックだけで約4.0時間使用できますが、さらに長時間使いたいときは、予備のバッテリーパック(別売)を用意します。急速充電器をお使いになると、予備のバッテリーパックを本体に取り付けずに充電することができます。

急速充電器の使いかた

急速充電器には、次の2つの使いかたがあります。

- 予備のバッテリーパックを充電する
- 充電した予備のバッテリーパックを内蔵のバッテリーパックといっしょに使う

急速充電器の詳しい使いかたや、お使いになる上での注意事項については、急速充電器のマニュアルをご覧ください。

⚠ 注意



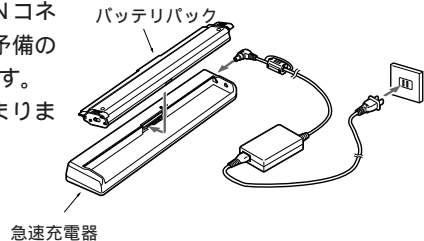
故障

間違えないように接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、機器本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。

■ 予備のバッテリーパックを充電する ■

ACアダプタのプラグを急速充電器のDC-INコネクタに接続してからコンセントに接続し、予備のバッテリーパックを急速充電器に取り付けます。バッテリーパックを取り付けると充電が始まります。

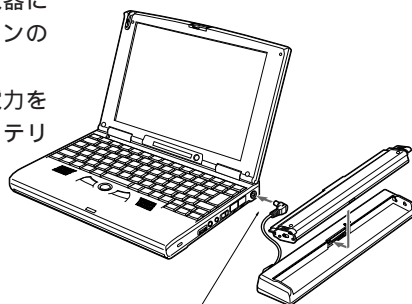


バッテリーパックの取り付けかたについては、「バッテリーパックを交換する」(●▶ P.92)をご覧ください。

■ 充電した予備のバッテリーパックを内蔵のバッテリーパックといっしょに使う ■

充電した予備のバッテリーパックを急速充電器に取り付け、急速充電器のプラグを本パソコンのDC-IN コネクタに接続します。

内蔵と予備の両方のバッテリーパックから電力を供給できるので、本パソコンを長時間バッテリーで使えるようになります。



DC-IN コネクタ

バッテリーパックの取り付けかたについては、「バッテリーパックを交換する」(●▶ P.92)をご覧ください。

バッテリーパックを交換する

ここでは、本パソコンの内蔵バッテリーパックを交換したり、急速充電器に予備のバッテリーパックを取り付けたり取り外したりするときの操作について説明します。

予備のバッテリーパックは、「バッテリーパック」(FMVNBT15)をお買い求めください。

⚠ 警告



感電 • 内蔵バッテリーパックを交換するときは、必ずパソコン本体の MAIN スイッチを OFF にし、AC アダプタを取り外してください。

感電の原因となります。

- バッテリーパックは、大変デリケートな製品です。交換などで取り付け/取り外しをする場合は、誤って落下させるなど、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーパックは、使用しないでください。感電や破裂の原因となります。

⚠ 注意



感電 バッテリーパックのコネクタ端子部分を、濡れた手や金属で触れないでください。バッテリーパックがショートなどして、感電や火災の原因となることがあります。

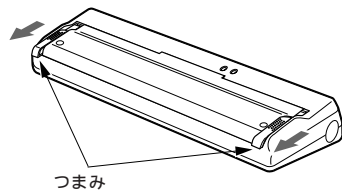
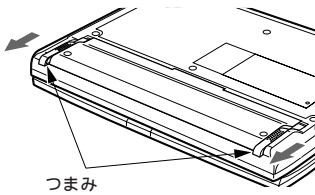
■ バッテリーパックを取り外す ■

パソコン本体のバッテリーパックを交換するときは、あらかじめ本パソコンの電源を切ってACアダプタを取り外し、液晶ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返しにしておきます。

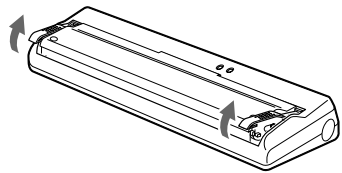
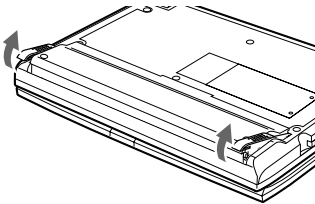
- 1** バッテリーパックのロックを外します。
バッテリーパックの左右のつまみを、手前にスライドします。

パソコン本体

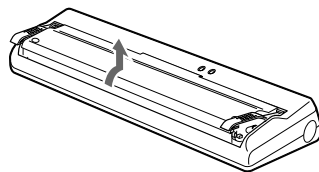
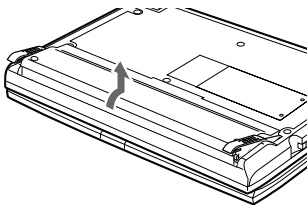
急速充電器



- 2** バッテリーパックの左右のつまみを上に引き上げます。
バッテリーパックが浮き上がります。



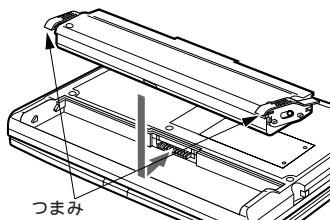
- 3** バッテリーパックを取り出します。



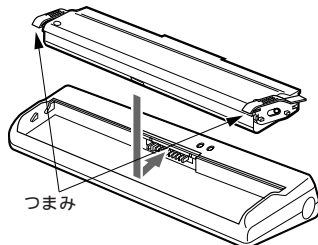
■ バッテリーパックを取り付ける ■

- 1 バッテリーパックを取り付けます。
バッテリーパックの左右のつまみを引き上げた状態にし、端子部分を合わせるようにして差し込みます。

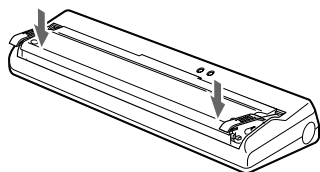
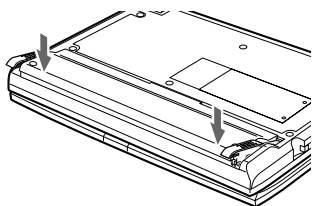
パソコン本体



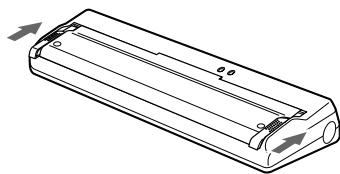
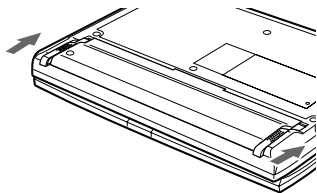
急速充電器



- 2 バッテリーパックが止まるまで軽く下に押し込みます。
つまみが、水平の位置に移動します。



- 3 バッテリーパックをロックします。
バッテリーパックの左右のつまみを奥にスライドさせ、しっかりロックしてください。



本パソコンのバッテリーパックを交換したときは、パソコン本体を元に戻します。

重要

バッテリーパックの廃棄について

バッテリーパックの廃棄にあたっては、バッテリーパックがショートしないよう、バッテリー端子をテープ等で絶縁し、地方自治体の条例または規則に従ってください。

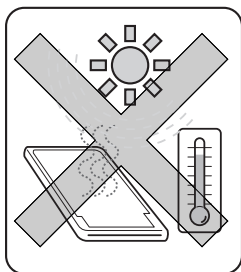
4

PCカードを使う

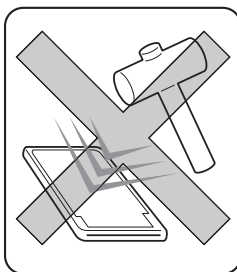
PCカードは、名刺サイズのカードです。パソコン本体に機能を追加するもの(デジタル携帯電話接続カードなど)や、データを保存するためのものなどがあります。本パソコンには、PCカードを1枚セットできます。

PCカードのご使用上の注意事項

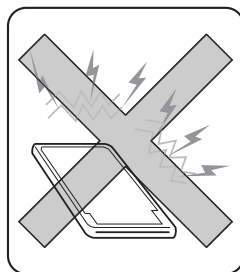
故障をふせぐため、PCカードを取り扱うときは、次の点に注意してください。



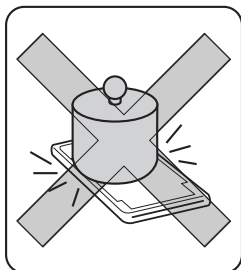
温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。



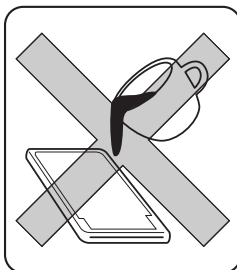
強い衝撃を与えないでください。



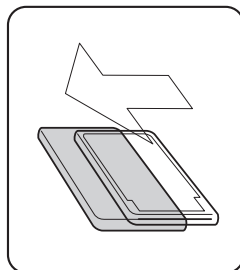
カードをこすったりして静電気をおこさないでください。



重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

使用できる PC カードの種類

本パソコンでは、PCMCIA と JEIDA に準拠した PC カードが使えます。PCカードは、厚さで分けるとTYPE I (3.3mm)、TYPE II (5mm)、TYPE III (10.5mm) の3種類があります。また、動作電圧で分けると3V、5V、12Vの3種類があります。本パソコンでは、厚さがTYPE I とTYPE II、動作電圧が3Vと5VのPCカードが使えます。また、この条件に合ったZVポート対応のPCカードも使えます。

ピーシーエムシーアイエー PCMCIA / ジェイダ JEIDA

どちらもPCカードの規格です。

PCMCIA(ピーシーエムシーアイエー)は、Personal Computer Memory Card International Associationを略したもので、PCメモ리카ード国際協会という標準化団体の定めた規格です。

JEIDA(ジェイダ)は、Japan Electronic Industry Development Associationを略したもので、日本電子工業振興協会の定めた規格です。

スィヴィ ZVポート

ZVポートは、動画や音声などのデータを高速に処理するためのPCカードの規格です。ZVポート対応のPCカードを使うと、CPUを経由しないで直接PCカードとデータをやりとりできます。ZVポートに対応したPCカードには、ビデオキャプチャカードやMPEGカードなどがあります。

用意するもの

PC カード

目的に応じて用意してください。

PC カードのドライバ

PCカードのドライバは、PCカードとパソコンとのやり取りを仲介するソフトウェアです。本パソコンに初めてセットするPCカードは、ドライバをインストールする必要があります。

PCカードにフロッピーディスクが添付されている場合は、その中に入っているドライバのファイルをお使いください。

フロッピーディスクユニット (添付)

PCカードのドライバがフロッピーディスクで添付されているときに必要です。

コネクタボックス (添付)

フロッピーディスクユニットを取り付けるときに必要です。

その他

PCカードによっては、その他の機器やケーブル、ドライバなどが必要になることがあります。詳しくは、PCカードのマニュアルをご覧ください。

PCカードを本体にセットする

PCカードをセットするまでの手順を説明します。

⚠ 注意



けが PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

重要

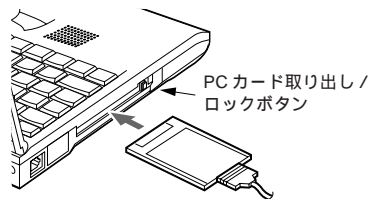
Windows のセットアップが済んでからセットしてください

PCカードは、Windows のセットアップ終了後にセットしてください。Windows のセットアップの前にセットすると、セットアップが正常に行われず、おそれがあります。

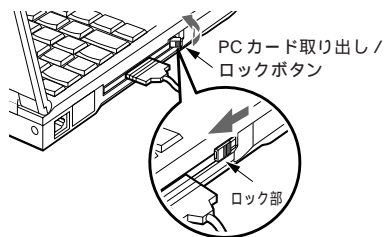
PCカードをセットするときの注意

PCカードによっては、セットするときに本パソコンの電源を切ることが必要になります。PCカードのマニュアルでご確認ください。

- 1 PCカードをセットします。
製品名を上にして、PCカードスロットの奥に差し込みます。PCカード取り出し/ロックボタンが飛び出るまで差し込んでください。



- 2 PCカード取り出し/ロックボタンを倒し、PCカードをロックします。PCカード取り出し/ロックボタンを右に倒して、ボタンのロック部を左にスライドし、PCカードを固定します。



アドバイス

必要に応じてドライバをインストールしてください

PCカードを使うために、ドライバのインストールが必要になる場合があります。通常は、PCカードにインストール用のフロッピーディスクが添付されていますので、PCカードの説明書をご覧になり、インストールを行ってください。

重要

コネクタの取り扱いに注意してください

PCカードとコードを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけないでください。

破損の原因となります。

PCカードを取り出す

PCカードを取り出す手順を説明します。


⚠ 注意



けが PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



高温 使用した直後のPCカードは、高温になっていることがあります。PCカードを取り出すときは、使用后しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。

- 1 タスクバーの (PCカード)をクリックします。
「...の中止」が表示されます。「...」はお使いのカードの名称です。
- 2 「...の中止」をクリックします。
しばらくすると、「このデバイスは安全に取りはずせます」というメッセージが表示されます。

重要

必ず「...の中止」をクリックしてください

クリックせずにPCカードを取り出すと、PCカードが壊れる原因となります。また、本パソコンが再起動したり、システムが停止することがあります。

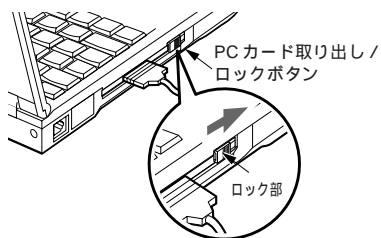
3 「OK」をクリックします。

重要

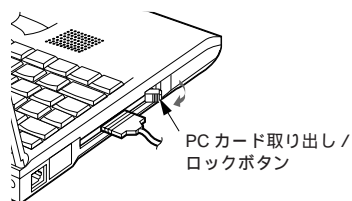
「このデバイスは取りはずせません」と表示されたときは

「OK」をクリックし、Windowsを終了して電源を切ってから、手順4以降の操作を行ってください。電源を入れたままで取り外すと、PCカードが壊れる原因となります。

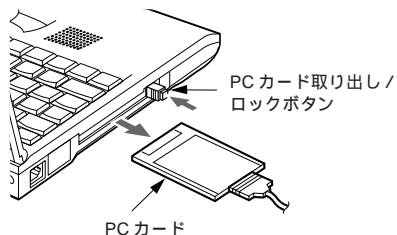
- 4 PCカードのロックを外します。
PCカード取り出し/ロックボタンのロック部を右にスライドさせて、ロックを外します。



- 5 PCカード取り出し/ロックボタンを起こします。
PCカード取り出し/ロックボタンは、右端を手前に引いて起こします。



- 6 PCカードを取り出します。
PCカード取り出し/ロックボタンを押し、PCカードを取り出してください。

**重要**

コードを引っ張らないでください

PCカードを取り出すときに、PCカードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。

5

CD-ROM ドライブを使う

本パソコンが正常に動作しなくなったときに、いったんご購入時の状態に戻して正常な状態を回復するリカバリの作業には、CD-ROM ドライブが必要です。

使用できる CD-ROM ドライブは、次の 2 つに分けることができます。

- CD-ROM ドライブに専用 PC カードが添付されている場合
- 市販の SCSI カードと CD-ROM ドライブを組み合わせて使う場合

重要

購入されたらすぐにリカバリ用の設定をしてください。

CD-ROM ドライブをご購入されたらすぐに、リカバリ作業で CD-ROM を使えるようにするための設定を行ってください。設定方法については、『リカバリガイド』の「リカバリに必要な設定をする」をご覧ください。

この作業を行わないと、リカバリ(パソコンをご購入時の状態に戻すこと)ができません。本パソコンに異常が発生してからでは、設定作業がやりにくくなってしまいます。

Windows のセットアップが済んでから取り付けてください

CD-ROM ドライブは、Windows のセットアップ終了後に取り付けてください。

Windows のセットアップの前に取り付けると、セットアップが正常に行われず、おそれがあります。

専用 PC カードが添付されている場合

弊社純正品の「FMV-NCD401」や「FMV-NCD201」のように専用 PC カードとセットになっている CD-ROM ドライブを使うには、次のものがが必要です。

■ 用意するもの ■

CD-ROM ドライブ

専用 PC カードで本体に接続して使います。

専用 PC カード

CD-ROM ドライブを接続するのに必要な PC カードで、CD-ROM ドライブに添付されています。PC カードスロットにセットして使います。

■ 必要な作業 ■

次のような順序で、接続や設定を行います。

- 1 製品によっては SCSI ID と終端抵抗を設定します。
設定方法については CD-ROM ドライブのマニュアルをご覧ください。
- 2 CD-ROM ドライブを PC カードに接続します。
CD-ROM ドライブと PC カードを接続します。接続方法については、CD-ROM ドライブのマニュアルをご覧ください。
- 3 PC カードをセットします。
PC カードをパソコン本体にセットします。セットのしかたについては「PC カードを使う」(●▶ P.95)をご覧ください。
- 4 ドライバをインストールします。
ドライバのインストール方法は、PC カードのマニュアルと「オプション機器のデバイスドライバについて」(●▶ P.88)をご覧ください。

市販の SCSI カードと組み合わせて使う場合

SCSI 対応の CD-ROM ドライブを使うには、次のものがが必要です。

■ 用意するもの ■

SCSI カード

PC カード形式の SCSI カードをご用意ください。CD-ROM ドライブを本体に接続するために使います。PC カードスロットにセットして使います。

SCSI 対応の CD-ROM ドライブ

SCSI カードで本体に接続して使います。

終端抵抗 (ターミネータ)

接続された SCSI 機器の間で、データ転送をエラーなく行うためのものです。

終端抵抗は、CD-ROM ドライブに内蔵されている場合と、内蔵されていない場合があります。どちらに該当するかは、CD-ROM ドライブのマニュアルで確認してください。

内蔵されている場合は、ディップスイッチなどで設定します。内蔵されていない場合は、CD-ROM ドライブに添付されています。添付されていない場合は、SCSI コネクタの形状をよくご確認のうえ、お買い求めください。

SCSI ケーブル

CD-ROM ドライブと SCSI カードをつなぐケーブルです。

SCSI ケーブルは SCSI カードに添付されています。添付されている SCSI ケーブルが CD-ROM ドライブに接続できない場合は、コネクタの形状をよくご確認のうえ、お買い求めください。

■ 必要な作業 ■

次のような順序で、接続や設定を行います。

1 製品によっては SCSI ID と終端抵抗を設定します。

SCSIカードを使うと、SCSIに対応した複数の機器を接続できます。そのため、それぞれの機器を区別する番号(0 ~ 7番)を付けておきます。この番号を「SCSI ID」と呼びます。このうち7番はSCSIカードに割り当てられるので、各機器は0 ~ 6番が使えます。

本パソコンでは、SCSIに対応した機器を、4台まで接続できます。CD-ROMドライブだけを接続するときは、0 ~ 6のどの番号を使ってもかまいません。ただし、ひとつのSCSI IDを複数の機器で使うことはできません。他の機器を接続するときは、SCSI IDが重ならないように設定します。

設定のしかたについては、各機器のマニュアルをご覧ください。

2 CD-ROMドライブをSCSIカードに接続します。

SCSIカードとCD-ROMドライブを接続します。接続方法については、SCSIカードとCD-ROMドライブのマニュアルをご覧ください。

3 SCSIカードをセットします。

SCSIカードをパソコン本体にセットします。セットのしかたについては「PCカードを使う」(●▶ P.95)をご覧ください。

4 ドライバをインストールします。

ドライバのインストール方法は、PCカードのマニュアルと「オプション機器のデバイスドライバについて」(●▶ P.88)をご覧ください。

6

携帯電話や PHS を使う

本パソコンに携帯電話や PHS を接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

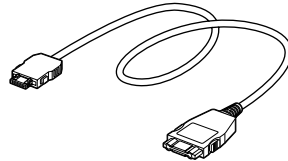
ここでは、本パソコンの PDC コネクタを使用して接続する方法と接続用の PC カードを使って接続する方法について説明します。

PDC コネクタを使って接続する

「携帯電話接続ケーブル」を利用すれば、携帯電話を、直接本パソコンの PDC コネクタに接続して通信に利用することができます。

用意するもの

携帯電話接続ケーブル（添付）



携帯電話

使用できる携帯電話は、1998年12月末現在では以下の機種です。その後の追加機種は、以下の最新情報掲載ホームページでご確認ください。使用できるかどうかの確認は、Internet Explorer4.0、Outlook Express、Hyper Terminal、10円メールマスター Ver2 などで行っています。

- 使用できる携帯電話機種

NTT DoCoMo F207、F206、F203、F201、NM206、SH206、
TS206、SO206、P205、P206、P156

IDO 524G

ツーカーホングループ TH671、TH681

デジタルホン/J - PHONE DP-124、DP-125

- 最新情報掲載ホームページ

<http://www.fmworld.ne.jp>

■ 必要な作業 ■

携帯電話接続ケーブルを使用するときは、ご購入時にインストールされていたモデムドライバを更新しておくことが必要です。まだ行っていない場合は、「モデムドライバの更新」(●▶P.14)をご覧ください。

携帯電話の接続

携帯電話とPDCコネクタを接続するときは、あらかじめコネクタボックスを取り外してください。

⚠ 注意

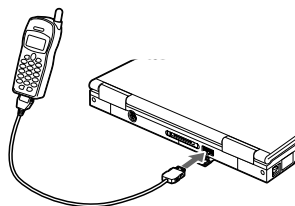
故障 間違えないように接続してください。



誤った接続状態でお使いになると、機器本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。

- 1 本パソコンをサスペンド状態にするか、電源をOFFにします。
SUS/RESスイッチを押してサスペンド状態にするか、MAINスイッチをOFFにします。

- 2 携帯電話接続ケーブルを携帯電話に接続したあと、本パソコンのPDCコネクタに接続します。
コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



- 3 元の状態にレジューム(復帰)するか、電源をONにします。
SUS/RESスイッチを押してレジュームするか、MAINスイッチをONにします。
このあと、接続した携帯電話で通信を行うための設定を行ってください。

重要

通信で利用するときは

- 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- 通信で、携帯電話を「携帯電話接続ケーブル」でPDCコネクタに接続して使用するときは、使用するモデムに「Fujitsu SOFT PDC」を選択します。
- ACPIモードでは、携帯電話をPDCコネクタに接続して使用することはできません。
- PDCコネクタに接続した携帯電話で通信をしているときは、サスペンド(一時停止)状態にしたり、休止(SaveToDisk)状態にすることはできません。
- PDCコネクタに接続して通信を行う場合のATコマンドは、内蔵モデム(V.90対応)のものと仕様が異なります。

WindowsNT4.0では「携帯電話接続ケーブル」は使えません

「携帯電話接続ケーブル」は、WindowsNT4.0では使用できません。

携帯電話接続ケーブルの取り扱い上の注意

携帯電話接続ケーブルは以下のことに注意して、ご使用ください。

- 無理な力で曲げたり、重いものを載せないでください。
- 直射日光のあたる場所に置いたり、発熱器具のそばには近づけないでください。
- 極端な高温や低温になる温度変化の激しい場所での使用・保管は避けてください。
- 衝撃や振動を加えたり、衝撃や振動の加わる場所での使用・保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用・保管は避けてください。
- テレビやチューナーのすぐそばで使用すると、これらに雑音や映像の乱れが生じることがあります。このような場合は、テレビやチューナーから離して使用してください。
- コネクタの端子をショートさせないでください。
- 水などの液体で濡らさないでください。
- 分解したり、解体しないでください。

接続用の PC カードを使って接続する

接続用の PC カード (接続カード) を利用すると、デジタル携帯電話や PIAFS 対応の PHS を接続することができます。

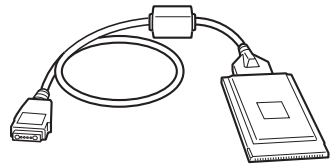
用語 PIAFS (ピアフ)

PHS Internet Access Forum Standard の略で、PHS によるデジタルデータ通信の標準規格のことです。PHS のデジタル通信回線 (32Kbps) を利用して、非常に高速な通信ができます。相手側のアクセスポイントや端末も、PIAFS に対応している必要があります。

■ 用意するもの ■

接続カード

- デジタル携帯電話を接続する場合：
「デジタル携帯電話接続カード」
- PIAFS 対応の PHS を接続する場合：
「PHS 接続カード」



デジタル携帯電話または PHS

アドバイス

アナログ携帯電話を接続するときは

アナログ携帯電話は、「モデムカード-2400」を使用して「無線電話接続ケーブル」で接続してください。

PIAFS に対応していない PHS を接続するときは

PIAFS に対応していない PHS は、「モデムカード-2400」を使用して「無線電話接続ケーブル」で接続してください。

■ 必要な作業 ■

初めて使うときは、接続カードのドライバをインストールする必要があります。

警告



機器を接続するときは、必ずパソコン本体の MAIN スイッチを OFF にし、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

注意



PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

Windows のセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われな
いおそれがあります。

- 1 MAIN スイッチが OFF になっていることを確認します。
- 2 接続カードのコネクタをデジタル携帯電話や PHS に接続します。
- 3 接続カードを本パソコンの PC カードスロットにセットします。
セットのしかたについては、「PC カードを使う」(●▶ P.95) をご覧ください。
- 4 必要に応じて、フロッピーディスクユニットなどを接続します。
ドライバのインストールに必要な場合は、フロッピーディスクユニットなどを接続して
ください。
- 5 MAIN スイッチを ON にします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されたときは、接続カードの
マニュアルや画面のメッセージに従って、ドライバのインストールを行います。
インストールが完了したら、接続したデジタル携帯電話や PHS で通信を行うための設定
を行ってください。

7

プリンタを使う

プリンタを接続する手順を説明します。USB規格対応のプリンタを接続する場合には、「USB規格対応のオプション機器を使う」(▶▶ P.124)をご覧ください。

用意するもの

プリンタを使うには、次のものがが必要です。

コネクタボックス(添付)

プリンタケーブルを本パソコンに接続するために使います。

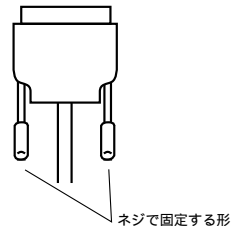
プリンタ

Windows で使用できるものをご用意ください。

プリンタケーブル

プリンタとパソコン本体を接続するためのケーブルです。プリンタに添付されているプリンタケーブルが本パソコンで使えない場合や、プリンタにプリンタケーブルが添付されていない場合は、別にお買い求めください。

本パソコンでは、「PC/AT 互換機用」「DOS/V用」などと表示されたプリンタケーブルをお使いください。右図のようにコネクタをネジで固定する形式のプリンタケーブルが使えます。



プリンタドライバ

プリンタドライバは、プリンタとパソコンとのやり取りを仲介するソフトウェアです。本パソコンに初めて接続するプリンタを使う場合は、プリンタドライバをインストールする必要があります。

プリンタにフロッピーディスクが添付されている場合は、その中にプリンタドライバが入っています。そちらをお使いください。

フロッピーディスクユニット(添付)

プリンタドライバがフロッピーディスクで添付されているときに必要です。


アドバイス

プリンタに CD-ROM が添付されているときは


プリンタドライバが CD-ROM の中に入っています。「CD-ROM ドライブを使う」(▶▶ P.100)をご覧ください、CD-ROM ドライブを接続してください。

プリンタを接続する

⚠ 警告

感電 プリンタを接続するときは、必ずパソコン本体の MAIN スイッチを OFF にし、AC アダプタを取り外してください。
 感電の原因となります。

⚠ 注意

故障 ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
 誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

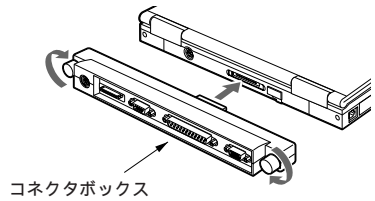
重要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

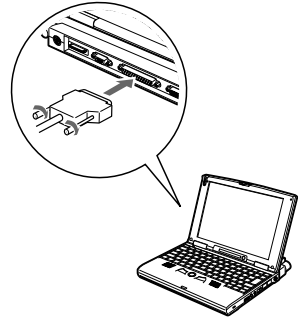
プリンタは、Windows のセットアップ終了後に接続してください。
Windows のセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われな
いおそれがあります。

- 1 Windows を終了し、MAIN スイッチを OFF にします。
必要に応じてデータを保存し、Windows を終了してください。
- 2 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンから AC アダプタを取り外します。

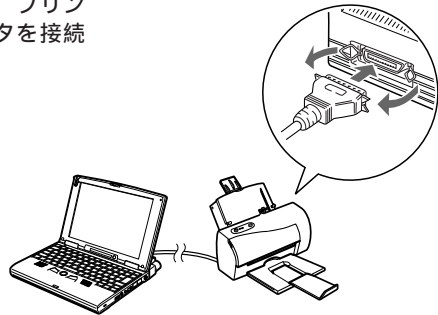
- 4 コネクタボックスを取り付けます。
コネクタボックスの取り付けかたについては「コネクタボックスを取り付ける」(▶▶ P.49)をご覧ください。



- 5 コネクタボックスの平行コネクタに、プリンタケーブルを接続します。
プリンタケーブルのコネクタを、平行コネクタにしっかり差し込みます。プリンタケーブルのコネクタの左右のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



- 6 プリンタのプリンタコネクタに、プリンタケーブルのもう一方のコネクタを接続します。



プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

- 7 本パソコンのACアダプタとプリンタの電源ケーブルのプラグを、コンセントに接続します。

- 8 プリンタドライバをインストールします。
接続したプリンタが使えるように、プリンタドライバをインストールします。
プリンタドライバをインストールする方法は、プリンタによって異なります。インストール方法については、プリンタのマニュアルをご覧ください。


アドバイス

ドライバがインストールできないときは

プリンタのマニュアルの説明に従っても、ドライバがインストールできないときは、次の操作を行ってください。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ「プリンタ」をクリックして「プリンタ」ウィンドウを表示します。「プリンタ」ウィンドウの「プリンタの追加」をクリックし、「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウでプリンタドライバをインストールしてください。

インストール後は通常使うプリンタに設定してください

「プリンタ」ウィンドウで、接続したプリンタのアイコンにマウスポインタを合わせ選択し、「ファイル」メニューの「通常使うプリンタに設定」に  を付けてください。

8

テンキーボードを使う

本パソコンにテンキーボードを接続すると、数字を効率よく入力することができます。USB規格対応のテンキーボードを接続する場合は、「USB規格対応のオプション機器を使う」(●▶ P.124)をご覧ください。

テンキーボードを接続する

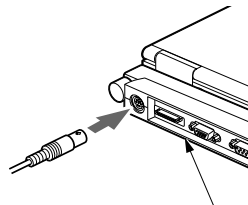
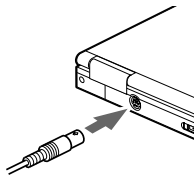
ここでは、テンキーボードを接続する場合について説明します。その他のキーボードを接続する場合も、手順は同じです。

重要

Windowsのセットアップが済んでから接続してください

テンキーボードは、Windowsのセットアップ終了後に接続してください。Windowsのセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われないうえに、おそれがあります。

- 1 Windowsを終了し、MAINスイッチをOFFにします。
必要に応じてデータを保存してから、Windowsを終了してください。
- 2 テンキーボードを、拡張キーボードコネクタに接続します。
テンキーボードは、パソコン本体またはコネクタボックスのどちらにも接続できます。テンキーボードのコネクタに刻印されている矢印を上側にして、奥までしっかりと差し込みます。



コネクタボックス

アドバイス

接続できるキーボード

本パソコンの拡張キーボードコネクタには、101キーボード、OADGキーボード、JISキーボード、親指シフトキーボードも接続できます。

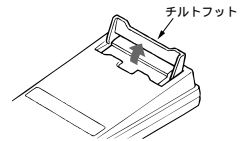
ただし、親指シフトキーボードを使うには、OAK V5.0が必要です。

マウスは取り付けられません

テンキーボードにマウスコネクタが付いている場合でも、本パソコンではPS/2マウスは使用できません。



テンキーボードの傾きを調節するには

テンキーボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。



テンキーボードで数字を入力できるときは

テンキーボードでは、状態表示LCDに  が表示されているときのみ数字を入力できます(パソコン本体のテンキーは無効)。

状態表示LCDに  が表示されていないときは、**[Fn]** を押しながら **[NumLk]** を押すか、テンキーボードの **[NumLock]** を押してください。状態表示LCDに  が表示され、テンキーボードで数字を入力できるようになります。

9

メモリを増やす

本パソコンには、お買い求めのときにあらかじめ64MBのメモリが内蔵されています。メモリは必要に応じて最大96MBまで増やすことができます。メモリを増やすと、パソコンの処理が速くなります。

拡張RAM モジュールを交換する

本パソコンのご購入時は、内蔵メモリの32MBと拡張RAM モジュールスロットに32MBの合計64MBが取り付けられています。メモリ容量を96MBにするには、取り付けられている32MBの拡張RAM モジュールを取り外して、64MBの拡張RAM モジュールに交換する必要があります。

⚠ 警告



感電

メモリを取り付けるときは、必ずパソコン本体のMAINスイッチをOFFにし、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



誤飲

取り外したカバー、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



けが

メモリを取り付けるときは、指定された場所以外のネジは取り外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。



故障

メモリの取り付けを行う場合は、端子やICなどには触れないようふちを持って行ってください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

アドバイス

取り付けられる拡張RAM モジュールは

FMVNM64SC、FMVNM64SB、FMVNM32SC、FMVNM32SB、FMVNM16SBの中から、1枚のみ取り付けすることができます。

重要

Windows のセットアップが済んでから取り付けてください

メモリは、Windows のセットアップ終了後に取り付けてください。Windows のセットアップの前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

静電気に注意してください

メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人間の体内にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り付けるときは、端子やIC などには触れないよう、ふちを持って行ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。

1 Windows を終了し、MAIN スイッチを OFF にします。
必要に応じてデータを保存し、Windows を終了してください。

2 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。

3 本パソコンから AC アダプタを取り外します。

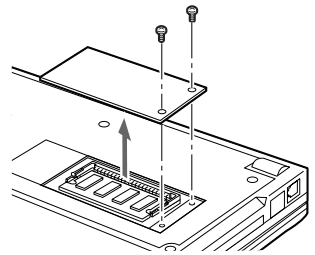
アドバイス

オプション機器を接続しているときは

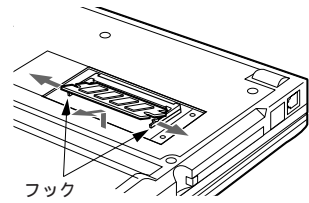
接続しているオプション機器の電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

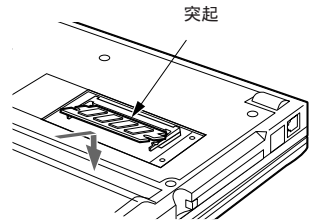
5 ネジ(2カ所)を外し、拡張RAMモジュールスロットのカバーを外します。



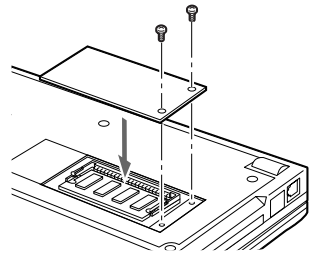
- 6 拡張RAMモジュールを取り外します。
拡張RAMモジュールを押さえている両側のフックを左右に開き、スロットから取り外します。



- 7 増設する拡張RAMモジュールを取り付けます。
拡張RAMモジュールの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み、「パチン」と音がするまで下に倒してください。



- 8 拡張RAMモジュールスロットのカバーを取り付けます。
ツメの部分を合わせて取り付け、手順5で外したネジで固定します。



- 9 裏返しになっているパソコン本体を元に戻します。

コラム


メモリのしくみ

メモリは、CPUが処理するデータを一時的にためておく記憶装置です。CPUがハードディスクなどに記憶されているプログラムやデータを処理するときは、メモリにプログラムなどを読み込んでから処理を行います。また、CPUが処理した結果は、メモリに書き込んでからハードディスクなどに記憶されます。

そのため、メモリの容量を増やすと、ためておけるプログラムやデータも多くなり、CPUの処理速度も速くなります。

メモリの容量を確認する

増やしたメモリが使える状態になっているかを確認します。

- 1 本パソコンの DC-IN コネクタに AC アダプタを接続します。
- 2 ACアダプタに電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 3 液晶ディスプレイを開き、MAIN スイッチを ON にします。
Windows が起動します。
- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 5  (システム) をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 6 メモリの数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。



上の画面は、64MBの拡張RAMモジュールを取り付けて、96MBに増やした例です。お使いのシステム構成によっては若干少なく表示される場合があります。増えていなかった場合は、拡張RAMモジュールがスロットにきちんと取り付けられているかどうかを確認してください(●▶ P.113)。

- 7 「OK」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。

10

CRT ディスプレイを使う

本パソコンのコネクタボックスにCRTディスプレイを接続すると、液晶ディスプレイよりも高解像度で表示できます。

CRTディスプレイを接続したときは、本パソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイとで、表示するディスプレイ装置を切り替えることができます。

用意するもの

CRTディスプレイを使うには、次のものがが必要です。

CRT ディスプレイ

コネクタボックス(添付)

ディスプレイケーブルを本パソコンに接続するために使います。

ディスプレイケーブル

CRTディスプレイとパソコン本体をつなぐためのケーブルです。

CRTディスプレイの背面に直接つながっていたり、CRTディスプレイに添付されています。

コネクタの形状が異なっている場合や、CRTディスプレイに添付されていない場合は、CRTディスプレイとパソコン本体の両方に接続できる「PC/AT互換機用」「DOS/V用」などと表示されたディスプレイケーブルをお買い求めください。

CRT ディスプレイを接続する

⚠ 警告



感電 CRTディスプレイの接続をするときは、必ずパソコン本体のMAINスイッチをOFFにし、ACアダプタを取り外してください。

感電の原因となります。

⚠ 注意



故障 ケーブル類は、間違えないように接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびCRTディスプレイが故障する原因となることがあります。

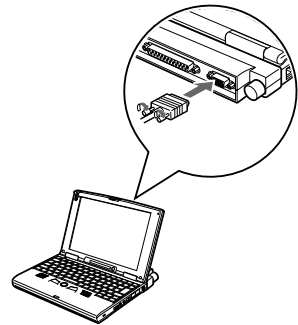
重要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

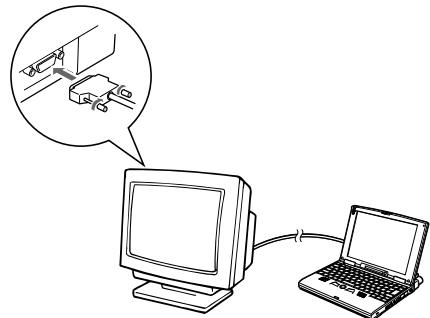
CRTディスプレイは、Windowsのセットアップ終了後に接続してください。Windowsのセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われな
いおそれがあります。

- 1 Windows を終了し、MAIN スイッチを OFF にします。
必要に応じてデータを保存してから、Windows を終了してください。
- 2 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンから AC アダプタを取り外します。
- 4 コネクタボックスを取り付けます。
コネクタボックスの取り付けかたについては「コネクタボックスを取り付ける」
(●▶P.49)をご覧ください。

- 5 コネクタボックスの CRT コネクタに、
ディスプレイケーブルを接続します。
ディスプレイケーブルのコネクタを、CRTコネ
クタにしっかり差し込みます。
ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて、
ディスプレイケーブルを固定してください。
CRTディスプレイの背面にディスプレイケー
ブルがつながっているときは、手順7に進みます。



- 6 CRTディスプレイ側のコネクタ
に、ディスプレイケーブルのもう
一方のコネクタを接続します。



- 7 CRTディスプレイの電源ケーブルをコンセントに差し込みます。

表示装置を切り替える

CRTディスプレイを接続したときは、本パソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイの表示を、次のように切り替えて使うことができます。

- 本パソコンの液晶ディスプレイで表示する
- 接続したCRTディスプレイで表示する
- 本パソコンの液晶ディスプレイと、接続したCRTディスプレイで同時に表示する

- 1 本パソコンのDC-INコネクタにACアダプタを接続します。
- 2 ACアダプタに電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 3 CRTディスプレイの電源を入れます。
電源の入れかたについては、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4 MAINスイッチをONにします。
Windowsが起動します。
- 5 **[Fn]**を押しながら**[F10]**を押します。
[Fn]を押しながら**[F10]**を押すたびに、「液晶ディスプレイで表示 CRTディスプレイで表示 液晶ディスプレイとCRTディスプレイで同時に表示 液晶ディスプレイで表示 ...」の順に切り替わります。

重要

表示するディスプレイが切り替わらないときは


5秒以上間隔をあけてから、もう一度**[Fn]**を押しながら**[F10]**を押してください。間隔が短いと、正しく表示されないことがあります。

液晶ディスプレイとCRTディスプレイで同時表示をしているときは

CRTディスプレイで画面表示がゆがむことがあります。故障ではありません。

アドバイス



「画面のプロパティ」で表示するディスプレイを切り替えるには

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 3 「詳細」をクリックし、「NeoMagic」タブをクリックします。
- 4 「Display Option」をクリックし、「表示モード」を切り替えます。

CRT ディスプレイで正常に表示されないときは

液晶ディスプレイが消えている場合には、**[Fn]** を押しながら **[F10]** を押して、画面を液晶ディスプレイに切り替えてください。

CRTディスプレイによってサポートする走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。CRTディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、次の操作でリフレッシュレートを変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面) をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 3 「詳細」をクリックし、「NeoMagic」タブをクリックします。
- 4  を左右にドラッグしてリフレッシュレートを変更します。

再起動後も CRT ディスプレイで表示したいときは

これらの操作によって表示装置を切り替えても、再起動すると液晶ディスプレイでの表示に戻ってしまいます。再起動後も常に CRT ディスプレイで表示させるには、BIOS セットアップを起動して、「詳細」メニューの「画面設定」(●▶ P.152)で、「ディスプレイ」の設定を変更してください。

CRTディスプレイで表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイとCRTディスプレイを同時に表示しているときや、CRTディスプレイのみで表示しているときの、CRTディスプレイの解像度と発色数の設定について説明します。

画面に表示できる発色数は、解像度によって異なります。高解像度になると、画面に表示できる発色数が少なくなります。低解像度になると、画面に表示できる発色数が増えます。

CRTディスプレイの解像度と発色数は、次の表のとおりです。

解像度	発色数			
	16色	256色	High Color (16ビット)	True Color (24ビット)
640 × 480 ドット	1	1	1	1 2
800 × 600 ドット	×			2
1024 × 768 ドット	×	3	3	×

- 1 液晶ディスプレイでは、640 × 480 ドットの領域が画面の中央に表示されます。
- 2 液晶ディスプレイで表示できる発色数は、最大で26万色です。そのため、True Color (24ビット) は26万色で表示されます。
- 3 液晶ディスプレイでは、仮想スクリーンモードでの表示となります。

仮想スクリーンモードでは、1024 × 768 ドットの領域のうちの800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はクイックポイントⅢでマウスポインタを動かすことによって表示させます。

画面を1024 × 768 ドットで表示しているときは、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がずれます。マウスポインタの移動はクイックポイントで行ってください。

アドバイス

High Color と True Color の発色数は

High Color (16ビット) は6万5千色、True Color (24ビット) は1677万色です。

解像度を変更するとき

解像度の変更方法は、「解像度と発色数を変更する」(●▶ P.80)をご覧ください。その際、「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください。」というウィンドウ(手順11)では、お使いのCRTディスプレイにあわせて「製造元」と「モデル」を選んでください。

RS-232C 規格対応のオプション機器を使う

本パソコンのコネクタボックスに、RS-232C 規格対応のオプション機器を接続することができます。

接続できるオプション機器には、外付けモデム、デジタルカメラなどがあります。

シリアルコネクタの接続のしかた

警告



感電

オプション機器の接続をするときは、必ずパソコン本体の MAIN スイッチを OFF にし、AC アダプタを取り外してください。

感電の原因となります。

重要

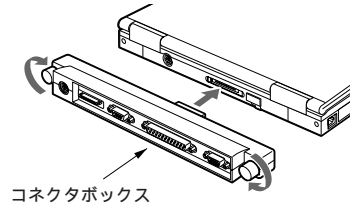
Windows のセットアップが済んでから接続してください

RS-232C 規格対応のオプション機器は、Windows のセットアップ終了後に接続してください。

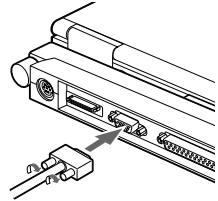
Windows のセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われな
いおそれがあります。

- 1 Windows を終了し、MAIN スイッチを OFF にします。
必要に応じてデータを保存してから、Windows を終了してください。
- 2 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンから AC アダプタを取り外します。

- 4** コネクタボックスを取り付けます。
コネクタボックスの取り付けかたについては「コネクタボックスを取り付ける」(●▶ P.49)をご覧ください。



- 5** コネクタボックスのシリアルコネクタに、接続する機器のケーブルを接続します。ケーブルのコネクタを、シリアルコネクタにしっかり差し込みます。ケーブルの左右のネジをしめて固定してください。



3

オプション機器を使う

アドバイス

シリアルコネクタの COM ポート番号は「COM1」です

接続した機器によっては、あらかじめ設定されている状態では使用できないことがあります。お使いの機器のマニュアルをご覧ください。再設定を行ってください。

外付けモデムを接続したときは

外付けモデムなどを新たに取り付けたときは、接続形態に合わせて COM ポート番号などの再設定が必要です。また、お使いのモデムによっては、あらかじめ設定されている状態で、正常に通信できないことがあります。そのときも、お使いのモデムに合わせて、通信ソフトの再設定を行ってください。設定について詳しくは、各通信ソフトとモデムのマニュアルをご覧ください。

12

USB 規格対応のオプション機器を使う

本パソコンの USB コネクタに、USB 規格対応のオプション機器を接続することができます。

USB コネクタの接続のしかた

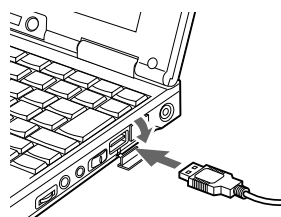
重要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

USB規格対応のオプション機器は、Windowsのセットアップ終了後に接続してください。

Windowsのセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われな
いおそれがあります。

- 1 本パソコンの USB コネクタに、接続する機器の USB ケーブルを接続します。USB コネクタのカバーを開き、USB ケーブルのコネクタをカチッと止まるまで差し込みます。



アドバイス

必要に応じてドライバをインストールしてください

接続した機器を使うために、ドライバのインストールが必要になる場合があります。通常は、接続した機器にインストール用のフロッピーディスクなどが添付されていますので、接続した機器のマニュアルをご覧になって、インストールを行ってください。

13

外付けのハードディスクを使う

本パソコンには、外付けのハードディスクを接続することもできます。

重要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

外付けのハードディスクは、Windows のセットアップ終了後に取り付けてください。

Windows のセットアップの前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

3

オプション機器を使う

用意するもの

外付けのハードディスクを使うには、次のものがが必要です。

スキャー

SCSI カード

外付けのハードディスクを接続するのに必要な PC カードです。PC カードスロットにセットして使います。

SCSI 対応のハードディスク

終端抵抗（ターミネータ）

接続された SCSI 機器の間で、データ転送をエラーなく行うためのものです。終端抵抗は、外付けのハードディスクに内蔵されている場合と、内蔵されていない場合があります。内蔵されている場合は、ディップスイッチなどで設定します。内蔵されていない場合は、外付けのハードディスクに添付されています。添付されていない場合は、SCSI コネクタの形状をよくご確認のうえ、お買い求めください。

SCSI ケーブル

外付けのハードディスクと SCSI カードをつなぐケーブルです。

SCSI ケーブルは SCSI カードに添付されています。添付されている SCSI ケーブルがハードディスクに接続できない場合は、コネクタの形状をよくご確認のうえ、お買い求めください。

作業の流れ

次のような順序で、接続や設定を行います。

スカジー アイディー

1 SCSI ID の設定と終端抵抗の設定を行います。

SCSIカードを使うと、SCSIに対応した複数の機器を接続できます。そのため、それぞれの機器を区別する番号(0～7番)を付けておきます。この番号を「SCSI ID」と呼びます。このうち7番はSCSIカードに割り当てられるので、各機器は0～6番が使えます。

本パソコンでは、SCSIに対応した機器を、4台まで接続できます。外付けのハードディスクが1台目のSCSI機器の場合は、0～6のどの番号を使ってもかまいません。ただし、ひとつのSCSI IDを複数の機器で使うことはできません。他の機器を接続するときは、SCSI IDが重ならないように設定します。

SCSI IDや終端抵抗の設定のしかたは、ハードディスクによって異なります。外付けのハードディスクのマニュアルをご覧ください。

2 外付けのハードディスクを SCSI カードに接続します。

SCSIカードと外付けのハードディスクを接続します。接続方法については、SCSIカードと外付けのハードディスクのマニュアルをご覧ください。

3 SCSI カードをセットします。

SCSIカードをパソコン本体にセットします。セットのしかたについては「PCカードを使う」(●▶P.95)をご覧ください。

4 領域(パーティション)を設定します。

ハードディスクを接続した場合、そのハードディスクをパソコン本体が認識できるように設定する必要があります。

ドライブを設定したり、ハードディスクの領域を分けるには、「領域の設定」という作業をします。領域の設定は、SCSIカードに添付されているソフトウェアによって行います。操作方法は、SCSIカードのマニュアルをご覧ください。

5 フォーマットします。

新しいハードディスクは、フォーマットが必要です。お買い求めのときにフォーマット済みのもも、領域の設定をするとフォーマットが無効になります。あらかじめフォーマットし直してください。フォーマットは、「マイコンピュータ」で目的のドライブを選択し、「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックして、画面のメッセージに従って行ってください。

重要

ドライブ名について

外付けのハードディスクを接続したり、接続したハードディスクの領域を分けると、ドライブ名にずれが生じます。お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要な場合がありますのでご注意ください。

外付けのハードディスクのデータは消去されます

領域の設定やフォーマットを行うと、それまで外付けハードディスクに記憶されていたデータがすべて消去されますので、ご注意ください。

4

ハードウェア環境を設定する バイオス (BIOS セットアップ)

BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。

これらの設定は、使いやすいようにあらかじめ設定されています。

通常お使いになる範囲では、設定を変更する必要はありません。

設定の変更が必要な場合のみお読みください。

1. BIOS セットアップが必要なときは 128
2. BIOS セットアップの操作 129
3. ご購入時の設定内容(標準設定値)に戻す 134
4. 設定項目の機能の一覧 136
5. 各メニューでの設定内容の詳細 142
6. BIOS のパスワード機能を使う 169

1

BIOS セットアップが必要なときは

BIOSセットアップとは、本パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。本パソコンの環境は、ご購入時に、あらかじめ設定されていますので、通常はBIOSセットアップで環境を変更する必要はありません。必要に応じて行います。

BIOS セットアップが必要になるのは

BIOS セットアップは、次のような場合に行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード(暗証番号)を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト(POST)でBIOSセットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

BIOSセットアップで設定した内容は、パソコン本体内部のCMOS RAMシーモス ラムと呼ばれるメモリに記憶されます。このCMOS RAMは、電源をOFFにしても、バックアップ用バッテリーによって記憶した内容を保持しています。

アドバイス

起動時に「システム CMOS のチェックが正しくありません。」と表示されたときはBIOSセットアップを正しく行っても、起動時の自己診断テストで「システムCMOSのチェックサムが正しくありません。-標準設定値が設定されました。」とメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAMに設定内容が保存されていないことが考えられます。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

2

BIOS セットアップの操作

ここでは、BIOS セットアップの操作のしかたを説明します。
BIOS セットアップの操作は、すべてキーボードで行います。

BIOS セットアップを開始する

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
必要に応じてデータを保存してください。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 2 「再起動する」をクリックして **[F2]** にし、「OK」をクリックします。
本パソコンが一度終了し、再び起動し始めます。
- 3 Windows が起動する前の、画面下に「< ESC > キーを押すと自己診断画面、< F2 > キーを押すと BIOS セットアップを起動します。」と表示されている間に **[F2]** を押します。
BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

メニューバー
メニューの名称が表示されます。

項目ヘルプフィールド
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

カーソル
設定する項目に合わせます。

設定フィールド
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。キーの機能説明 **[F1]** を押すとキーの機能の説明が表示されます。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
システム時刻:	[F2] 34:56					
システム日付:	[1999/XX/XX]					
フロッピーディスクA:	[1.44/1.2 MB 3.5"]					
▶ プライマリマスター	[XXXXXXXXXX]					
システムメモリ:	640 KB					
拡張メモリ:	63 MB					
▶ メモリキャッシュ						
言語 (Language):	[日本語 (JP)]					

項目ヘルプ

現在の時刻を設定します。
<Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーで項目を選択します。

F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

アドバイス

起動時の自己診断画面を表示するには

上記の手順 3 で、**[F2]** の代わりに **[Esc]** を押します。
自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されます。そのまま起動処理を続けたいときは、もう一度 **[Esc]** を押してください。

「起動時のメニュー」という画面について

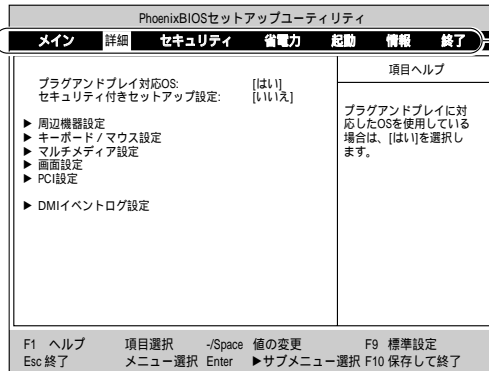
この画面は、起動ドライブを検索する順番を一時的に変更したいときに利用します。
上記の手順 3 で、**[F2]** の代わりに **[Esc]** を押すと、表示されます。
[4] を押して起動ドライブを選択し、**[Enter]** を押します。また、「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動できます。

設定を変更する

ここでは、一般的な操作方法のみを説明します。各設定項目の詳細については、「各メニューでの設定内容の詳細」(●▶ P.142) をご覧ください。

1

- ☐ または ☐ を押して、設定したいメニューを選びます。
- ☐ を押すと「メイン」「詳細」「セキュリティ」...の順にメニューが表示されます。



☐ ☐ キーを押してメニューを切り替えます。

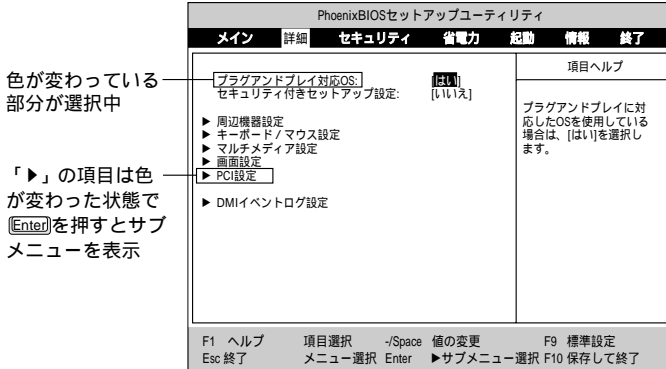
2

- ☐ または ☐ を押して、設定する項目を選びます。

アドバイス

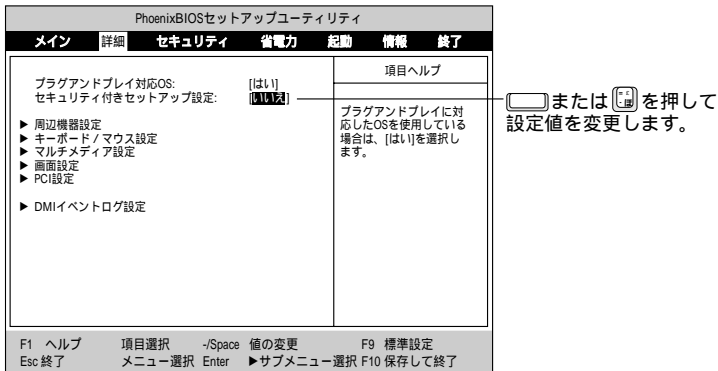
変更する項目に が付いている場合

先頭に「 」の付いた項目は、その項目を選択した状態で **[Enter]** を押すと、その項目に含まれる設定項目の一覧(サブメニュー)が表示されます。
サブメニューから元のメニューに戻るには **[Esc]** を押します。



3 選択している項目の設定値を変更します。

または を押して設定値を変更します。



続けて他の項目を設定する場合は、手順 1 ~ 3 を繰り返します。

BIOSセットアップの終了については「変更を保存して終了する」(▶▶ P.132)をご覧ください。

アドバイス

作業の途中でそれまでに設定した内容を保存するには

次の操作により、そのときまでに設定した内容を CMOS RAM に保存できます。設定を保存すると、変更前の設定内容に戻すことができなくなります。

1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、**[Enter]** を押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
2. **[Y]** または **[N]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
引き続き、設定を続けることができます。

それまでに設定した内容を取り消すには

次の操作により、CMOS RAM に保存されている設定内容を読み込みます。

1. 「終了」メニューの「変更前の値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。
「変更前の値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。
2. **[Y]** または **[N]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
引き続き、設定を続けることができます。

本パソコンの標準設定値（ご購入時の設定内容）に戻すには

「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行します。詳しくは、「ご購入時の設定内容（標準設定値）に戻す」（●▶ P.134）をご覧ください。

変更を保存して終了する

変更した設定値を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存する必要があります。以下の操作によって、設定内容を保存して BIOS セットアップを終了することができます。

1. **[Esc]** を押して、「終了」メニューを表示します。
サブメニュー画面を表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで **[Esc]** を 2～3 回押してください。
[Y] または **[N]** で表示させることもできます。

2. **[Y]** または **[N]** を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
[Y]	[N]

3. **[Y]** または **[N]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
すべての設定値が保存されたあと BIOS セットアップが終了し、本パソコンが起動します。

アドバイス

変更した設定値を保存せずに BIOS セットアップを終了するには
次の操作により、設定内容を破棄して、CMOS RAMに保存されている設定内容を変更
せずに BIOS セットアップを終了することができます。

1. 「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選択し、**[Enter]**を押します。
設定値を変更していない場合には、これで BIOS セットアップが終了します。
変更していた場合は、「設定が変更されています! 変更した内容を保存して終了
しますか?」というメッセージが表示されます。
2. **[N]** または **[Y]** で「いいえ」を選択します。
「はい」を選択すると、設定値が保存されてしまうので注意してください。
3. **[Enter]**を押します。
これで、BIOS セットアップが終了します。

3

ご購入時の設定内容（標準設定値）に戻す

リカバリを行うときや、エラーが発生してハードウェア環境をご購入時の状態に戻したいときには、BIOS セットアップの設定を「標準設定値」に戻します。



標準設定値に戻すには

すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
操作については、「BIOS セットアップを開始する」(●▶ P.129) をご覧ください。
- 2 **[Esc]** を押して、「終了」メニューを表示します。
サブメニュー画面を表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで **[Esc]** を 2 ~ 3 回押してください。
[F10] または **[F2]** で表示させることもできます。
- 3 **[F5]** または **[F6]** を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認
標準設定値を読み込みますか？
[はい] [いいえ]

- 4 **[F5]** または **[F6]** で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
読み込まれた設定値を有効にするには、CMOS RAM に保存する必要があります。



- 5  または  を押して「変更を保存して終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
[はい]	[いいえ]

アドバイス

保存後に設定操作を続けたいときは

「変更を保存して終了する」の代わりに「変更を保存する」を選択して、**[Enter]** を押します。

- 6  または  で「はい」を選択し、**[Enter]** を押します。
読み込んだ標準設定値が保存されたあと BIOS セットアップが終了し、本パソコンが起動します。
これで、ハードウェア環境がご購入時の設定値に戻りました。

4

設定項目の機能の一覧

「メイン」メニューの項目

日時と、ドライブやメモリの機能などの設定を行うメニューです。

システム時刻	現在の時刻を設定します。	**▶ P.142
システム日付	現在の年月日を設定します。	**▶ P.142
フロッピーディスク A	フロッピーディスクドライブを使うかどうかを設定します。	**▶ P.143
プライマリマスター	内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定する項目です。	**▶ P.143
システムメモリ	検出されたシステムメモリの容量が表示されます。	**▶ P.145
拡張メモリ	検出された拡張メモリの容量が表示されます。	**▶ P.145
メモリキャッシュ	外部キャッシュの動作を設定する項目です。	**▶ P.145
言語 (Language)	BIOSが画面表示に使用する言語を変更します。	**▶ P.146

「詳細」メニューの項目

パソコン本体と周辺機器の、機能やリソースなどの設定を行うメニューです。

プラグアンドプレイ 対応 OS	OSがプラグアンドプレイに対応しているかどうかを設定します。	**▶ P.147
セキュリティ付きセットアップ設定	OSのプラグアンドプレイ機能によって、システム設定が変更されないように設定します。	**▶ P.147
周辺機器設定	シリアルポートやパラレルポート、ディスクコントローラなどに関する設定を行う項目です。	**▶ P.147
キーボード / マウス設定	キーボードやマウスに関する設定を行う項目です。	**▶ P.150
マルチメディア設定	オーディオ機能などに関する設定を行う項目です。	**▶ P.151
画面設定	表示装置(ディスプレイ)に関する設定を行う項目です。	**▶ P.152
PCI 設定	PCI デバイスに関する設定を行う項目です。	**▶ P.153
DMI イベントログ設定	DMI イベントログ機能に関する設定を行う項目です。	**▶ P.154

「セキュリティ」メニューの項目

本パソコンを不正使用から保護するための設定を行うメニューです。

管理者用パスワード	管理者（本パソコンをお購入になった方など）用のパスワードの設定状態が表示されます。	**▶ P.155
ユーザー用パスワード	ユーザー（ご家族など、管理者以外の利用者）用のパスワードの設定状態が表示されます。	**▶ P.155
管理者用パスワード設定	管理者用パスワードを設定します。	**▶ P.155
ユーザー用パスワード設定	ユーザー用パスワードを設定します。	**▶ P.156
フロッピーディスク アクセス	フロッピーディスクドライブへのアクセスを制限するかどうかを設定します。	**▶ P.156
起動時のパスワード	本パソコンの起動時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。	**▶ P.156
レジューム時のパスワード	サスペンド（一時停止）状態からレジュームする（サスペンドする前の状態に戻る）時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。	**▶ P.157
ハードディスク起動セクタ	ハードディスクの起動セクタへのデータの書き込みを禁止するかどうかを設定します。	**▶ P.157
ハードディスク セキュリティ プライマリマスター	内蔵のハードディスクドライブを他のパソコンで使用できないように設定します。	**▶ P.158

「省電力」メニューの項目

BIOS の省電力機能に関する設定を行うメニューです。

省電力モード	省電力モードの段階を設定する項目です。	**▶ P.159
ハードディスク省電力	ハードディスクのモーターを止めるまでの時間を設定します。	**▶ P.160
ディスプレイ省電力	ディスプレイの表示を消すまでの時間を設定します。	**▶ P.160
アイドルモード	アイドルモードに移行するかどうかを設定します。	**▶ P.160
スタンバイタイマー	スタンバイモード* (ハードディスクが止まり、ディスプレイが消えた状態)に移行するまでの時間を設定します。	**▶ P.160
サスペンドタイマー	自動的にサスペンド(一時停止)状態に移行するまでの時間を設定します。	**▶ P.161
サスペンド動作	サスペンドする時に、サスペンド(一時停止)状態に移行するか、Save To Disk 機能で電源を切るかを設定します。	**▶ P.161
自動 Save To Disk	サスペンド(一時停止)状態になってから1時間後に、自動的に Save To Disk 機能で電源を切るかどうかを設定します。	**▶ P.162
モデム着信による レジューム	サスペンド中に電話回線からモデムに着信したとき、自動的にレジュームするかどうかを設定します。	**▶ P.162
時刻による レジューム	サスペンド中に、設定した時刻(レジューム時刻)になったとき、自動的にレジュームするかどうかを設定します。	**▶ P.162
レジューム時刻	「時刻によるレジューム」の時刻を設定します。	**▶ P.162
詳細設定	省電力機能の詳細項目を設定する項目です。	**▶ P.163

* スタンバイモード：

BIOS 独自の機能で、Windows98 でいう「スタンバイ」とは異なります。
Windows98 でいう「スタンバイ」は、「サスペンド機能」のことです。

「起動」メニューの項目

本パソコンの起動時の動作について設定するメニューです。

クイック起動	起動時の自己診断テスト (POST) を簡略化して、起動時間を短縮するかどうかを設定します。	▶▶ P.165
起動時の自己診断画面	起動時に自己診断画面を表示するかどうかを設定します。	▶▶ P.165
起動デバイスの優先順位	起動用のデバイスを検索する順番を設定する項目です。	▶▶ P.166

「情報」メニューの項目

BIOS やパソコン本体についての情報を表示するためのメニューです。

BIOS 版数	BIOS のバージョン番号が表示されます。	▶▶ P.167
BIOS 日付	BIOS の日付が表示されます。	▶▶ P.167
BIOS 領域	BIOS 領域のアドレスが表示されます。	▶▶ P.167
CPU タイプ	CPU のタイプが表示されます。	▶▶ P.167
CPU 速度	CPU のクロック速度が表示されます。	▶▶ P.167
L1 キャッシュ	1 次キャッシュメモリの容量が表示されます。	▶▶ P.167
L2 キャッシュ	2 次キャッシュメモリの容量が表示されます。	▶▶ P.167
全メモリ容量	搭載しているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。	▶▶ P.167
標準メモリ	本パソコンに内蔵されているメモリ (RAM) の容量が表示されます。	▶▶ P.167
増設メモリ	拡張 RAM モジュールスロットに取り付けているメモリの容量が表示されます。	▶▶ P.168
資産番号	(本パソコンでは「未定義」と表示されます。)	▶▶ P.168

「終了」メニューの項目

設定内容を保存したり、BIOSセットアップを終了するときに表示するメニューです。

変更を保存して終了する	設定した内容をCMOS RAMに保存して、BIOSセットアップを終了したいときに選択します。	**▶ P.168
変更を保存せずに終了する	設定した内容を取り消して、変更前の設定のままBIOSセットアップを終了したいときに選択します。	**▶ P.168
標準設定値を読み込む	すべての設定値を、ご購入時の状態(標準設定値)に戻したいときに選択します。	**▶ P.168
変更前の値を読み込む	すべての設定値の変更を取り消したいときに選択します。CMOS RAMから変更前の値を読み込みます。	**▶ P.168
変更を保存する	設定した内容をCMOS RAMに保存したいときに選択します。	**▶ P.168

5

各メニューでの設定内容の詳細

ここでは、各メニューの項目の詳細について説明します。
各メニューの説明で使用しているマークは、次の意味です。

- : 項目名
- : サブ項目名やサブメニューの項目名
- : 設定する値

「メイン」メニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ		
メイン	詳細	セキュリティ 省電力 起動 情報 終了
		項目ヘルプ
システム時刻:	[12:34:56]	現在の時刻を設定します。 <Tab>キー、<Shift-Tab> キー、<Enter>キーで項目 を選択します。
システム日付:	[1999/XX/XX]	
フロッピーディスクA:	[1.44/1.2 MB 3.5"]	
▶ プライマリマスター	[XXXXXXXXXX]	
システムメモリ:	640 KB	
拡張メモリ:	63 MB	
▶ メモリキャッシュ		
言語 (Language):	[日本語 (JP)]	
F1 ヘルプ	項目選択 -/Space 値の変更	F9 標準設定
Ese 終了	メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択	F10 保存して終了

システム時刻

現在の時刻を、時：分：秒（24時間制）で設定します。
変更する項目にカーソルを移動し、数値を入力します。

システム日付

現在の日付を、年 / 月 / 日で設定します。

フロッピーディスク A (標準設定値: 1.44/1.2 MB 3.5")

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 1.44/1.2 MB 3.5"

本パソコンに添付されているフロッピーディスクユニットに対応します。

プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
メイン	
プライマリマスター [XXXXXXXXXX]	項目ヘルプ
タイプ: [自動] シリンダ数: [XXXX] ヘッド数: [XX] セクタ数: [XX] 最大容量: XXXX MB マルチセクタ転送: [16セクタ] LBAモード制御: [使用する] 転送モード: [高速PIO 4 / DMA有効] Ultra DMAモード: [モード2]	接続されたATA/ATAPIデバイスのタイプを選択します。 [自動]を選択すると、起動時にデバイスのタイプを自動的に認識します。 [ユーザー設定]を選択すると、シリンダ数、ヘッド数、セクタ数の各項目を設定することができます。
F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定 Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了	

アドバイス

標準設定値を読み込んだときは

「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(●▶ P.168)を実行した直後には、各項目の自動設定は行われません。本パソコンを再起動すると、各項目が自動設定されます。

タイプ (標準設定値: 自動)

内蔵ハードディスクのタイプを選択します。通常は「自動」を選択してください。

- 自動

本パソコンの起動時に、内蔵ハードディスクを自動的に認識し、適切な動作モードに設定されます。また、「シリンダ数」「ヘッド数」「セクタ数」の各項目には、検出された値が表示されます。

- なし

選択すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなり、以下の各項目はすべて表示されなくなります。

- ユーザー設定

以下の各項目が設定できるようになります。

シリンダ数

「タイプ」で「自動」を選んだときは、内蔵ハードディスクのシリンダ数が表示されます。

「ユーザー設定」を選んだ場合には、シリンダ数を設定します。

- 0 ~ 65535

ヘッド数

「タイプ」で「自動」を選んだときは、内蔵ハードディスクのヘッド数が表示されます。

「ユーザー設定」を選んだ場合には、ヘッド数を設定します。

- 1 ~ 16

セクタ数

「タイプ」で「自動」を選んだときは、内蔵ハードディスクのセクタ数が表示されます。

「ユーザー設定」を選んだ場合には、セクタ数を設定します。

- 0 ~ 63

重要

シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定するときは

必ず正しい値を設定してください。誤った値を設定すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

最大容量

「タイプ」で「自動」か「ユーザー設定」を選択している場合に、「シリンダ数」「ヘッド数」「セクタ数」から計算された最大容量が表示されます。

マルチセクタ転送

複数セクタのデータを一括して転送する場合（マルチセクタ転送）の、転送ブロックのセクタ数を設定します。設定できる最大値は、ハードディスクの容量によって変わります。

「タイプ」で「自動」を選んだときは自動的に設定され、選択できません。

- 使用しない

- 2セクタ ~ 16セクタ、MAX 32 ~ MAX 128

設定する値を選択します。数値が大きくなるほど転送速度は上がりますが、効果が現れるセクタ数はハードディスクのキャッシュ容量に左右されます。

LBA モード制御

LBA（論理ブロックアドレッシング）モードを使うかどうかを選択します。

「タイプ」で「自動」を選んだときは自動的に設定され、選択できません。

- 使用しない

- 使用する

転送モード

ドライブとパソコン本体間での、データの転送モードを選択します。
「タイプ」で「自動」を選んだときは自動的に設定され、選択できません。

- 標準
PIO Mode 0 に設定します。
- 高速 PIO 1 ~ 高速 PIO 4
設定するモードを選択します。数字が大きくなるほど転送速度が上がります。
- 高速 PIO 3 / DMA 有効 ~ 高速 PIO 4 / DMA 有効
設定するモードを選択します。マルチワードDMAモードが有効になります。

Ultra DMA モード

ドライブとパソコン本体間のデータ転送で、Ultra DMAモードを使うかどうかを選択します。

「タイプ」で「自動」を選んだときは自動的に設定され、選択できません。

- 使用しない
- モード 0 ~ モード 2
設定するモードを選択します。ドライブが対応していないと正しく動作しません。

システムメモリ

本パソコンの起動時に検出された、システムメモリの容量が表示されます。

拡張メモリ

本パソコンの起動時に検出された、拡張メモリの容量が表示されます。

メモリキャッシュ

外部キャッシュメモリの動作について設定します。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
メイン	
メモリキャッシュ	項目ヘルプ
外部キャッシュ: [使用する]	外部キャッシュを使用するかどうかを設定します。
F1 ヘルプ Esc 終了	項目選択 -/Space 値の変更 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F9 標準設定 F10 保存して終了

外部キャッシュ（標準設定値：使用する）

外部キャッシュを使用するかどうかを設定します。通常は「使用する」の設定
でお使いください。

- 使用しない
- 使用する

言語（Language）

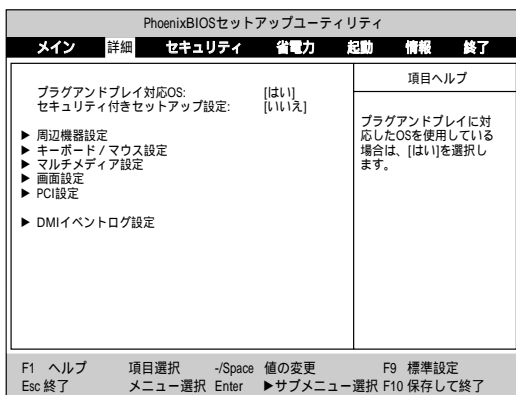
BIOSセットアップや起動時の自己診断テストで、画面表示に使用する言語を選択
します。

設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示さ
れます。

- English (US)
- 日本語 (JP)

「詳細」メニュー

「詳細」メニューでは、パソコン本体と周辺機器の機能やリソースなどの設定を行いま
す。



アドバイス

I/Oポートアドレスを設定するとき

同じI/Oポートアドレスに、複数のデバイスを割り当てないように注意してください。

割り込み番号（IRQ）を設定するとき

1つの割り込み番号に、複数のデバイスを割り当てないように注意してください。
ご購入時の設定値については、「リソース一覧」（**▶ P.199）をご覧ください。

DMAチャンネルを設定するとき

1つのDMAチャンネルに、複数のデバイスを割り当てないように注意してください。
ご購入時の設定値については、「リソース一覧」（**▶ P.199）をご覧ください。

リソース設定が競合したときは

競合した設定項目の左に、黄色の「*」マークが表示されます。この場合には、「*」マ
ークが消えるように設定を変更してください。

プラグアンドプレイ対応 OS (標準設定値: はい)

Windowsなど、プラグアンドプレイに対応したOSを使用しているかどうかを設定します。

- いいえ
- はい

セキュリティ付きセットアップ設定 (標準設定値: いいえ)

OSのプラグアンドプレイ機能によって、BIOSのシステム設定が変更されないように保護するかどうかを設定します。保護したいときは「はい」を選択します。

- いいえ
- はい

周辺機器設定

シリアルポートやパラレルポート、ディスクコントローラなどに関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ		
詳細		
周辺機器設定		項目ヘルプ
シリアルポートA:	[使用する]	シリアルポートAを使用するかどうかを設定します。
I/Oベースアドレス:	[3F8]	
割り込み番号:	[IRQ 4]	
シリアルポートB:	[使用する]	[使用しない]
モード:	[FIR]	シリアルポートAを無効にします。
I/Oベースアドレス:	[2E8]	[使用する]
割り込み番号:	[IRQ 3]	設定した値に従って、シリアルポートAを有効にします。
I/Oベースアドレス:	[118]	
DMAチャネル:	[DMA 3]	
パラレルポート:	[使用する]	[自動]
モード:	[双方向]	プラグアンドプレイ対応OSの設定に応じて、BIOSまたはOSが自動的に設定します。
I/Oベースアドレス:	[378]	
割り込み番号:	[IRQ 7]	
フロッピーコントローラ:	[使用する]	
内蔵IDEコントローラ:	[使用する]	

F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

シリアルポート A (標準設定値: 使用する)

シリアルポート A を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する
- 自動

I/O ベースアドレス (標準設定値: 3F8)

シリアルポート A の I/O ポートアドレスを設定します。

- 3F8、2F8、3E8、2E8
- 設定するベースアドレスを選択します。

割り込み番号 (標準設定値: IRQ 4)

シリアルポート A の割り込み番号を設定します。

- IRQ 3、IRQ 4、IRQ 10、IRQ 11

シリアルポート B (標準設定値 : 使用する)

シリアルポート B (赤外線通信ポート) を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する
- 自動

モード (標準設定値 : FIR)

赤外線通信ポート (シリアルポート B) のモードを選択します。

- IrDA
標準モードで使用するときを設定します。
- FIR
高速モード (Fast IR) で使用するときを設定します。
高速モード用の「I/O ベースアドレス」と「DMA チャンネル」も設定する必要があります。

I/O ベースアドレス (標準設定値 : 2E8)

シリアルポート B の I/O ポートアドレスを設定します。

- 3F8、2F8、3E8、2E8
設定するベースアドレスを選択します。

割り込み番号 (標準設定値 : IRQ 3)

シリアルポート B の割り込み番号を設定します。

- IRQ 3、IRQ 4、IRQ 10、IRQ 11

I/O ベースアドレス (標準設定値 : 118)

高速モード用の I/O ポートアドレスを設定します。

シリアルポート B の「モード」で「FIR」を選択したときにのみ設定できます。

- 100、108、110、118
設定するベースアドレスを選択します。

DMA チャンネル (標準設定値 : DMA 3)

高速モード用の DMA チャンネルを設定します。

シリアルポート B の「モード」で「FIR」を選択したときにのみ設定できます。

- DMA 1、DMA 3

パラレルポート (標準設定値 : 使用する)

パラレルポートを使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する
- 自動

モード（標準設定値：双方向）
 パラレルポートのモードを選択します。

- 出力のみ
- 双方向
- ECP

アドバイス

「ECP」の設定について

ECPモードは、パラレルポートにECP対応の周辺機器を接続する場合に設定します。
 ECPモード用の「DMAチャンネル」も設定する必要があります。

I/Oベースアドレス（標準設定値：378）
 パラレルポートのI/Oポートアドレスを設定します。

- 378、278、3BC
- 設定するベースアドレスを選択します。

割り込み番号（標準設定値：IRQ 7）
 パラレルポートの割り込み番号を設定します。

- IRQ 5、IRQ 7

DMAチャンネル（標準設定値：DMA 1）
 ECPモード用のDMAチャンネルを設定します。
 パラレルポートの「モード」で「ECP」を選択したときにのみ設定できます。

- DMA 1、DMA 3

アドバイス

ECPモード用DMAチャンネルの設定上の注意

通常は「DMA 1」に設定してください。DMA 3は、標準設定値では赤外線通信ポート（シリアルポートB）のFIR用に割り当てられています。
 また、DMA 1には「マルチメディア設定」（**▶P.151）で「サウンドデバイス」のDMAチャンネルが割り当てられているため、この「DMAチャンネル」の設定を「DMA 0」に変更してください。

フロッピーコントローラ（標準設定値：使用する）
 フロッピーディスクコントローラを使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する

内蔵 IDE コントローラ（標準設定値：使用する）

内蔵の IDE コントローラを使用するかどうかを設定します。

- 使用しない

- 使用する

キーボード / マウス設定

キーボードやクイックポイント に関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
詳細	
キーボード / マウス設定	項目ヘルプ
Numlock: [自動] ホットプラグ: [使用する] 内蔵ポインティングデバイス: [常に使用する]	起動したときに、テンキーモードになるかどうかを設定します。


F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

Numlock（標準設定値：自動）


本パソコンが起動したときの、テンキーモードの状態を選択します。

- 自動

外部キーボードを接続していない場合には、本体のキーボードはテンキーモードになっていません。(Fn)を押しながら(NumLk)を押してテンキーモードにすることもできます。

外部キーボードを接続している場合には、外部キーボードのみテンキーモードになり、状態表示LCDにが表示されます。また、本体のキーボードはテンキーモードにできなくなります。

- オン

本体のキーボード、外部キーボードのいずれも、テンキーモードになり、状態表示LCDにが表示されます。

- オフ

本体のキーボード、外部キーボードのいずれも、テンキーモードになっていません。

ホットプラグ（標準設定値：使用する）

ホットプラグ機能を使用するかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、本パソコンの動作中にキーボードを接続して使うことができます。

- 使用しない

- 使用する

アドバイス

接続したキーボードが使えないとき

接続したキーボードがホットプラグに対応していない場合があります。本パソコンの動作中に接続したキーボードが使えないときは、いったん取り外し、しばらく待ってからもう一度接続してください。それでも使えないときは、本パソコンの電源を切るか、サスペンドしてから接続してください。

次のような場合には「使用しない」に設定してください

- 「ホットプラグ」を「使用する」に設定したときに、お使いのキーボードの動作に異常が見られる場合
- 拡張キーボードコネクタに入力装置(バーコードリーダ:FMV-BCR101、バーコードタッチリーダ:FMV-BCR201、磁気カードリーダ:FMV-MCR101など)を接続した場合
また、この場合は「省電力モード」(●▶ P.159)も「使用しない」に設定してください。

内蔵ポインティングデバイス(標準設定値:常に使用する)
クイックポイントⅢを使うかどうかを設定します。

- 自動
クイックポイントⅢが使用できなくなります。
- 常に使用する

マルチメディア設定

オーディオ機能などのマルチメディアデバイスに関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ			
詳細			
マルチメディア設定	項目ヘルプ		
マルチメディアデバイス: [使用する]	マルチメディアデバイスの設定を行います。		
サウンドデバイス: [使用する]			
I/Oアドレス: [220 - 22F]			
FM音源I/Oアドレス: [388 - 38B]			
割り込み番号: [IRQ 5]			
DMAチャンネル: [DMA 1]			
DMAチャンネル: [DMA 5]			
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space 値の変更	F9 標準設定
Esc 終了	メニュー選択	Enter ▶サブメニュー選択	F10 保存して終了

マルチメディアデバイス(標準設定値:使用する)
オーディオ機能などのマルチメディアデバイスを、使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
設定すると、以下の設定項目はすべて表示されなくなります。
- 使用する
以下の各項目を設定できます。

サウンドデバイス（標準設定値：使用する）
オーディオ機能を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する
- 自動

I/Oアドレス（標準設定値：220 - 22F）
オーディオ機能用のI/Oポートアドレスを設定します。

- 220 - 22F、240 - 24F、260 - 26F、280 - 28F
- 設定するアドレス範囲を選択します。

FM音源I/Oアドレス（標準設定値：388 - 38B）
FM音源用のI/Oポートアドレスを設定します。

- 388 - 38B、38C - 38F、390 - 393、394 - 397
- 設定するアドレス範囲を選択します。

割り込み番号（標準設定値：IRQ 5）
オーディオ機能用の割り込み番号を設定します。

- IRQ 5、IRQ 7、IRQ 9、IRQ 10、IRQ 11

DMAチャンネル（標準設定値：DMA 1）
オーディオ機能が使用するDMAチャンネルを設定します。

- DMA 0、DMA 1、DMA 3、DMA 5

DMAチャンネル（標準設定値：DMA 5）
オーディオ機能が使用するDMAチャンネルを設定します。

- DMA 0、DMA 1、DMA 3、DMA 5

画面設定

表示装置（ディスプレイ）に関する設定を行う項目です。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ	
詳細	
画面設定	項目ヘルプ
ディスプレイ: [液晶ディスプレイ] 全体表示: [使用しない]	表示装置を選択します。 [液晶ディスプレイ] 本パソコンの液晶ディスプレイで表示します。 [CRTディスプレイ] 外部CRTディスプレイで表示します。 [同時表示] 液晶ディスプレイと外部CRTディスプレイで、同時に表示します。
F1 ヘルプ Esc 終了	項目選択 -/Space 値の変更 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

ディスプレイ（標準設定値：液晶ディスプレイ）

画面を表示する装置を選択します。

- 液晶ディスプレイ
- CRTディスプレイ
- 同時表示

全体表示（標準設定値：使用しない）

本パソコンの液晶ディスプレイで、解像度が640×480ドットの画面を表示するとき、画面補正を行って画面全体で表示する機能を使うかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する

PCI 設定

PCI デバイスに関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
詳細	
PCI設定	項目ヘルプ
▶ 割り込み番号の予約	特定の割り込み番号を、内蔵のPCIやISAデバイスで使用しないように予約します。

F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

割り込み番号の予約

特定の割り込み番号をPCカードに割り当てたいとき、その割り込み番号が内蔵デバイスに使用されないように、予約しておくための設定です。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
詳細	
割り込み番号の予約	項目ヘルプ
IRQ 3: [予約しない] IRQ 4: [予約しない] IRQ 5: [予約しない] IRQ 7: [予約しない] IRQ 9: [予約しない] IRQ 10: [予約しない] IRQ 11: [予約しない] IRQ 15: [予約しない]	この割り込み番号を、内蔵のPCIやISAデバイスで使用しないように予約するかどうかを設定します。

F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

IRQ 3 ~ IRQ 15 (標準設定値: 予約しない)

その割り込み番号が内蔵デバイスに使用されないように、予約しておくかどうかを設定します。

- 予約しない

その割り込み番号は、内蔵デバイスへの割り当てにも使用されません。

- 予約する

その割り込み番号は、内蔵デバイスへは割り当てられません。特定の割り込み番号を必要とするPCカード用に空けておくことができます。

DMI イベントログ設定

DMI イベントログ機能に関する設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
詳細	
DMI イベントログ設定	項目ヘルプ
イベントログ領域の状態: 保存可能	再起動時にイベントログの内容をクリアしたいときに設定します。
イベントログ内容の状態: 有効	
イベントログのクリア [クリアしない]	[クリアする]に設定すると、再起動時にイベントログの内容がクリアされ、再び[クリアしない]の設定に戻ります。
イベントログ: [保存する]	
システムブートイベント: [保存しない]	

F1 ヘルプ 項目選択 -/Space 値の変更 F9 標準設定
Esc 終了 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

イベントログ領域の状態

イベントログを保存できるかどうかが表示されます。

イベントログ内容の状態

イベントログの内容が有効かどうかが表示されます。

イベントログのクリア (標準設定値: クリアしない)

保存されているイベントログの内容をクリアしたいときに設定します。

- クリアしない

- クリアする

再起動時にイベントログがクリアされ、設定値は自動的に「クリアしない」に戻ります。

イベントログ (標準設定値: 保存する)

イベントログを保存するかどうかを設定します。

- 保存しない

- 保存する

システムブートイベント（標準設定値：保存しない）

システム起動イベントを、イベントログに保存するかどうかを設定します。

- 保存しない
- 保存する

「セキュリティ」メニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを不正使用から保護するための設定を行います。

詳しくは、「BIOSのパスワード機能を使う」(●▶ P.169)をご覧ください。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
		管理者用パスワード:	未設定	項目ヘルプ		
		ユーザー用パスワード:	未設定			
		管理者用パスワード設定	[Enter]	[Enter]キーを押すと、 管理者用パスワードを設定できます。		
		ユーザー用パスワード設定	[Enter]			
		フロッピーディスクアクセス:	[常に可能]	設定すると、BIOSセットアップへのアクセス時にパスワードの入力を要求されます。		
		起動時のパスワード:	[使用しない]			
		レジューム時のパスワード:	[使用しない]			
		ハードディスク起動セクタ:	[通常動作]			
		ハードディスクセキュリティ プライマリマスター:	[使用しない]			
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space 値の変更	F9 標準設定			
Esc 終了	メニュー選択	Enter ▶サブメニュー選択	F10 保存して終了			

管理者用パスワード

管理者（本パソコンをご購入になった方など）用のパスワードの設定状態が表示されます。

ユーザー用パスワード

ユーザー（ご家族など、管理者以外の利用者）用のパスワードの設定状態が表示されます。

管理者用パスワード設定

設定のしかたについては、「パスワードを設定する」(●▶ P.170)をご覧ください。

設定すると、BIOSセットアップの起動時にパスワードの入力が要求されます。

ユーザー用パスワード設定

この項目は、「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。設定のしかたについては、「パスワードを設定する」(●▶ P.170)をご覧ください。

BIOS セットアップ起動時のパスワード入力でユーザー用パスワードを入力すると、BIOS セットアップで設定できる項目が制限されます。

フロッピーディスクアクセス (標準設定値：常に可能)

この項目は、「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。フロッピーディスクドライブへのアクセスを制限するかどうかを設定します。

- 常に可能
通常どおり、フロッピーディスクドライブを使うことができます。
- 管理者のみ可能
「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されているときは、管理者以外のアクセスが禁止されます。「使用しない」に設定されているときは、すべてのアクセスが禁止され、フロッピーディスクドライブが使えなくなります。

重要

フロッピーディスクアクセスの設定についての注意

この設定は、BIOSを経由しないで直接フロッピーディスクコントローラにアクセスする OS (WindowsNT など) では、正しく動作しません。

起動時のパスワード (標準設定値：使用しない)

この項目は、「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。本パソコンの起動時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。

- 使用しない
起動時に、パスワードの入力は要求されません。
- 使用する
起動時に、パスワードの入力が要求されます。管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを入力しないと、本パソコンを起動できません。

レジューム時のパスワード（標準設定値：使用しない）



この項目は、「管理者用パスワード」が設定され、「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合にのみ設定できます。

レジュームする（サスペンドする前の状態に戻す）時に、パスワードの入力が必要かどうかを設定します。

- 使用しない
レジュームする時に、パスワードの入力は必要ありません。
- 使用する
レジュームする時に、パスワードの入力が必要になります。管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを入力しないと、パスワード入力以外のキーボード操作とクイックポイントⅢやタッチパネルの操作ができません。

重要

レジューム時のパスワード入力について

レジュームするとき、パスワードの入力を求めるメッセージは表示されず、状態表示LCDの  と  が交互に点滅します。

キーボードやクイックポイントⅢなどを使用できるようにするには、本パソコンの起動時に入力したパスワードをキーボードから入力し、**[Enter]** を押してください。

USBタイプのキーボードやマウス、シリアルマウスはパスワード機能の対象外です。「レジューム時のパスワード」の機能は、内蔵またはPS/2タイプのキーボードやポインティングデバイスに対してのみ働きます。「レジューム時のパスワード」を「使用する」に設定していても、USBタイプのキーボードやマウス、シリアルマウスなどを接続すると、パスワードを入力しなくても本パソコンを操作することができます。

ハードディスク起動セクタ（標準設定値：通常動作）

ハードディスクの起動セクタをウイルスから保護するため、起動セクタへのデータの書き込みを禁止するかどうかを設定します。

- 通常動作
起動セクタへの書き込みを禁止しません。
- 書き込み禁止
起動セクタへの書き込みを禁止します。

重要

ハードディスク起動セクタの設定についての注意

- OSをインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- この設定は、BIOSを経由しないで直接ハードディスクにアクセスするOS（WindowsNTなど）では、正しく動作しません。

ハードディスクセキュリティ

ハードディスクドライブのパスワードロック機能を設定します。パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブでのみ利用できます。

プライマリマスター（標準設定値：使用しない）

この項目は、「管理者用パスワード」が設定されている場合に設定できます。内蔵のハードディスクドライブを、他のパソコンで使用できないようにするかどうかを設定します。

- 使用しない

パスワードロック機能を使用しません。

- 使用する

パスワードロック機能を使用します。内蔵のハードディスクドライブを取り外して他のパソコンに取り付けたとき、そのパソコンにも本パソコンと同じ管理者用パスワードを設定しないと、データの読み出しができなくなります。


重要

ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動すると

次の各項目の設定は変更できません。

- 管理者用パスワード設定
- フロッピーディスクアクセス
- ハードディスク起動セクタ
- ハードディスクセキュリティ

「省電力」メニュー

「省電力」メニューでは、本パソコンの省電力機能に関する設定を行います。省電力機能は、「コントロールパネル」の (電源の管理) や「PMSet98」でも設定できます(●▶ P.68)。通常は、「省電力」メニューの設定値を変更する必要はありません。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ			
メイン	詳細	セキュリティ	省電力
			起動 情報 終了
			項目ヘルプ
省電力モード:	[ユーザー設定]		
ハードディスク省電力:	[使用しない]		
ディスプレイ省電力:	[使用しない]		
アイドルモード:	[使用する]		
スタンバイタイマー:	[4分]		
サスペンドタイマー:	[15分]		
サスペンド動作:	[サスペンド]		
自動Save To Disk:	[使用しない]		
モデム着信によるレジューム:	[使用しない]		
時刻によるレジューム:	[使用しない]		
レジューム時刻:	[00:00:00]		
▶ 詳細設定			
項目ヘルプ			
省電力モードの段階を設定します。			
[使用しない] 省電力機能を使用しません。			
[ユーザー設定] 各項目を個別に設定します。			
[省電力優先] 電力消費を最小限に抑えます。			
[性能優先] システムの性能を損わない範囲で電力消費を抑えます。			
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space 値の変更	F9 標準設定
Esc 終了	メニュー選択	Enter ▶サブメニュー選択	F10 保存して終了

アドバイス

Windows 98 をお使いのときは

以下の各項目の設定内容は、無効となります。

- 「スタンバイタイマー」
- 「サスペンドタイマー」


省電力モード (標準設定値: ユーザー設定)

省電力モードの段階を設定します。

- 使用しない
省電力機能を使用しません。
- ユーザー設定
以下の「ハードディスク省電力」から「サスペンドタイマー」までの各項目を設定できます。
- 省電力優先
アプリケーションなどが使える範囲で、電力消費を最小限に抑えます。
- 性能優先
システムの性能を損わない範囲で、電力消費を抑えます。

ハードディスク省電力（標準設定値：使用しない）


一定時間ハードディスクへのアクセスがない場合に、ハードディスクドライブのモーターを止めるまでの時間を設定します。

「コントロールパネル」の（電源の管理）で、ハードディスクの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。

- 使用しない
ハードディスクドライブのモーターは常に回転しています。
- 30秒、1分～20分
ハードディスクドライブのモーターを止めるまでの時間を選択します。

ディスプレイ省電力（標準設定値：使用しない）

一定時間キーボードやクイックポイントⅢからの入力がない場合に、ディスプレイの表示を消すまでの時間を設定します。

「コントロールパネル」の（電源の管理）で、モニタの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。

- 使用しない
ディスプレイは常に表示されています。
- 2分～20分
ディスプレイの表示を消すまでの時間を選択します。

重要

別売のシリアルマウスをお使いのときは

「ディスプレイ省電力」で時間を設定したときは、「シリアルマウス」（**▶P.164）を「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定していると、シリアルマウスを使用しているときでもディスプレイの表示が消えてしまいます。

アイドルモード（標準設定値：使用する）

キーボードやクイックポイントⅢからの入力やデータの入出力がない場合に、アイドルモード（CPUのクロック速度を遅くした状態）に移行する機能を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する

スタンバイタイマー（標準設定値：4分）


一定時間キーボードやクイックポイントⅢからの入力やデータの入出力がない場合に、ハードディスクのモーターを止めてディスプレイの表示を消した状態（スタンバイモード：Windows98でいう「スタンバイ状態」とは異なります）に移行するまでの時間を設定します。

Windows98 が起動しているときは、本設定は無効になります。時間を設定していても、スタンバイモードには移行しません。

- 使用しない
スタンバイモードに移行しません。
- 1分 ~ 16分
スタンバイモードに移行するまでの時間を設定します。

サスペンドタイマー（標準設定値：15分）

一定時間キーボードやクイックポイントⅢからの入力やデータの入出力がない場合に、自動的にサスペンド状態（Windows 98 でいう「スタンバイ状態」）に移行するまでの時間を設定します。

Windows98 が起動しているときは、本設定は無効です。「コントロールパネル」の （電源の管理）の設定に従ってサスペンド状態になります。

- 使用しない
自動的にサスペンド状態になりません。
- 5分 ~ 60分
自動的にサスペンド状態になるまでの時間を設定します。

アドバイス

「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定しているときはサスペンドするときに、自動的に Save To Disk 機能が働いて電源が切れます。

サスペンド動作（標準設定値：サスペンド）

サスペンドするとき、サスペンド機能の代わりに Save To Disk 機能を使用して電源を切るかどうかを設定します。

- サスペンド
サスペンド（一時停止）状態になります。
- Save To Disk
Save To Disk 機能で電源が切れます。

アドバイス

「Save To Disk」に設定してもサスペンド状態になることがあります

次の各場合には、Save To Disk 機能が働かず、サスペンド状態になります。

- Save To Disk 領域が作成されていないとき
- 「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」を設定しているとき
- 「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウで、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左が になっているとき
- バッテリー切れ状態で自動的にサスペンドするとき

自動 Save To Disk (標準設定値：使用しない)

サスペンド(一時停止)状態になってから1時間後に、自動的にSave To Disk機能で電源を切る機能を、使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 1時間後に移行する

モデム着信によるレジューム(標準設定値：使用しない)

電話回線からモデムに着信したとき、自動的にサスペンド(一時停止)状態からレジュームするかどうかを設定します。

ただし、PDCコネクタに接続した携帯電話からの着信ではレジュームしません。この設定は「PMSet98」(▶▶ P.68)が起動しているときに有効です。「PMSet98」が起動していないときは、Windowsがレジュームするように自動的に設定し、本設定は無効となります。

- 使用しない
モデムの着信時にレジュームしません。
- 使用する
モデムの着信によって、自動的にレジュームします。

アドバイス

モデム着信によるレジューム機能についての注意

パソコン本体がレジュームしてからアプリケーションがモデムと通信できるようになるまでには、多少の時間が必要です。アプリケーションがモデムの着信信号を検出できるように、モデムの自動応答回数を設定してください。モデムの設定方法については、『FMV-BIBLO内蔵モデム取扱説明書』をご覧ください。

時刻によるレジューム(標準設定値：使用しない)

「レジューム時刻」で設定した時刻になったとき、自動的にサスペンド(一時停止)状態からレジュームする機能を、使用するかどうかを設定します。

Windowsで「タスクスケジュール」を設定している場合には、BIOSと「タスクスケジュール」の両方の設定が有効になります。

- 使用しない
- 使用する

レジューム時刻

「時刻によるレジューム」を「使用する」に設定したとき、サスペンド(一時停止)状態からレジュームする時刻を、時：分：秒(24時間制)で設定します。設定する項目にカーソルを移動して、数値を入力します。

詳細設定

省電力機能の詳細項目を設定できます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ			
省電力			
詳細設定		項目ヘルプ	
SUS/RESスイッチ:	[使用する]	SUS/RESスイッチを使用するかどうかを設定します。	
カバークローズサスペンド:	[使用する]		
カパーオープンレジューム:	[使用しない]		
APMのCPUアイドル動作:	[低電力]		
液晶ディスプレイバックライト:	[低電力]		
シリアルマウス:	[使用しない]		
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space 値の変更	F9 標準設定
Esc 終了	メニュー選択	Enter	▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

SUS/RES スイッチ (標準設定値: 使用する)

SUS/RES スイッチの機能を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する

カバークローズ サスペンド (標準設定値: 使用する)

液晶ディスプレイを閉じたとき、自動的にサスペンド(一時停止)する機能を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する

重要

カバークローズサスペンドについての注意

- ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PCカード利用中は、それらの作業を完了または中断してから、液晶ディスプレイを閉じてください。
- Windows の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

カパーオープン レジューム (標準設定値: 使用しない)

サスペンド(一時停止)中に液晶ディスプレイを開いたとき、サスペンド(一時停止)状態からレジュームする機能を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する

APMのCPUアイドル動作(標準設定値:低電力)

OSの省電力機能(APMドライバ)から「CPUアイドル」が通知されたときの、CPUの動作を設定します。

Windows98が起動しているときは、「標準」の動作になります。

- 標準
CPUの動作は停止しますが、CPUへのクロック供給は行います。
- 低電力
CPUの動作を停止し、CPUへのクロック供給も停止します。

アドバイス

「低電力」に設定して動作が不安定になったとき

「低電力」に設定すると、動作環境によっては本パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合には「標準」に設定してください。

液晶ディスプレイ バックライト(標準設定値:低電力)

液晶ディスプレイのバックライトを暗くして節電するかどうかを設定します。

「PMS98」(●▶P.70)でも設定できます。

- 標準
バックライトを暗くしません。
- 低電力
バックライトを暗くして節電します。

シリアルマウス(標準設定値:使用しない)

別売のシリアルマウスを使用しているとき、マウスの操作によってディスプレイが省電力モードから復帰する機能を使用するかどうかを設定します。

- 使用しない
- 使用する

「起動」メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
クイック起動: [使用する] 起動時の自己診断画面: [表示しない] ▶ 起動デバイスの優先順位					項目ヘルプ 起動時の自己診断テストを簡略化するかどうかを設定します。 [使用する]に設定すると、起動時間が短縮されます。	
F1 ヘルプ Esc 終了	項目選択 メニュー選択	-/Space 値の変更 Enter ▶サブメニュー選択		F9 標準設定 F10 保存して終了		

クイック起動（標準設定値：使用する）

起動時の自己診断テスト（POST）を簡略化して、起動時間を短縮するかどうかを設定します。

- 使用しない
起動時の自己診断テストを簡略化しません。
- 使用する
起動時の自己診断テストを簡略化して、起動時間を短縮します。
- 自動
起動時の自己診断テストを簡略化するかどうかを自動的に判断し、起動時間を短縮します。

起動時の自己診断画面（標準設定値：表示しない）

起動時の自己診断テストの途中経過や診断結果を、画面に表示するかどうかを設定します。

- 表示しない
自己診断テスト中は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されます。
- 表示する

起動デバイスの優先順位

(標準設定値:「フロッピーディスクドライブ」「ハードディスクドライブ」の順番)
起動用のデバイスを検索する順番を設定します。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ	
起動	
起動デバイスの優先順位	項目ヘルプ
1. [フロッピーディスクドライブ] 2. [ハードディスクドライブ]	< >または< >キーを押して、順位を変更するデバイスを選択します。 <Space>キーを押すと選択したデバイスがリストの上側に移動し、<=>キーを押すとリストの下側に移動します。
F1 ヘルプ Esc 終了	項目選択 -/Space 値の変更 メニュー選択 Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了

⏏ または ⏎ で優先順位を変更したいデバイスを選択し、順位を上げたいときは 、順位を下げたいときは を押します。

- フロッピーディスクドライブ
- ハードディスクドライブ

アドバイス

優先順位を一時的に変更したいときは

起動時の自己診断テスト中に **[Esc]** を押すと、「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動用のデバイスを **[↑]** または **[↓]** で選択し、**[Enter]** を押してください。「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

起動時のメニュー
1. フロッピーディスクドライブ 2. ハードディスクドライブ
<BIOSセットアップを起動>

「情報」メニュー

「情報」メニューは、BIOSやパソコン本体についての情報を表示するためのメニューです。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
					項目ヘルプ	
BIOS版数:		1.XX				
BIOS日付:		1998/XX/XX				
BIOS領域:		E800h - FFFFh				
CPUタイプ:		Pentium MMX(R)				
CPU速度:		233 MHz				
L1キャッシュ:		32 KB				
L2キャッシュ:		512 KB				
全メモリ容量:		64 MB				
標準メモリ:		32 MB SDRAM				
増設メモリ:		32 MB SDRAM				
資産番号:		未定義				
F1 ヘルプ	項目選択	-/Space	値の変更	F9	標準設定	
Esc 終了	メニュー選択	Enter	▶サブメニュー選択	F10	保存して終了	

BIOS 版数

BIOS のバージョン番号が表示されます。

BIOS 日付

BIOS の日付が表示されます。

BIOS 領域

BIOS 領域のアドレスが表示されます。

CPU タイプ

CPU のタイプが表示されます。

CPU 速度

CPU のクロック速度が表示されます。

L1 キャッシュ

1 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

L2 キャッシュ

2 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

全メモリ容量

搭載しているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。

標準メモリ

内蔵されているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

増設メモリ

拡張RAMモジュールスロットに取り付けているメモリの容量が表示されます。拡張RAMモジュールスロットにメモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。

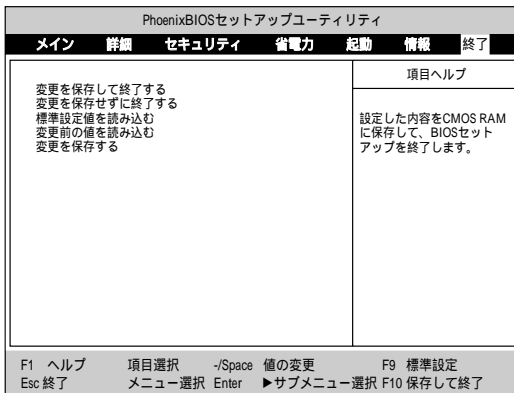
資産番号

本パソコンでは「未定義」と表示されます。

「終了」メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

詳しくは「BIOS セットアップの操作」(●▶ P.129)をご覧ください。



変更を保存して終了する

変更した設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了したいときに選択します。

変更を保存せずに終了する

変更した設定内容を保存しないで、変更前の設定のままで BIOS セットアップを終了したいときに選択します。

標準設定値を読み込む

すべての設定項目の値を、ご購入時の設定（標準設定値）に戻したいときに選択します。

変更前の値を読み込む

すべての設定項目に変更前の値を読み込んで、変更を取り消したいときに選択します。

変更を保存する

変更した設定内容をいったん保存して、設定を続けたいときに選択します。

6

BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、BIOS のパスワード機能について説明します。

BIOS のパスワード機能を使うことによって、特定の人以外が本パソコンを使用できないように制限したり、ハードディスクのデータが盗用されないように保護したりできます。

パスワード機能について

設定できるパスワードの種類

次の2つのパスワードが設定できます。パスワードによって制限できる機能が違います。

管理者用パスワード

本パソコンをお買い求めになった方などが使用するパスワードです。

パスワード機能を使うときは、必ず設定してください。

ユーザー用パスワード

「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。

パスワードで制限 / 保護できる機能

BIOS セットアップの起動

パスワードを入力しないと BIOS セットアップが起動しないように制限します。

「管理者用パスワード」を設定すると、自動的に働きます。

起動時のパスワード

パスワードを入力しないと OS が起動しないように制限します。

レジューム時のパスワード

サスペンド（一時停止）状態からレジュームするときに、起動時に入力したパスワードを入力しないと、キーボードやクイックポイントⅢ、タッチパネルが使用できないように制限します。

「起動時のパスワード」を設定しているときにのみ利用できます。

フロッピーディスクアクセス

フロッピーディスクドライブを使えないようにします。

「起動時のパスワード」を設定している場合は、管理者用パスワードで起動したときのみ、フロッピーディスクが使えるようになります。

ハードディスクセキュリティ

内蔵ハードディスクを取り外して他のパソコンに取り付けたときに、データを読み出すことができないように保護します。「起動時のパスワード」と併用することにより、パソコン本体を盗まれた場合でも、保存してあるデータの読み出しが困難になります。

アドバイス

Windows のパスワード機能について

Windows のパスワード機能は BIOS の機能とは異なり、ハードディスクのデータを保護することはできません。

パスワードを設定する

パスワードを設定するときは、以下の操作を行ってください。



ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときのみ設定できます。

重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコーセンターまでご相談ください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
詳しくは「BIOS セットアップを開始する」(●▶ P.129) をご覧ください。
- 2  または  を押して、「セキュリティ」メニューを表示します。

- 3 **[↑]** または **[↓]** で「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」を選択し、**[Enter]** を押します。
パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。 []
新しいパスワードを確認して下さい。 []

- 4 設定したいパスワード（半角英数字、7文字まで）を入力します。
英字の大文字と小文字は区別されません。入力した文字は表示されません。

アドバイス

設定を中止するには
[Esc] を押してください。

- 5 **[Enter]** を押します。
カーソルが、下の欄に移動します。
- 6 確認のため、設定したパスワードをもう一度入力します。
- 7 **[Enter]** を押します。
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

アドバイス

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]** を押して、もう一度手順 4 からやり直してください。設定を中止するときは **[Esc]** を押します。

- 8 **[Enter]** を押します。
これでパスワードが設定されました。

パスワードを入力する

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワード入力が必要されま
す。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき
- サスペンド（一時停止）状態からレジュームするとき

BIOS セットアップや本パソコンの起動時のパスワード入力

「パスワードを入力してください。」というメッセージが表示されます。設定してある
パスワードを入力して、**[Enter]** を押してください。

アドバイス

誤ったパスワードを 3 回入力したときは

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードが一切反応し
なくなり、本パソコンが使用できなくなります。この場合は、いったん MAIN スイッチ
で本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してから、正しいパスワードを入力
してください。

「ユーザー用パスワード」で BIOS セットアップを起動すると
設定できる機能が制限されます。

レジューム時のパスワード入力

パスワード入力の画面は表示されず、状態表示 LCD に **A** と **IT** が交互に点滅しま
す。この状態では、パスワード入力以外のキーボード操作とクイックポイント III や
タッチパネルの操作ができません。


この状態を解除するには、本パソコンの起動時に入力したパスワードと同じパスワー
ドを入力して、**[Enter]** を押します。

アドバイス

誤ったパスワードを入力したとき

正しいパスワードを入力しないと、この状態は解除されません。

Windows 98 を使用しているときは

「コントロールパネル」の （電源の管理）で、「スタンバイ状態から復帰するときにパ
スワードの入力を求める」を設定しても、サスペンド（一時停止）状態からレジューム
するときのパスワード入力を設定することができます。






レジューム後にタッチパネルが正しく動作しない場合は

タッチパネルドライバの更新が行われていません。「タッチパネルドライバの更新」
（**▶ P.12）の操作を行ってください。


パスワードを変更 / 削除する

パスワードを変更する

設定してあるパスワードを変更したいときは、以下の操作を行ってください。



- 1 BIOS セットアップを起動します。
詳しくは、「BIOS セットアップを開始する」(**▶ P.129)をご覧ください。
- 2  または  を押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3  または  で「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」を選択し、 を押します。
パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定		
現在のパスワードを入力して下さい。	[]
新しいパスワードを入力して下さい。	[]
新しいパスワードを確認して下さい。	[]

- 4 設定してあるパスワードを入力し、 を押します。
カーソルが、次の欄に移動します。


アドバイス

入力したパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。 を押して、もう一度入力し直してください。設定を中止するときは  を押します。

誤ったパスワードを 3 回入力したとき

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、キーボードが一切反応しなくなります。この場合は、いったん MAIN スイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直して BIOS セットアップを起動してください。なお、BIOS セットアップの起動時にも、パスワードの入力が要求されます。

- 5 新しく設定したいパスワード(半角英数字、7文字まで)を入力し、 を押します。
英字の大文字と小文字の区別はありません。
カーソルが、下の欄に移動します。

- 6 確認のため、新しく設定したパスワードをもう一度入力し、**[Enter]**を押します。
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

アドバイス

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、もう一度手順5からやり直してください。設定を中止するときは**[Esc]**を押します。

- 7 **[Enter]**を押します。
これで新しいパスワードが設定されました。

パスワードを削除する

設定してあるパスワードを削除したいときは、「パスワードを変更する」(●▶ P.173) の手順5と6で、何も入力せずに**[Enter]**を押してください。

5

困ったときには

本パソコンを使っていて、トラブルが発生したときや意味のわからないメッセージが表示されたときなど、「故障かな？」と思ったときに確認していただきたい項目について説明します。困ったときの参考としてお使いください。

1. 困ったときのQ & A 176
2. BIOS が表示するメッセージ 184
3. それでも解決できないときは 191

1

困ったときのQ & A

ここでは、本パソコンが動かなくなった、画面が消えてしまったなど、本パソコンを使っていて「故障かな?」と思ったときの対処法について、Q & A形式で説明しています。

Q 電源が入らないのですが?

A 次の点を確認してください。

原因	対処法
ACアダプタが接続されていない。	ご購入後、最初にお使いになるときは、ACアダプタを接続し、MAINスイッチをONにしてください。
ACアダプタが正しく接続されていない。	コンセントと本パソコンに正しく接続し直してください。
MAINスイッチがOFFになっている。	MAINスイッチがONになっていないと、SUS/RESスイッチを押しても電源は入りません。MAINスイッチをONにしてください。
バッテリーが充電されていない。	MAINスイッチがONのとき、警告音が鳴ったら、バッテリー残量が少なくなっています。そのままバッテリーで使い続けると、電源が入らなくなります。ACアダプタを接続してお使いください。
長期間使用していなかった。	長期間お使いにならないと、バッテリーは自然に放電します。お使いになるときは、ACアダプタを接続し、MAINスイッチをONにしてください。

以上の点を確認しても電源が入らない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

Q 電源を入れてもWindowsが起動しないのですが?

A 画面に「<F1>キーを押すと継続、<F2>キーを押すとセットアップを起動します。」というメッセージが表示されている場合は、パソコン内部に何らかのエラーが発生しています。画面にエラーメッセージが表示されていますので、「BIOSが表示するメッセージ」(●▶ P.184)をご覧ください。エラー解消の操作を行ってください。

Q 画面に何も表示されません。

A 次の点を確認してください。

状態表示 LCD に①が表示されている場合

原因	対処法
省電力機能で液晶ディスプレイが消えている。	クイックポイントⅢに触れるか、 [Shift] を押してください。
外付けCRTディスプレイに表示するように設定されている。	[Fn] を押しながら [F10] を何度か押してください ([Fn] を押しながら [F10] を押すたびに表示装置が切り替わります)。

状態表示 LCD に①が点滅表示または消灯している場合

原因	対処法
サスペンド(一時停止)状態になっている(①が点滅表示)	SUS/RESスイッチを押して、本パソコンをレジュームさせてください。バッテリー残量不足のためにレジュームしない場合は、ACアダプタを接続してください。
電源OFF状態になっている(①が消灯)	MAINスイッチがOFFになっていれば、ONにしてください。ONになっているときは、SUS/RESスイッチを押してください。

状態表示 LCD に何も表示されていない場合

原因	対処法
MAINスイッチがOFFになっている。	MAINスイッチをONにしてください。バッテリー残量不足のために起動しない場合は、ACアダプタを接続してください。

Q しばらく作業しないと画面が消えてしまいます。

A これは、省電力機能が働いたためです。省電力機能とは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、パソコンの消費電力を抑える機能です。次の操作を行って画面を表示してください。

- ・ 状態表示 LCD に①が表示されている場合は、**[Shift]**を押すか、クイックポイントⅢに触れてください。
- ・ 状態表示 LCD に①が点滅している場合は、SUS/RESスイッチを押してください。

Q フロッピーディスクをセットしているのに、画面にエラーメッセージが出て使えません。

A 次の点を確認してください。

原因	対処法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクのラベルを上にし、シャッター側から、しっかり差し込んでください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてください。
フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。	フロッピーディスクの書き込み禁止タブを、書き込み可能な位置に動かしてください。
フロッピーディスクユニットが正しく取り付けられていない。	「フロッピーディスクユニットを取り付ける」(●▶ P.52)をご覧ください、フロッピーディスクユニットを正しく取り付けてください。
フロッピーディスクが壊れている。	他のフロッピーディスクで試してみてください。他のフロッピーディスクが使える、使えなかったフロッピーディスクが破損している可能性があります。
フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れている。	「フロッピーディスクユニットのお手入れ」(●▶ P.58)をご覧ください、クリーニングフロッピー(別売)で、ヘッドの汚れを落としてください。
フロッピーディスクドライブのタイプが正しく設定されていない。	BIOS セットアップを実行し、「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」を「1.44/1.2 MB 3.5"」に設定してください。
BIOS セットアップで、「詳細」メニューの「周辺機器設定」で「フロッピーコントローラ」が「使用しない」に設定されている。	BIOS セットアップを実行し、「詳細」メニューの「周辺機器設定」で「フロッピーコントローラ」を「使用する」に設定してください。
BIOS セットアップで「セキュリティ」メニューの「フロッピーディスクアクセス」が「管理者のみ可能」に設定されている。	BIOS セットアップを実行し、「セキュリティ」メニューの「フロッピーディスクアクセス」を「常に可能」に設定してください。

Q 充電されないのですが？

A 次の点を確認してください。

原因	対処法
ACアダプタが正しく接続されていない。	コンセントと本パソコンに正しく接続し直してください。
バッテリーまたはパソコン本体が熱くなっている。 (状態表示LCDの→が点滅)	周囲の温度が高いときに、バッテリー保護機能が働いて充電を止めることがあります。 いったんサスペンドで一時停止の状態にしてください。適温に戻ると、自動的に充電が再開されます。
パソコン本体が冷えてしまっている。 (状態表示LCDの→が点滅)	バッテリーの温度が5℃以下になっていると、バッテリー保護機能が働いて、充電を止めることがあります。 本パソコンを暖かい所に置いて、ACアダプタを接続し直してください。適温に戻ると自動的に充電が再開されます。
充電を途中で中断した。	充電が完了する前に、ACアダプタを取り外したり、本パソコンを使用したりすると、バッテリーの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合には、本パソコンをしばらくの間バッテリーで稼働させてから、もう一度充電し直してください。
バッテリーが正しく取り付けられていない。	「バッテリーパックを交換する」(●▶ P.92)をご覧ください。

Q 状態表示LCDのバッテリー残量表示の点滅が止まりません。

A バッテリーの残量表示の点滅には、次の3種類があります。

 が点滅している場合

充電が完了していません。点滅が止まるまでACアダプタを取り外さないでください。

 が点滅している場合

バッテリー残量が12%以下になっています。ACアダプタを接続してください。

 が点滅している場合

バッテリーパックの取り付けをやり直してください。それでも表示される場合は、バッテリーパックが異常です。新しいバッテリーパックと交換してください。

交換のしかたは、「バッテリーパックを交換する」(●▶ P.92)をご覧ください。

Q 省電力機能が動きません。

A 次の点を確認してください。


原因	対処法
画面の書き替えを行うプログラムを実行している。	キーボードやクイックポイントⅢを操作していても、スクリーンセーバーなどが画面の書き替えを行うと、省電力機能は実行されません。 省電力機能を実行させるためには、これらのプログラムを終了してください。

Q スピーカーから音が出ません。


A 本体右側面の音量ボリュームを調節して適正な音量にしてください。

ボリュームを調節しても音が出ないときは、**[Fn]**を押しながら**[F3]**を押してください。「ピッ」という音がすると、スピーカーが「ON」になります。




それでも音が出ないときは、ヘッドホン・ジャックにヘッドホンが接続されていないか、確認してください。ヘッドホンが接続されていると、スピーカーから音が出ません。ヘッドホン・ジャックからヘッドホンを取り外してください。

ヘッドホンが接続されていない場合は、タスクバーの (音量)をダブルクリックして、「ボリューム コントロール」ウィンドウを表示し、音量を調節してください。

Q スピーカーの音量調節ができません。

A スピーカーの音量ボリュームを動かしても音量が変わらない場合は、タスクバーの (音量)をダブルクリックして「ボリューム コントロール」ウィンドウを表示し、音量を調節してください。




Q 音声の再生ができません。

A タスクバーのをダブルクリックし、「ボリューム コントロール」の「全ミュート」がになっているか、また「WAVE」や「MIDI」の「ミュート」がになっているか確認してください。なっていない場合は、このように設定してください。

Q タスクバーに (音量) が表示されない。



A 次の項目を順番に確認してください。

オーディオの設定を確認する

- 1 「コントロールパネル」の (マルチメディア) をクリックします。
- 2 「再生」の「優先するデバイス」にサウンドドライバ名が選ばれていない場合は、右の をクリックして、一覧からサウンドドライバ名をクリックします。
- 3 「音量の調節をタスクバーに表示する」が になっている場合は、クリックして にします。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 タスクバーに (音量) が表示されているか確認します。

以上の設定を確認しても表示されない場合は、次の項目を確認してください。

サウンドドライバの設定を確認する

- 1 「コントロールパネル」の (システム) をクリックします。
- 2 「デバイス マネージャ」タブをクリックし、「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」をダブルクリックします。
サウンドドライバが表示されない、またはドライバ名の先頭に「！」が付いている場合は、『リカバリガイド』の「サウンドドライバの再インストールと設定」をご覧ください。
- 3 サウンドドライバ名をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 4 「デバイスの使用」の「このハードウェア プロファイルで使用不可にする」の左が になっている場合は、クリックして にします。
- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「閉じる」または「OK」をクリックします。
- 7 タスクバーに (音量) が表示されているか確認します。

以上の設定を確認しても表示されない場合は、『リカバリガイド』の「サウンドドライバの再インストールと設定」をご覧ください。

それでも表示されない場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。



Q PCカードが使えません。

A 次の点を確認してください。


原因	対処法
PCカードが正しくセットされていない。	「PCカードを使う」(**▶ P.95) をご覧になり、PCカードを正しくセットしてください。
PCカードのドライバがインストールされていない。	PCカードにWindows対応のドライバが添付されている場合、ドライバをインストールする必要があります。「PCカードを使う」(**▶ P.95) とPCカードのマニュアルをご覧ください。

Q SCSI カードが使えません。

A 次の手順で、SCSIカードのドライバがインストールされているか確認してください。

- 1 「コントロールパネル」の  (システム) をクリックする。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、SCSIコントローラが登録されているか確認する。
- 3 登録されていない場合は、「コントロールパネル」の  (ハードウェアの追加) をクリックし、SCSIカードの検出とドライバのインストールを行う。

Q アプリケーションのインストールが正常に行えません。

A アプリケーションをインストールするときは、実行中のすべてのアプリケーションを終了させてから行ってください。ウィルス検出ソフト(VirusScan)を常駐させている場合、その影響が考えられます。タスクバーの  (McAfee VirusScan Scheduler) を右クリックしてメニューを表示させ、「終了」をクリックしてください。

すべてのアプリケーションを終了させてもインストールが正常に行われなときは、インストールするアプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

Q アプリケーションの操作中に動かなくなったり、Windows が正常に再起動、または終了しないのですが？

A **[Ctrl]** と **[Alt]** を押しながら **[Del]** を押すと、「プログラムの強制終了」ウィンドウが表示されます。使用中のアプリケーション名をクリックし、「終了」をクリックすれば、動かなくなったアプリケーションを強制終了させることができます。

[Ctrl] と **[Alt]** を押しながら **[Del]** を押してしばらくしても何も動かない場合には、再度 **[Ctrl]** と **[Alt]** を押しながら **[Del]** を押して、Windows を強制終了してください。強制終了できない場合は、MAINスイッチをOFFにして電源を切ってください。約10秒待ってからMAINスイッチをONにすると、MS-DOS画面でスキャンディスクが実行されたあと、Windows が起動します。

いずれの場合でも、作業中のデータは保存されませんので、ご注意ください。



Q MS-DOS モードの英語モードで、「¥」の文字が表示されません。

A MS-DOSモードの英語モードでは、「¥」は「\」(バックslashと読みます)になります。キーボードから「¥」を入力しても、画面では「\」と表示されます。

Q 「～(から)」を入力したいのですが？

A お使いの日本語入力システムによって、入力方法が違います。たとえば「MS-IME98」の場合は、かなが入力できる状態で「から」と入力して変換します。

Q 「 (チルダ)」を入力したいのですが？

A 「 (チルダ)」は、キーボードに刻印されている  では、入力することはできません。入力するには、日本語入力システムがオフの状態で、**(Shift)** を押しながら  を押します。

2

BIOS が表示するメッセージ

本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアに異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的にチェックし、その結果をメッセージとして黒い画面に表示します。

BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

- ① <ESC>キーを押すと自己診断画面、<F2>キーを押すとBIOSセットアップを起動します。

起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。メッセージが表示されている間に **[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動します。

また、**[Esc]** を押すと、起動時の自己診断画面が表示され、自己診断テストが完了すると「起動時のメニュー」という画面が表示されます。起動ドライブを **[↑]** または **[↓]** で選択して、**[Enter]** を押してください。「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。

起動時のメニュー
1 . フロッピーディスクドライブ
2 . ハードディスクドライブ
<BIOSセットアップを起動>

- ② <F2> キーを押すと、BIOS セットアップを起動します。
起動時の自己診断画面の下に表示され、メッセージが表示されている間に **[F2]** を押すと、BIOS セットアップが起動します。
- ③ BIOS セットアップを起動しています ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- ④ 0640K システムメモリ テスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ⑤ nnnnM 拡張メモリ テスト完了。
拡張メモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑥ nnnnK メモリキャッシュ テスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑦ システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ⑧ ビデオ BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
ビデオ BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ⑨ マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、ポインティングデバイスが使えるようになったことを示しています。

アドバイス

正常時のメッセージを表示するには

「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、**[Esc]** を押します。

常に表示させたいときは、BIOS セットアップの「起動」メニューで、「起動時の自己診断画面」を「表示する」に設定します。

エラーメッセージ

- ⑩ Invalid system disk
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、**[Enter]** などを押してください。
- ⑪ Non-System disk or disk error
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク(「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」など)以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、**[Enter]** などを押してください。
- ⑫ Operating system not found
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

- ⑬ システムメモリエラー。オフセットアドレス: xxxx
誤りビット: zzzz zzzz
システムメモリのテスト中に、アドレスxxxxでエラーが発見されたことを示しています。
拡張RAMモジュールスロットに取り付けられているメモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑭ 拡張メモリエラー。オフセットアドレス: xxxx
誤りビット: zzzz zzzz
拡張メモリのテスト中に、アドレスxxxxでエラーが発見されたことを示しています。
拡張RAMモジュールスロットのメモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。詳しくは、「メモリを増やす」(●▶ P.113)をご覧ください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑮ メモリキャッシュのエラーです。 - キャッシュは使用できません。
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑯ キーボードコントローラのエラーです。
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑰ キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑱ フロッピーディスク A のエラーです。
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ⑲ ディスクエラーです。: ハードディスク n
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

- ⑳ システムタイマーのエラーです。
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ㉑ リアルタイムクロックのエラーです。
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ㉒ システムCMOSのチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。
CMOS RAMのテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
[F2] キーを押してBIOSセットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- ㉓ 前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。
前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中で電源を切ってしまったり、BIOSセットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は[F1]を押してください。BIOSセットアップを起動して設定を確認する場合は[F2]を押してください。
- ㉔ <F1>キーを押すと継続、<F2>キーを押すとセットアップを起動します。
起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OSを起動する前に本メッセージが表示されます。[F1]を押すとOSの起動を開始し、[F2]を押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。
- ㉕ 日付と時刻の設定を確認してください。
日付と時刻の設定値が不正です。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- ㉖ パスワードで保護されています。: ハードディスク n
取り付けられたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。
そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」(●▶ P.169)を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。

- 27 ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
Save To Disk 領域について詳しくは、「Save To Disk 領域の作成」(●▶ P.212)をご覧ください。
- 28 ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。
Save To Disk 領域について詳しくは、「Save To Disk 領域の作成」(●▶ P.212)をご覧ください。
- 29 ハードディスクが検出されませんでした。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 30 不明な Save To Disk エラーが発生しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 31 ハードディスクからの読み取りに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 32 ハードディスクへの書き込みに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。
- 33 ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
Save To Disk 領域について詳しくは、「Save To Disk 領域の作成」(●▶ P.212)をご覧ください。

- 34 Save To Diskを行ったハードディスクが検出されなかったため、システム状態を復元できませんでした。
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Diskを行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
<F1> キーを押すと、このまま起動します。

- 35 Save To Diskを行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Diskを行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
<F1> キーを押すと、このまま起動します。

アドバイス

これ以外のメッセージが表示されたとき

電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、次の「エラーメッセージが表示されたときは」をご覧ください。手順に従って確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

エラーメッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、「BIOSが表示するメッセージ一覧」(●▶ P.184) をご覧になって対処してください。表示されたメッセージが一覧にない場合や、対処方法が分からない場合には、次の手順に従って処置を行ってください。

- 1 BIOS セットアップの設定値を確認します。
BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの該当する項目の設定値を確認してください。
それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して、起動し直してください。ご購入時の設定に戻す操作について詳しくは、「ご購入時の設定内容(標準設定値)に戻す」(●▶ P.134) をご覧ください。
- 2 オプション機器を取り外します。
オプション機器を取り付けている場合には、すべてのオプション機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

3 取り外したオプション機器を、1つずつ取り付けます。

取り外したオプション機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。また、割り込み番号（IRQ）を使用するオプション機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

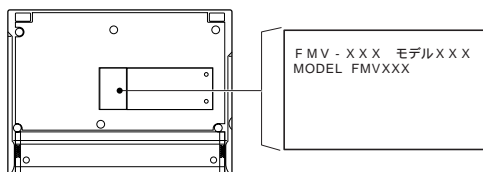
上記の処置を行っても、まだ同じメッセージが表示される場合には、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

3

それでも解決できないときは

「困ったときのQ & A」(●▶ P.176)と「BIOSが表示するメッセージ」(●▶ P.184)
 をご覧になっても問題が解決しない場合には、下記の連絡先へお問い合わせください。
 なお、お問い合わせの際には、あらかじめ機種名とMODELを確認し、「お問い合わせ
 の確認シート」(●▶ P.193)に使用環境とトラブルの状況などを記入しておいてくだ
 さい。

機種名とMODELの表記場所



連絡先

こんなときは	こちらへ
添付品の不備	ご購入元
正しく接続しても電源が 入らないなどの機器の不備	弊社パーソナルエコーセンター*、 またはご購入元
本パソコンに関する ご質問、ご相談	FMインフォメーションサービス*
駅すばあと	株式会社ヴァル研究所 ユーザーサポートセンター E-Mail support@val.co.jp TEL 03-5373-3522(操作について) 03-5373-3521(バージョンアップについて) FAX 03-5373-3523 (土日、祝祭日を除く 10:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00)

* パーソナルエコーセンターとFMインフォメーションサービスの連絡先は、添付の『サポート&サービス 富士通パソコンポート ご案内』をご覧ください。

5

困ったときには

NIFTY MANAGER for Windows95版 Ver. 4.70	ニフティ株式会社 <ul style="list-style-type: none"> 入会 / サインアップについて TEL 0120-508-502 (月~金 9:00 ~ 21:00 土 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:45) NIFTY MANAGERについて TEL 0120-326-526 (月~金 9:00 ~ 21:00 土 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:45)
はじめよう! インターネット (InfoWeb)	株式会社ジー・サーチ InfoWebサービスセンター TEL 0120-544-254 FAX 03-5442-5850 E-Mail info-staff@web.ad.jp (年末年始を除く 9:00 ~ 21:00)
10円メールマスター	マスタ - ネット株式会社 マスタ - ネット事務局 フリーダイヤル 0120-526-900 FAX 03-5269-0666 (祝祭日を除く 月~金 10:00 ~ 17:00)
VirusScan for Windows 95/98	ネットワークアソシエイツ (株) テクニカルサポートセンター TEL 03-5408-0702 (祝祭日を除く 月~金 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00)
その他	FMインフォメーションサービス*

* パーソナルエコーセンターとFMインフォメーションサービスの連絡先は、添付の『サポート&サービス 富士通パソコンポート ご案内』をご覧ください。

情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

FAXサービス (カタログ、Q&A)	043-299-3642 06-6949-3270
パソコン通信 (製品の技術情報、Q&A)	ニフティサーブ (GO FMINFO)
富士通ホームページ (製品など)	http://www.fujitsu.co.jp/

お問い合わせの確認シート

お客様の環境

お使いのパソコン 機種名:FMV- モデル:

MODEL:FMV

購入日: 年 月 日 購入店:

メモリ容量: 64MB(標準:32MB、拡張:32MB)

増設: MB(メーカー:) (型番:)

増設した周辺機器: 種類 型番号 メーカー

お使いのソフトウェア ソフトウェア名 バージョン/レベル メーカー

Windows98 4.10.1998

トラブル状況

何をしているときに起きたか

エラーメッセージが表示された場合、その内容

以前は問題なく動作していたか

以前は動作した 以前から動作しない 今回はじめて試した

6

仕様一覧

本パソコンの仕様について説明しています。

1. 仕様一覧 196

1

仕様一覧

本体仕様

品名	FMV-BIBLO MC 23		
CPU	MMX® テクノロジ Pentium® プロセッサ (233MHz)		
PCI チップセット	Intel430TX		
キャッシュメモリ	1次: 32KB (CPU内蔵) 2次: 512KB		
BIOS ROM	512KB (フラッシュROM)		
システムRAM	標準 64MB (SDRAM、メイン+拡張 32MB) / 最大 96MB 1 (拡張RAMモジュール 16 / 32 / 64MB、スロット×1)		
内蔵ハードディスク	2.5 インチ 4.3GB (固定)		
表示機能	VRAM	2MB (MagicGraph128XD™ に内蔵)	
	タッチパネル	方式: 抵抗膜方式 i/f: PS/2 インタフェース	
	液晶ディスプレイ 2	8.4インチ TFTカラー 800×600ドット (ドットピッチ 0.213mm)	
	発色数	液晶ディスプレイ ・1024×768ドット時 ・800×600ドット時 ・640×480ドット時	65536色 (仮想スクリーンモード) 26万色 26万色
		CRT表示 ・1024×768ドット時 ・800×600ドット時 ・640×480ドット時	65536色 1677万色 1677万色
		同時表示 ・1024×768ドット時 ・800×600ドット時 ・640×480ドット時	65536色 (液晶: 仮想スクリーンモード) 26万色 (液晶) / 1677万色 (CRT) 26万色 (液晶) / 1677万色 (CRT)
	音源機能	Sound Blaster Pro 互換 (PCM (16ビットステレオ) / FM音源) 内蔵スピーカ (ステレオ) ピンマイク (モノラル) 標準添付	
キーボード	一体型 OADG 配列標準 85キー Windowsキー・アプリケーションキー付き キーピッチ: W15mm × D14mm キーストローク: 2mm		
内蔵ポインティングデバイス	標準内蔵 (クイックポイント III)		
DATA/FAX モデム	通信速度 データ: 最大56Kbps (K56flex™ および V.90) FAX: 最大14.4Kbps 3		

イン ター フ ェ ー ス	本 体 内 蔵	コネクタボックス	専用コネクタ 80 ピン
		FAX モデム	モジュージャック (RJ-11)
		PC カード	JEIDA/PCMCIA 準拠 TYPE I / II x 1 スロット (CardBus / ZV ポート対応)
		赤外線ポート	IrDA1.1 準拠 x 1
		マイクイン・ジャック	3.5mm ステレオ・ミニジャック x 1 4
		ヘッドホン・ジャック	3.5mm ステレオ・ミニジャック x 1
		USB	4 ピン x 2 ポート 5
		PDC	専用コネクタ 9 ピン
	拡張キーボード	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン	
	コ ネ ク タ ボ ク ス	外部 CRT	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン
		パラレル	ECP 対応 D-SUB 25 ピン
		シリアル	RS-232C D-SUB 9 ピン (16550A 互換)
		FDD	専用コネクタ 26 ピン (標準添付 FDD 接続)
		拡張キーボード	PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
電源供給方式		AC アダプタ または リチウムイオンバッテリー (標準 x 1)	
バッテリーパック		リチウムイオン 10.8V 3200mAh	
バッテリー稼動時間		約 4.0 時間 6	
バッテリー 充電時間	急速	約 3 時間 (標準バッテリー) 7	
	標準	約 8 時間 (標準バッテリー) 8	
消費電力		約 40W 以下 (AC 電源時)	
省エネ法に基づく表示		エネルギー消費効率 約 3.5W (AC 運用時の待機時消費電力) 9	
重量		本体のみ 約 1.2kg	
外形寸法 W x D x H		本体のみ 230 x 170 x 31mm 本体 + コネクタボックス 230 x 200 x 31mm	
状態表示 LCD		反射型	
盗難防止用ロック		有り	
サポート OS		Windows98/Windows NT4.0	

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

- 1 拡張 RAM モジュールスロットに、32MB のメモリが標準搭載されています。メモリを増設するときは、32MB のメモリを取り外す必要があります。
- 2 TFT カラー液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは点灯しないドットが存在する場合があります。液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化などで多少むらが発生することがあります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 3 56Kbps は、K56flex™ および V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況によって変化します。K56flex™ および V.90 による 33.6Kbps を超える通信速度は受信時のみで送信時は 33.6Kbps が最高速度となります。日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格の通信が行えない場合があります。MS-DOS モードおよび Windows98 の MS-DOS プロンプトではお使いになれません。K56flex™ は、米ルーセントテクノロジー社等が提唱する通信規格です。
- 4 添付のマイクをお使いください。市販のマイクは使用できないことがあります。
- 5 すべての USB 規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- 6 省電力機能有り、バッテリー満充電の場合。(稼動時間は使用条件によって異なります。)
- 7 MAIN スイッチ OFF、またはサスペンド時。
- 8 装置動作中。
- 9 サスペンドモード (充電なし)

CRT ディスプレイの走査周波数について

■ CRT 表示のみの場合 ■

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数が選択できます。

解像度(ドット)	色数	水平走査周波数(kHz)	垂直走査周波数(Hz)
640 × 480	16色 ~ 1677万色	31.4	60
		37.5	72
		43.3	75
800 × 600	256色 ~ 1677万色	38.0	60
		47.0	75
		53.4	85
1024 × 768	256色 ~ 65536色	48.4	60
		56.7	70
		60.3	75

■ 同時表示モード ■

解像度	色数	水平走査周波数	垂直走査周波数
640 × 480 ドット	16色 ~ 1677万色	38.0 KHz	60 Hz
800 × 600 ドット	256色 ~ 1677万色		
1024 × 768 ドット	256色 ~ 65536色		

リソース一覧

以下の表は、本パソコンの割り込み番号(IRQ)とDMAをどのハードウェアが使っているのかをまとめたものです。

お買い求めのときの本パソコンの割り込み番号(IRQ)とDMAは、次のように設定されています。ご使用の状態によっては、異なることがあります。

割り込み番号(IRQ)

IRQ	使用状況
0	システムタイマー
1	キーボード
2	割り込みコントローラ
3	赤外線シリアルポート(COM4)
4	通信ポート(COM1)
5	サウンド
6	フロッピーディスクコントローラ
7	プリンタポート
8	システム CMOS / リアルタイムクロック
9	CardBus Controller/USB Universal Host Controller / 内蔵モデム(COM2)/PCI モデムエミュレータ
10	空き
11	空き
12	ポインティングデバイス
13	数値データプロセッサ
14	IDE コントローラ
15	空き

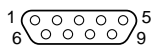
DMA

DMA	使用状況
0	空き
1	サウンド
2	フロッピーディスクコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	DMA コントローラ
5	サウンド

コネクタのピン配列と信号名

■ シリアルコネクタ ■

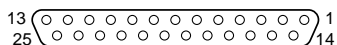
(D-SUB 9 ピン、オス)



ピン信号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	出力	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■ パラレルコネクタ ■

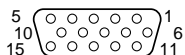
(D-SUB 25 ピン、メス)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	$\overline{\text{STROBE}}$	入出力	ストロープ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	$\overline{\text{ACK}}$	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	$\overline{\text{ERROR}}$	入力	エラー
16	$\overline{\text{INIT}}$	出力	初期化
17	$\overline{\text{SLCTIN}}$	出力	選択
18	GND	-	グラウンド
19	GND	-	グラウンド
20	GND	-	グラウンド
21	GND	-	グラウンド
22	GND	-	グラウンド
23	GND	-	グラウンド
24	GND	-	グラウンド
25	GND	-	グラウンド

■ CRT コネクタ ■

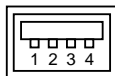
(ミニ D-SUB 15 ピン、メス)



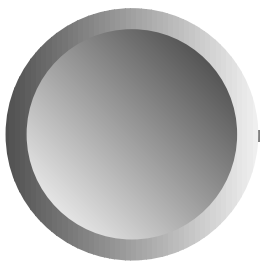
ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5	GND	-	グランド
6	GND	-	グランド
7	GND	-	グランド
8	GND	-	グランド
9	+ 5V	-	電源
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

: MAX 300mA

■ USB コネクタ ■



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	- データ信号
3	+DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グランド



付録

1. ハードディスクの領域を設定する 204
2. Save To Disk 領域の作成 212
3. その他の注意事項 216

1

ハードディスクの領域を設定する

ハードディスク上にシステムで管理する範囲を設定したものを、領域（パーティション）といいます。ご購入時は、内蔵ハードディスクの容量全体（4.3GB）を Save To Disk 領域（約 102MB）と基本 MS-DOS 領域（約 2.5GB）拡張 MS-DOS 領域（約 1.5GB）に割り当てています。

拡張 MS-DOS 領域の中には「D:」や「E:」といった（操作上は）独立したドライブを設定することができます。

重要

ご注意！ハードディスクのデータは消えてしまいます

- 基本 MS-DOS 領域を設定すると、それ以前のハードディスクのデータはすべて消えてしまいます。大切なデータは必ずフロッピーディスクなどに保存してから、設定を行ってください。
- 設定後、パソコンをご購入時の状態に戻す作業（リカバリ）が必要になります。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。

また、以下の作業を行う前に、『リカバリガイド』の「リカバリに必要な設定をする」をご覧ください。

設定の手順

ハードディスク領域の設定は次の順番で行います。

1. 現在の領域設定を確認する
2. 現在の領域を削除する
3. 基本 MS-DOS 領域を作成する
4. 拡張 MS-DOS 領域を作成し、拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成する

重要**ご購入時の領域設定を変更する場合**

「リカバリ CD-ROM」を実行するには、0.9GB以上の領域（基本 MS-DOS 領域）が、FAT32 で作成されている必要があります。

容量が少ないと、正常にリカバリされない場合や、リカバリ後にエラーが頻繁に表示される場合がありますので、余裕を持って設定してください。

Save To Disk 領域について

領域の確認や削除の画面で「Non-DOS」と表示される領域は、「Save To Disk 領域」（●▶ P.212）です。

Save To Disk 領域は、ご購入時に適切な容量が設定されているため、特に設定し直す必要はありません。Save To Disk 領域（「Non-DOS」領域）を削除してしまったときは、「Save To Disk 領域の作成」（●▶ P.212）をご覧ください。

また、Save To Disk 領域は、基本 MS-DOS 領域を作成する前か、拡張 MS-DOS 領域を作成する前に作成してください。

領域設定をはじめ

領域の設定は、電源が切れた状態で作業用の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を使用していきます。

- 1 作業用の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をフロッピーディスクユニットにセットします。
- 2 MAIN スイッチを ON にします。

アドバイス**電源が入った状態から始める場合**

Windows が起動している場合は、「スタート」メニューの「Windows の終了」から、「再起動する」を実行します。その操作ができない場合は、**[Ctrl]**と**[Alt]**を押しながら**[Del]**を2回以上押し、パソコンを再起動します。

しばらくすると、画面に「Windows 98 リカバリメニュー」が表示されます。

- 3 **[2]**を押して、「2. 領域の設定」を選びます。
ハードディスクの領域設定を行います。

しばらくすると、「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか」というメッセージが表示されます。

4 (Y) を押し、(Enter) を押します。

アドバイス

(N) を押したときは

「リカバリ CD-ROM」は実行できません。また、2.1GB を超える領域は作成できなくなります。ご購入時の状態に戻したいときは、必ず (Y) を押してください。

「大容量ディスクのサポート」とは

従来の「FAT16」形式のフォーマットで作成できる領域サイズの限界(2.1GB)を超えるサイズの領域を作成するため、「FAT32」形式でフォーマットできるようにすることです。大容量ディスクのサポートを有効にしても、512MB以下の領域は「FAT16」形式になります。

「FDISK オプション」画面が表示されます。

1. 現在の領域設定を確認する

1 (4) を押して「4. 領域情報を表示」を選び、(Enter) を押します。
「領域情報を表示」画面に、設定されている領域の一覧が表示されます。

2 領域の設定状態を確認します。
領域の「種類」は、次のように表示されます。

種類	意味
PRI DOS	基本 MS-DOS 領域です。
EXT DOS	拡張 MS-DOS 領域です。
Non-DOS	Save To Disk 領域です。

確認を終了したいときや、論理ドライブを削除したときは、手順5に進んでください。

3 拡張 MS-DOS 領域内に設定されている論理ドライブの状態を確認したいときは、(Enter) を押します。
「論理 MS-DOS ドライブ情報を表示」画面に、設定されている論理ドライブの一覧が表示されます。

4 論理ドライブの設定状態を確認します。

5 (Esc) を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。

2. 現在の領域を削除する

領域を削除するときは、次の順序で行います。

1. 拡張 MS-DOS 領域内の論理ドライブの削除
2. 拡張 MS-DOS 領域の削除
3. 基本 MS-DOS 領域の削除

基本 MS-DOS 領域 (C ドライブ) のサイズを変更しないときは、拡張 MS-DOS 領域内の論理ドライブのみを削除してください。

■ 拡張 MS-DOS 領域内の論理ドライブの削除 ■

- 1 **[3]** を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。
「MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」画面が表示されます。
- 2 **[3]** を押して「3. 拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。
「どのドライブを削除しますか ? []」というメッセージが表示されます。
- 3 削除するドライブ名のキー (**[0]** や **[E]** など) を押し、**[Enter]** を押します。
「ボリュームラベルを入力してください ? []」というメッセージが表示されます。
- 4 **[Enter]** を押します。

アドバイス

ボリュームラベルをつけている場合

一覧の「ボリュームラベル」欄にボリュームラベルが表示されている場合は、その名前を入力してから **[Enter]** を押してください。

「よろしいですか (Y/N) ? [N]」というメッセージが表示されます。

- 5 **[V]** を押し、**[Enter]** を押します。
指定したドライブ名の論理ドライブが削除されます。
拡張 MS-DOS 領域内に論理ドライブが残っていないときは、「拡張 MS-DOS 領域の論理ドライブはすべて削除されました。」と表示されます。この場合には、手順 7 に進んでください。

6 続けて手順 3 ~ 5 を繰り返す、その他の論理ドライブを削除します。
論理ドライブを残したまま終了したいときは、**[Esc]** を押して手順 8 に進んでください。

7 **[Esc]** を押します。
「論理ドライブは定義されていません。」というメッセージが表示されます。

8 **[Esc]** を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。
基本 MS-DOS 領域 (C ドライブ) のサイズを変更しないときは、続いて「4. 拡張 MS-DOS 領域を作成する」(●▶ P.210) の操作を行ってください。

■ 拡張 MS-DOS 領域の削除 ■

1 **[3]** を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。
「MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」画面が表示されます。

2 **[2]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を削除」を選び、**[Enter]** を押します。
「続けますか (Y/N) ? [N]」というメッセージが表示されます。

3 **[Y]** を押し、**[Enter]** を押します。
「拡張 MS-DOS 領域を削除しました。」というメッセージが表示されます。

4 **[Esc]** を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。

■ 基本 MS-DOS 領域の削除 ■

1 **[3]** を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。
「MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」画面が表示されます。

2 **[1]** を押して「1. 基本 MS-DOS 領域を削除」を選び、**[Enter]** を押します。
「どの基本領域を削除しますか ? [1]」というメッセージが表示されます。
種類が「Non-Dos」で容量が 100 メガバイト前後の領域は Save To Disk 用の領域です。
削除しないでください。

3 **[1]** を押し、**[Enter]** を押します。
「ボリュームラベルを入力してください ? []」というメッセージが表示されます。

- 4 **[Enter]** を押します。

アドバイス

ボリュームラベルをつけている場合

一覧の「ボリュームラベル」欄にボリュームラベルが表示されている場合は、その名前を入力してから **[Enter]** を押してください。

「よろしいですか(Y/N).....?[N]」というメッセージが表示されます。

- 5 **[Y]** を押し、**[Enter]** を押します。

「基本 MS-DOS 領域を削除しました。」というメッセージが表示されます。

- 6 **[Esc]** を押します。

「FDISK オプション」画面に戻ります。

3. 基本 MS-DOS 領域を作成する

- 1 **[1]** を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]** を押します。

- 2 **[1]** を押して「1. 基本 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]** を押します。
しばらくすると、「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますか」というメッセージが表示されます。

- 3 **[N]** を押し、**[Enter]** を押します。

アドバイス

[Y] を押したときは

「領域設定をはじめの」(●▶ P.205) の手順 4 (大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか)で、**[Y]** を押しているか **[N]** を押しているかによって、動作が異なります。

- **[Y]** を押している場合

ハードディスクのすべての領域が C ドライブになります。

「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら **[Esc]** を押し、『リカバリガイド』をご覧になって、C ドライブの内容をご購入時の状態に戻してください。

- **[N]** を押している場合

2.1GB の領域が C ドライブに割り当てられます。

「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら **[Esc]** を押し、「A:¥>」に続けて **FDISK** と入力して **[Enter]** を押します。このあとは、「大容量ディスクのサポート」を選択して、拡張 MS-DOS 領域を作成してください。

- 4 基本 MS-DOS 領域に割り当てる容量を入力します。
ご購入時と同じ設定にしたいときは、「2500」と入力します。
リカバリの操作を行うためには、900MB 以上になるように設定してください。

アドバイス

基本 MS-DOS 領域のサイズを自由に設定したいときは
「MB」で入力するときは「××××」と数値だけを入力し、「%」で入力するときは「×
× %」と単位を付けて入力します。

- 5 **[Enter]** を押します。

- 6 **[Esc]** を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。

- 7 **[2]** を押して「2. アクティブな領域を設定」を選び、**[Enter]** を押します。
「アクティブにしたい領域の番号を入力してください.....:[]」というメッセージが表示されます。

- 8 **[1]** を押し、**[Enter]** を押します。
「領域 1 がアクティブになりました。」というメッセージが表示されます。

- 9 **[Esc]** を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。
このあと、拡張 MS-DOS 領域を作成してください。

4. 拡張 MS-DOS 領域を作成する

- 1 **[1]** を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]** を押します。

- 2 **[2]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]** を押します。

アドバイス

論理ドライブのみを作成したいときは
「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」の代わりに「3. 拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS
ドライブを作成」を選んで **[Enter]** を押し、手順 5 に進んでください。

- 3 表示されている値（最大値）を確認し、**[Enter]**を押します。
「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」というメッセージが表示されます。
- 4 **[Esc]**を押します。
「拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成」画面が表示されます。
- 5 表示されている値（最大値）を確認し、**[Enter]**を押します。

アドバイス

複数の論理ドライブを作成するには

手順 5 で **[Enter]** を押す前に、論理ドライブに設定したい容量を入力します。
「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されるまで、手順 5 の操作を繰り返して論理ドライブを作成することができます。

- 6 「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」と表示されたら、**[Esc]**を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。
- 7 **[Esc]**を押します。
「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されます。
- 8 **[Esc]**を押します。
画面に「A:¥>」と表示されます。
作業用の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットしたままで、パソコンを再起動してください。
続けて『リカバリガイド』をご覧ください、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻してください。

重要

パソコンがご購入時の状態に戻ったあとに

拡張 MS-DOS 領域を設定した方は、C ドライブの内容をご購入時の状態に戻したあと、D 以降のハードディスクのドライブをフォーマットする必要があります。お使いになる前に「マイコンピュータ」からフォーマットしてください。

2

Save To Disk 領域の作成

Save To Disk 領域とは

「Save To Disk 領域」とは、ハードディスクに確保する、Save To Disk 機能専用の保存領域のことです。Save To Disk 機能を使うと、本パソコンで行っていた作業を一時的に中断したまま本パソコンの電源を切り、バッテリーを消費しないようにすることができます。

Save To Disk 機能が実行されると、あらかじめハードディスク上に作成された Save To Disk 領域にパソコン内部の動作状態が保存され、電源が切れます。次にレジューム(再開)操作を行うと、停止時に保存した情報に基づいて、電源を切る前の状態から再開します。

アドバイス

区画形式とファイル形式

Save To Disk 領域を作成する方法には「区画形式」と「ファイル形式」とがあります。「区画形式」ではハードディスク上に Save To Disk 専用の領域(区画)が作成され、「ファイル形式」では C ドライブに作業用ファイルが作成されます。

ファイル形式についての注意

C ドライブを「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮プログラムで圧縮しているときは、Save To Disk 領域をファイル形式で作成することはできません。

また、Save To Disk 領域をファイル形式で作成しているときは、ディスク圧縮機能は使用しないでください。

Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量 = メインメモリ容量 + 6MB(ビデオメモリ容量など)

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張した場合を想定し、ご購入時には次の容量の Save To Disk 領域が、「区画形式」で設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大メインメモリの容量(増設時)	ビデオメモリ容量など
約 102MB	基本 32 + 増設 64 = 96MB	6MB

Save To Disk 領域を作成する / 変更する

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISK ユーティリティを使います。PHDISK ユーティリティ (PHDISK.EXE) は、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」に入っています。

■ PHDISK ユーティリティの使用法 ■

PHDISK ユーティリティは、Windows の「プログラム」から選択する「MS-DOS プロンプト」では正しく動作しません。

PHDISK ユーティリティを使うときは、必ず次の操作を行ってください。

- 1 作業用の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をフロッピーディスクユニットにセットします。
- 2 MAIN スイッチを ON にします。
しばらくすると、画面に「Windows98 リカバリメニュー」が表示されます。
- 3 **[4]** を押して、「4. 終了」を選びます。
「A:¥>」と表示されます。
- 4 「A:¥>」に続けて、次のコマンドを入力し、**[Enter]** を押します。

PHDISK { オプション }

```

_____ /CREATE /PARTITION
          /CREATE /FILE
          /DELETE /PARTITION
          /DELETE /FILE
          /REFORMAT /PARTITION
          /INFO
  
```

{ オプション } の部分には、上記のいずれかのオプションを入力します。詳しくは、次の「オプションの詳細」をご覧ください。

「PHDISK」だけでオプションの指定を省略すると、PHDISK の簡単な使いかたと、現在作成されている領域やファイル名などの情報が表示されます。

■ オプションの詳細 ■

- それぞれのオプションは、先頭の 1 文字だけでも有効です。たとえば、/CREATE と /C は同じです。
- 「/CREATE /PARTITION」のようにオプションを続けて入力するときは、その間に必ず半角スペースを入力してください(半角スペースは **[]** を押して入力します)。

作成： /CREATE /PARTITION
/CREATE /FILE

Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使います。

「/CREATE /PARTITION」と指定すると区画形式で、「/CREATE /FILE」と指定するとファイル形式で、現在のシステムに最適な容量の Save To Disk 領域が作成されます。

Save To Disk 領域を区画形式で作成したときは、作成が終了と自動的にフォーマットされます。フォーマット中に、ハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークが付き、以後使えないようになります。

アドバイス

区画形式で作成するときは

- あらかじめ、拡張 MS-DOS 領域または基本 MS-DOS 領域を削除し、未設定の領域が充分残っているときに Save To Disk 領域を作成してください。ハードディスクの領域設定について詳しくは、「ハードディスクの領域を設定する」(**▶ P.204) をご覧ください。
- Save To Disk 領域を区画形式で作成すると、ファイル形式で作成したときよりも、大きな容量が必要になります。

Save To Disk 領域を作成したときは

作成後に、必ず再起動してください。再起動せずに Save To Disk 機能を利用すると、正しく動作しないことがあります。

.....

削除： /DELETE /PARTITION
/DELETE /FILE

/DELETE /PARTITION を指定すると、区画形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。

/DELETE /FILE を指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。

Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって新たに作成し直します。現在のメモリ容量に対応した容量の Save To Disk 領域が作成されます。

アドバイス

Save To Disk 領域の容量を増やす場合

区画として作成された Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK ユーティリティを使って減らす必要があります。FDISK によって MS-DOS 領域の容量を変更すると、その MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。

作業前に必ず大切なデータのバックアップを行ってください。

.....

再フォーマット： /REFORMAT/PARTITION

区画形式で作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。

このオプションは、Save To Disk 機能の使用中に、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタが見つかった場合は、そのセクタにマークが付き、以後使えないようになります。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。

詳細情報： /INFO

すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

【区画形式で作成した場合の表示例】

Save To Disk 領域詳細情報:

開始セクタ: XXXXXXX (ヘッド X、シリンダ XXX、セクタ X)

全容量: XXXXXXXK バイト

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

【ファイル形式で作成した場合の表示例】

Save To Disk 情報:

現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C:\\$SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、及び読取専用です。

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

3

その他の注意事項

本パソコンをお使いになる上で注意していただきたいことなどを記載しています。

サポートしているその他のOS

本パソコンでは、Windows98のほかに、Windows NT4.0をサポートしています。詳しくは、インターネットの「FM WORLD」のホームページをご覧ください。URLは次のとおりです。

<http://www.fmworld.ne.jp/support/hikken/index.html>

パーソナルエコーセンターへ連絡する前に

パソコンが起動できない場合は、以下の点を再確認してください。

- フロッピーディスクユニットにフロッピーディスクを入れたまま起動していませんか？
- バッテリーは充電されていますか？

パーソナルエコーセンターに連絡するときは

どうしても原因がわからないときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。そのときに、事前に以下のことを確認して、保守担当に伝えられるようにしておいてください。

- パソコンの機種名とモデル名(パソコンの下面のラベルに表示されています)および購入時期
- 使用しているソフトウェア、また、そのバージョン、レベル
- BIOSセットアップ情報
- 取り付けているオプション機器の種類
- 取り付けている拡張メモリの容量
- 現象(何をしているときに何が起きたか、画面にどのようなメッセージが表示されたか)
- 発生日時

パーソナルエコーセンターと、FMインフォメーションサービスの連絡先は、『サポート&サービス 富士通パソコンサポート ご案内』をご覧ください。

索引

数字

3 モードドライブ 55

A

ACPI 機能 68
AC アダプタ 32
AC アダプタ表示 30

B

BIOS が表示するメッセージ 184
BIOS セットアップ 128
 ~ の操作 129
 ~ を購入時の状態に戻す 134
BIOS のパスワード機能 169
 ~ の設定 170
 ~ の変更 173
 ~ の削除 174

C

Caps Lock (キャプスロック) 表示 ... 30
CD-ROM ドライブ 100
CMOS RAM 128
CRT コネクタ 48, 202
CRT ディスプレイ 117
 ~ の接続 117
 ~ への切り替え 119, 153

D

DC-IN コネクタ 27
DMA 199

E

ECP モード 149

H

High Color 79

I

IRQ (割り込み番号) 199
ITU-T V.90 72

J

JEIDA 96

M

MAIN スイッチ 26, 33, 35

N

Num Lock (ニューメリカルロック) 表示 ... 30

O

OS (その他の OS) 216

P

PCMCIA 96
PC カード 95
 ~ のセット 97
 ~ の取り出し 98
 ~ の注意事項 95
PC カードアクセス表示 30
PC カードスロット 26
PC カード取り出し / ロックボタン 26, 97
PDC コネクタ 28, 103
PHDISK コマンド 213
PHS 105
PIAFS 105
PMSet98 68, 70
POST 11

Q

Q&A 176

R

RS-232C 規格対応のオプション機器 ... 122

S

Save To Disk 機能 64, 67, 161
Save To Disk 領域 205, 212

Scroll Lock (スクロールロック) 表示	31
SCSI カード	101, 125
SUS/RES スイッチ	24
SUS/RES 表示	30

T

True Color	79
------------	----

U

USB 規格対応のオプション機器	124
USB コネクタ	27, 202

V

V.90	72
------	----

W

Windows のセットアップ	3
Windows の『ファーストステップガイド』	7

Z

ZV ポート	96
--------	----

ア

アイコンを選択する	39
アラーム	69

イ

一時停止	64
インジケータ (PMSet98)	71

エ

液晶ディスプレイ	24
~の廃棄	25
エラーメッセージ	185
~が表示されたとき	189

オ

オプション機器	86
音量	180
音量ボリューム	27

カ

カーソルキー	43
解像度	79, 121
拡張キーボードコネクタ	28, 48
拡張RAM モジュール	113
拡張RAM モジュールスロット	29
仮想スクリーンモード	79, 121
かな入力	47
カバークローズスイッチ	24
画面の解像度と発色数	79, 121
画面の表示切り替え	119, 153

キ

キーボード	24, 42
~の使いかた	42
起動	176
起動時の自己診断テスト	5, 11, 165
起動時のメニュー	184
「起動」メニューの項目	140
「起動」メニューの詳細	165
キャリブレーション	40
休止状態	64
急速充電器	91

ク

クイックポイント	24, 36
クリック	37, 39
クリック方法の変更	11

ケ

携帯電話	105
携帯電話接続ケーブル	103

コ

コネクタのピン配列と信号名	200
コネクタボックス	48
コネクタボックス接続コネクタ	28
困ったとき	176

サ

再開	65, 67
再起動	34

サスペンド	65
サスペンド/レジュームスイッチ	24
サスペンド機能	64
サスペンド動作	161
サブメニューを開く	39

シ

充電	59, 91
～にかかると時間	60
～バッテリー稼働時間	60
～バッテリー残量表示	30, 61
～バッテリー充電表示	30
～急速充電器	91
「終了」メニューの項目	141
「終了」メニューの詳細	168
仕様一覧	196
「詳細」メニューの項目	137
「詳細」メニューの詳細	146
状態表示 LCD	24, 30
省電力機能 (BIOS)	69, 159
「省電力」メニューの項目	139
「省電力」メニューの詳細	159
「情報」メニューの項目	140
「情報」メニューの詳細	167
所在地情報	9, 75
シリアルコネクタ	48, 122, 200

ス

スタンバイ	64
スピーカー	24, 180

セ

赤外線通信ポート	26
「セキュリティ」メニューの項目	138
「セキュリティ」メニューの詳細	155
接続カード	105
接続コネクタ	48
接続ネジ	48
節電	68
接続・セット・取り付け	
～ ACアダプタ	32
～ CRTディスプレイ	117
～ PCカード	97
～ PHS	105

～ RS-232C 規格対応のオプション機器	122
～ USB 規格対応のオプション機器	124
～ 携帯電話	103
～ コネクタボックス	49
～ シリアルコネクタ	122
～ テンキーボード	111
～ 電話回線	72
～ ハードディスク	125
～ バッテリーパック	92
～ プリンタ	108
～ フロッピーディスク	57
～ フロッピーディスクユニット	52
～ メモリ (拡張 RAM モジュール)	113

設定

～ BIOS セットアップ	129
～ BIOS セットアップを購入時の状態に戻す	134
～ ECP モード	149
～ Save To Disk 領域	213
～ 解像度	80
～ 所在地情報	75
～ タッチパネルの調整	40
～ ハードディスクの領域	204
～ パスワード	170
～ 発色数	80
～ 表示装置の切り替え	119, 153

ソ

走査周波数	198
外付けハードディスク	125

タ

待機状態	66
タッチパネル	24, 38
～の調整	40
ダブルクリック	36, 39

チ

注意事項	
～ PC カード	95
～ 赤外線通信	26
～ バッテリー	63
～ フロッピーディスク	56
～ フロッピーディスクユニット	54

テ

デバイスドライバ	88
テンキーボード	111
テンキーモード	42
電源	176
~を入れる	32
~を切る	33
電源設定	68
電源の管理	68
電話回線	72

ト

問い合わせ確認シート	193
盗難防止用ロック	27
ドライバ	88
ドラッグ	37, 39

ナ

内蔵バッテリーパック	29
------------------	----

ニ

入力モードの切り替え	47
------------------	----

ハ

パーソナルエコーセンター	216
ハードディスク	125
~の増設	125
~の領域設定	204
ハードディスクアクセス表示	30
廃棄	
~液晶ディスプレイ	25
~バッテリーパック	94
パスワード	8, 155, 169
~の設定	170
~の変更	173
~の削除	174
~の入力	172
発色数	79, 121
バッテリー	59
~の注意事項	63
バッテリー異常表示	62
バッテリー稼働時間	60
バッテリー残量表示	30, 61

バッテリー充電表示	30
バッテリーバック	59, 91
~の交換	92
~の廃棄	94
バッテリーバック装着表示	30
パラレルコネクタ	48, 201

ヒ

左ボタン	36
表示装置の切り替え	119, 153
標準設定値 (BIOS セットアップ) ..	134

フ

ファーストステップガイド	7
フォーマット	18, 55
プリンタ	107
フロッピーディスク	55
~のセット	56
~の取り出し	56
~取り扱い上の注意	56
フロッピーディスクユニット	52
~の取り付け	52
~の取り外し	53
~の注意事項	54
~のお手入れ	58
フロッピーディスクユニットコネクタ ..	48
分岐アダプタ	73

ヘ

ヘッドホン・ジャック	27
ペン	24, 38
~の調整	40
ペンホルダー	24

ホ

ポインタ	36
ポイント	39
本体仕様	196

マ

マイクイン・ジャック	27
マウスポインタ	36, 38, 40

ミ

- 右クリック 37, 39
- 右ボタン 36

メ

- メイン (MAIN) スイッチ 27
- 「メイン」メニューの項目 136
- 「メイン」メニューの詳細 142
- メモリ (拡張RAM モジュール) 113
 - ～の交換 113
- メモリ容量の確認 116

モ

- 文字入力 46
- モジュラーケーブル 73
- モジュラーコネクタ 26, 74
- モデム 72
- モデム着信によるレジューム 162

ユ

- ユーザー登録 20

ラ

- ライトプロテクトノッチ 57
- ラッチ 24, 32

リ

- リカバリ CD-ROM 起動ディスク 17
- リソース一覧 199
- リフレッシュレート 82
- 領域の設定 204

レ

- レジューム 65, 67, 162
- 連絡先 191

ロ

- ローマ字入力 47

ワ

- 割り込み番号 (IRQ) 199

Microsoft、Windows、MS、MS-DOSは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、MMXは、米国インテル社の登録商標です。

InfoWebは、富士通株式会社の商標です。

NeoMagic MagicGraph 128XD™は、NeoMagic™ Corporation の商標です。

K56flexは、Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

FMV-BIBLO 本体 & オプションガイド

B3FH-5151-01-01

発行日 1999年1月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

©9902-02

本体 & オプション FMV-BIBLO インストールガイド



FUJITSU



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。

